

平成13年度

岩手県農業研究センター 年報

平成14年6月



# 目 次

## I 農業研究センターの概要

1	組織機構・職員数	1
2	会議、委員会、部会等の運営	2
(1)	農業試験研究推進会議等の開催	2
ア	課題編成	2
イ	成果検討	4
ウ	設計会議	5
(2)	企画運営会議、全体会議の概要	7
(3)	委員会等の運営	9
ア	ほ場管理委員会	9
イ	図書管理運営委員会	9
ウ	参観デー等企画運営委員会	9
エ	特許審査委員会	10
オ	農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会	10
カ	特定課題検討委員会	10
キ	農作物調査基準及び主要農作物栽培基準編集委員会	11
(4)	その他会議	11
ア	全国農業関係試験研究場所長会議	11
イ	都道府県農業関係試験研究場所長会議	12
ウ	岩手県試験研究機関所長等会議	12
エ	東北農業試験研究推進会議	12
オ	県内における開催学会	13

## II 試験研究の推進

1	研究活動の概要	14
2	研究室の動き	14
(1)	企画経営情報部	14
(2)	農産部	15
(3)	園芸畑作部	16
(4)	生産環境部	17
(5)	病害虫部	18
(6)	畜産研究所	19
(7)	県北農業研究所	21
3	平成13年度試験研究課題	22
(1)	細目課題分類	22
(2)	試験研究課題一覧	23
(3)	要望課題の実施	41
4	共同研究の推進	50
(1)	地域基幹農業技術体系化促進研究	50
(2)	先端技術等地域実用化研究促進事業	50
(3)	21世紀型農業経営モデル実証試験	51
(4)	岩手県生物工学研究所との共同研究	51
(5)	大学との共同研究	52
(6)	A F R研究会	52
(7)	その他共同研究	52
5	現地試験の実施	53

## III 試験研究の成果

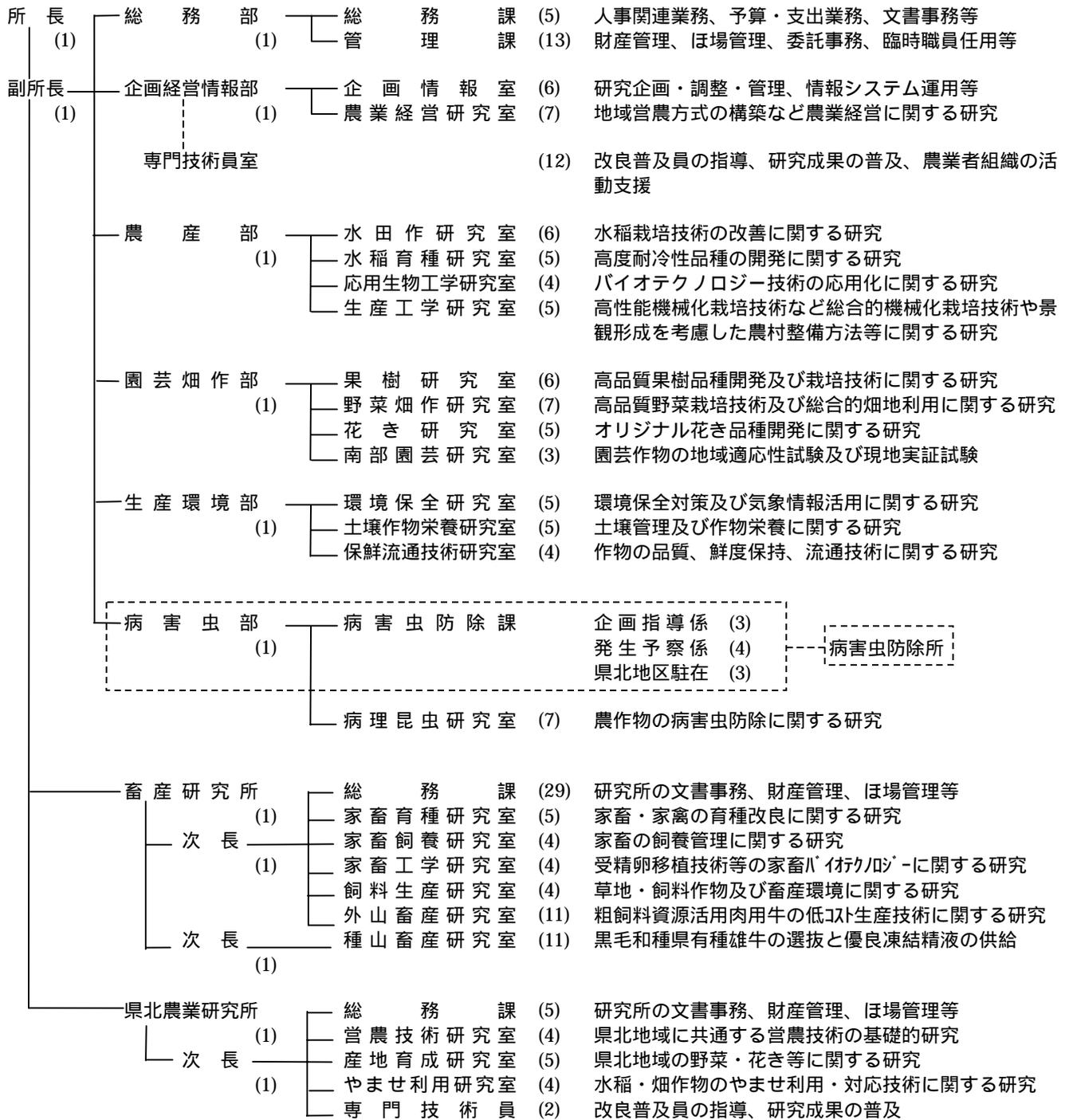
1	試験研究成果	57
(1)	普及に移しうる成果	57
(2)	技術指導に参考となる成果	58
(3)	行政施策等に反映すべき成果	60
(4)	研究開発に有効な成果	60
2	フォローアップ	62
3	東北農業試験研究成果	65

IV	試験研究成果の発表	
1	試験成績書等刊行物	67
2	学会等研究報告	68
3	雑誌等掲載	73
4	新聞等掲載	76
5	テレビ・ラジオ放送	79
6	指導資料等掲載	81
7	トライアングル	82
8	図書資料収集・提供	82
9	総合農業情報システム（ホームページ）	82
10	フラッシュ情報	82
V	指導・啓発活動	
1	技術伝達研修等の実施	83
2	現地指導・研修会等への講師派遣	84
3	視察者、見学者の受け入れ状況	91
4	春期一般公開及び参観デー	91
5	現地ふれあい農業研究センター	91
6	一日子供農業研究員	91
7	加工体験	91
8	研修生の受け入れ	92
	(1) 海外研修員	92
	(2) 短期研修生	92
	(3) 改良普及員	92
9	協議会、委員会等委員	95
VI	職員研修	
1	大学院	103
2	海外研修・派遣	103
3	国内研修への派遣	103
4	所内セミナー等	105
VII	人事、予算、財産	
1	農業研究センター予算	106
2	建物、用地	107
3	種苗登録、特許等	108
	(1) 種苗登録	108
	(2) 特許、実用新案	108
4	表彰	109
5	職員名簿	110
	沿革	113

# I 農業研究センターの概要



1 組織機構・職員数（平成 13 年 4 月 1 日現在、兼務職員を含む）



	本部		畜産研究所			県北農業研究所 (軽米町)	合計		
	(北上市)	南部園芸研究室 (陸前高田市)	(滝沢村)	外山畜産研究室 (玉山村)	種山畜産研究室 (住田町)				
行政	3	3	4		1	4	42		
研究	7	8	3	1	9	6	6	127	
技能	1	0		2	5	5	5	48	
合計	12	1	3	4	8	1	1	22	217

行政職 (42): 事務 (16)、専門技術員 (14)、病虫害部長 (1)、病虫害防除課 (11)

## 2 会議、委員会、部会等の運営

### (1) 農業試験研究推進会議等の開催

#### ア 課題編成

##### (7) 研究会議

###### 農産部会

開催日時 平成 13 年 7 月 2 日 10 時～

参集範囲 (農林水産企画室)、流通課、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、生物工学研究センター、(農業大学校)、盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員  
括弧書きは参集範囲だが欠席

協議事項

- ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置
- ・平成 14 年度に実施を予定する新規課題
- ・本年度試験を開始した課題について

###### 園芸畑作部会

開催日時 平成 13 年 7 月 3 日 9 時 30 分～(果樹・花き・畑作関係)、7 月 4 日 9 時 30 分～(野菜関係)

参集範囲 農林水産企画室、流通課、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、生物工学研究センター、農業大学校、盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員

協議事項

- ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置
- ・平成 14 年度に実施を予定する新規課題

###### 畜産部会

開催日時 平成 13 年 7 月 6 日 9 時 30 分～

参集範囲 農林水産企画室、(流通課)、農業普及技術課、(農産園芸課)、畜産課、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員

協議事項

- ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置
- ・平成 14 年度に実施を予定する新規課題
- ・平成 13 年度試験研究成果

###### 総合部会

開催日時 平成 13 年 7 月 5 日 9 時 30 分～

参集範囲 農林水産企画室、団体指導課、(流通課)、農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課、(農業大学校)、盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員

協議事項

- ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置
- ・平成 14 年度に実施を予定する新規課題
- ・本年度試験を開始した課題について

##### (1) 内部調整会議

開催日時 平成 13 年 7 月 12 日 10 時～

参集範囲 所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員

協議事項

- ・平成 14 年度試験研究を要望された課題の措置案の調整
- ・平成 14 年度実施予定新規課題案の調整

##### (2) 専門部会

###### 農産部会

開催日時 平成 13 年 7 月 31 日 10 時～

参集範囲 (岩手大学農学部)、(東北農業研究センター)、(岩手統計情報事務所)、盛岡食糧事務所、岩手県経済農業協同組合連合会、(岩手県農業共済組合連合会)、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、(岩手県農地管理開発公社)、岩手県農業機械協会、(株)水晶米いわて)、農業士、工業技術センター、病虫害防除所、岩手生物工学研究センター、(農業大学校)、盛岡農業改良普及センター、(岩手ブランド推進室)、(農林水産企画室)、(流通課)、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、農業研究センター

協議事項

- ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置
- ・平成 14 年度に実施を予定する新規課題
- ・本年度試験を開始した課題について

園芸畑作部会

開催日時 平成 13 年 7 月 25 日 10 時～（果樹・花き・畑作関係）、26 日 10 時～（野菜関係）  
参集範囲 （岩手大学農学部）（東北農業研究センター）、岩手統計情報事務所、（果樹研究所リンゴ研究部）岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県果樹協会、（岩手県食品産業協議会）農業士、工業技術センター、病害虫防除所、岩手生物工学研究センター、農業大学校、（花きセンター）盛岡農業改良普及センター、（農林水産企画室）（流通課）農業普及技術課、農村計画課、（農村建設課）農産園芸課、農業研究センター  
協議事項 ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置  
・平成 14 年度に実施を予定する新規課題

畜産部会

開催日時 平成 13 年 8 月 1 日 10 時～  
参集範囲 （岩手大学農学部）東北農業研究センター、（岩手統計情報事務所）家畜改良センター岩手牧場、（岩手県経済農業協同組合連合会）（岩手県農業共済組合連合会）岩手県肉牛生産公社、（家畜改良事業団盛岡種雄牛センター）岩手県畜産会、（小岩井農牧技術研究センター）農業士、（盛岡家畜保健衛生所）農業大学校、（盛岡農業改良普及センター）（農林水産企画室）（流通課）農業普及技術課、（農産園芸課）畜産課、農業研究センター  
協議事項 ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置  
・平成 14 年度に実施を予定する新規課題  
・平成 13 年度試験研究成果

総合部会

開催日時 平成 13 年 7 月 30 日 10 時～  
参集範囲 （岩手大学農学部）（東北農業研究センター）（岩手統計情報事務所）岩手県農業会議、（岩手県農協中央会）岩手県経済農業協同組合連合会、（岩手県農業共済組合連合会）岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農業卸商業協同組合、（岩手県農地管理開発公社）農業士、（工業技術センター）病害虫防除所、岩手生物工学研究センター、農業大学校、盛岡農業改良普及センター、（農林水産企画室）団体指導課、流通課、農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課、農業研究センター  
協議事項 ・平成 14 年度試験研究を要望された課題とその措置  
・平成 14 年度に実施を予定する新規課題

(I) 総合調整会議

開催日時 平成 13 年 8 月 8 日 10 時～  
参集範囲 農業普及技術課、所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員  
協議事項 ・平成 13 年度実施試験研究課題について  
・試験研究実施要望課題の措置及び実施状況  
・平成 14 年度試験研究要望課題措置案について  
・平成 14 年度課題について  
・平成 14 年度主軸研究課題について  
・平成 13 年度試験研究成果について

(オ) 推進会議

開催日時 平成 13 年 9 月 18 日 14 時 30 分～  
参集範囲 （農林水産部長）農林水産部次長、農林水産企画監、団体指導課長、流通課長、農業振興課長、農業普及技術課長、農村計画課長、総合国営対策監、農村建設課長、農産園芸課長、水田農業推進監、畜産課長、生物工学研究所長、農業大学校校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター職員  
協議事項 ・平成 13 年度試験研究成果について  
・平成 14 年度試験研究要望課題の措置について  
・重点研究課題の進捗状況及び平成 14 年度実施予定新規課題について

## イ 成果検討

### (7) 研究会議

#### 農産部会

開催日時 平成 13 年 12 月 10 日 9 時～

参集範囲 農林水産企画室、(流通課) 農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、生物工学研究センター、(農業大学校) 盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員  
括弧書きは参集範囲だが欠席

協議事項

- ・平成 13 年度試験成果候補課題
- ・平成 14 年度に開始を予定する新規課題
- ・平成 13 年度技術情報(病害虫防除課)

#### 園芸畑作部会

開催日時 平成 13 年 12 月 11 日 9 時～(花き・果樹関係) 12 日 9 時～(畑作物・野菜関係)

参集範囲 農林水産企画室、(流通課) 農業普及技術課、農村計画課、(農村建設課) 農産園芸課、生物工学研究センター、(農業大学校) 盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員

協議事項

- ・平成 13 年度試験研究成果候補課題(案)について
- ・平成 14 年度試験研究新規課題(案)について

#### 畜産部会

開催日時 平成 13 年 12 月 13 日 9 時～

参集範囲 (農林水産企画室)(流通課) 農業普及技術課、(農産園芸課) 畜産課、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員

協議事項

- ・平成 13 年度試験研究成果(案)について

#### 総合部会

開催日時 平成 13 年 12 月 14 日 9 時～

参集範囲 農林水産企画室、団体指導課、(流通課) 農業振興課、農業普及技術課、(農産園芸課)(農業大学校) 盛岡農業改良普及センター、農業研究センター職員

協議事項

- ・平成 13 年度試験研究成果候補課題について

### (1) 内部調整会議

開催日時 平成 13 年 12 月 17 日 11 時～

参集範囲 所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員

協議事項

- ・平成 13 年度試験研究成果案の調整
- ・平成 14 年度実施予定新規課題案の調整

### (7) 専門部会

#### 農産部会

開催日時 平成 13 年 12 月 21 日 9 時 30 分～

参集範囲 (岩手大学農学部)(東北農業研究センター) 岩手統計情報事務所、盛岡食糧事務所、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手県農地管理開発公社、岩手県農業機械協会、(株)水晶米いわて) 農業士、工業技術センター、病害虫防除所、岩手生物工学研究センター、(農業大学校)(盛岡農業改良普及センター)(岩手ブランド推進室)(農林水産企画室)(流通課) 農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、農業研究センター

協議事項

- ・平成 13 年度試験成果候補課題
- ・平成 14 年度に開始を予定する新規課題
- ・平成 13 年度技術情報(病害虫防除課)

#### 園芸畑作部会

開催日時 平成 13 年 12 月 19 日 9 時 30 分～(果樹・花き関係) 20 日 9 時 30 分～(野菜・畑作物関係)

参集範囲 岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手統計情報事務所、果樹研究所リンゴ研究部、岩

手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県果樹協会、岩手県食品産業協議会、農業士、工業技術センター、病虫害防除所、岩手生物工学研究センター、農業大学校、花きセンター、盛岡農業改良普及センター、(農林水産企画室)(流通課)農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、農業研究センター

協議事項  
・平成13年度試験研究成果  
・平成14年度新規課題  
・病虫害防除技術情報

畜産部会  
開催日時  
参集範囲

平成13年12月25日9時30分～  
(岩手大学農学部)、東北農業研究センター、岩手統計情報事務所、家畜改良センター岩手牧場、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県肉牛生産公社、(家畜改良事業団盛岡種雄牛センター)岩手県畜産会、小岩井農牧技術研究センター、農業士、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、盛岡農業改良普及センター、(農林水産企画室)(流通課)農業普及技術課、(農産園芸課)畜産課、農業研究センター

協議事項  
・平成13年度試験研究成果(案)について

総合部会  
開催日時  
参集範囲

平成13年12月26日9時30分～  
(岩手大学農学部)(東北農業研究センター)(岩手統計情報事務所)岩手県農業会議、岩手県農協中央会、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、(岩手県農地管理開発公社)農業士、(工業技術センター)病虫害防除所、岩手生物工学研究センター、農業大学校、(盛岡農業改良普及センター)(農林水産企画室)(団体指導課)(流通課)農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課、農業研究センター

協議事項  
・平成13年度試験研究成果について

#### (I) 総合調整会議

開催日時 平成14年1月22日13時～  
参集範囲 農業普及技術課、所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員  
協議事項  
・平成13年度試験研究成果案の検討  
・平成14年度課題について  
・平成13年度の主な成果と今後の取り組みについて

#### (4) 推進会議

開催日時 平成14年2月8日14時30分～  
参集範囲 農林水産部長、農林水産部次長、農林水産企画監、団体指導課長、流通課長、農業振興課長、農業普及技術課長、農村計画課長、総合国営対策監、農村建設課長、農産園芸課長、水田農業推進監、畜産課長、生物工学研究部所長、農業大学校校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター職員  
協議事項  
・平成13年度試験研究成果について  
・平成14年度試験研究要望課題の措置について  
・重点研究課題の進捗状況及び平成14年度実施予定新規課題について

### ウ 設計会議

#### (7) 企画経営情報部

開催日時 平成14年3月13日9時30分～  
参集範囲 職員、農林水産企画室、農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課  
協議事項  
・平成14年度試験設計検討

- (イ) 農産部  
開催日時 平成 14 年 3 月 8 日 10 時 00 分～  
参集範囲 職員、農村計画課、農村建設課、農産園芸課  
協議事項 ・平成 14 年度試験設計検討
- (ロ) 園芸畑作部  
開催日時 平成 14 年 3 月 7 日 9 時 30 分～  
参集範囲 職員、農産園芸課  
協議事項 ・平成 14 年度試験設計検討
- (ハ) 生産環境部  
開催日時 平成 14 年 3 月 11 日 9 時 30 分～  
参集範囲 職員、流通課、農業普及技術課、農産園芸課、畜産課  
協議事項 ・平成 14 年度試験設計検討
- (ニ) 病害虫部  
開催日時 平成 14 年 3 月 6 日 9 時 30 分～  
参集範囲 職員、農業普及技術課  
協議事項 ・平成 14 年度試験設計検討
- (ホ) 畜産研究所  
開催日時 平成 14 年 3 月 6 日 9 時 00 分～  
参集範囲 職員、畜産課  
協議事項 ・平成 14 年度試験設計検討
- (ヘ) 県北農業研究所  
開催日時 平成 14 年 3 月 5 日 9 時 00 分～  
参集範囲 職員、農産園芸課  
協議事項 ・平成 14 年度試験設計検討

(2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容
13. 4. 9	特別会議室	(第1回企画運営会議) (1)平成13年度職員・組織について (2)平成13年度業務運営について (3)平成13年度重点推進事項について (4)平成13年度主要行事計画について (5)平成13年度4・5月の主要行内容について
13. 4.19	大会議室	(全体会議) (1)所長運営方針について (2)農業普及技術推進について (3)平成13年度各部・研究所等推進方針について (4)平成12年度各部・研究所の試験研究等推進方針について (5)農林水産部長講話
13. 5. 7	特別会議室	(第2回企画運営会議) (1)農業試験研究推進会議等の持ち方について (2)総合農業情報システムについて (3)東北農業試験研究発表会について
13. 5.29	特別会議室	(第3回企画運営会議) (1)岩手県研究開発推進連絡会議ワーキンググループについて (2)農業試験研究推進体制及び関連会議の持ち方について (3)平成14年度定数要求について (4)平成13年度政策評価について (5)現地ふれあい農業研究センターの取組み経過について
13. 6.25	特別会議室	(第4回企画運営会議) (1)岩手県研究開発推進連絡会議ワーキンググループについて (2)農業試験研究推進体制について (3)試験研究予算について (4)特定課題調査検討について (5)東北地域農林水産業試験研究成果発表会について (6)参観デーについて (7)現地ふれあい農業研究センターの持ち方について
13. 7.27	特別会議室	(第5回企画運営会議) (1)サマーレビュー関係について (2)9月補正予算について (3)特定課題調査検討について (4)参観デーについて (5)連絡事項 ・岩手県研究開発推進連絡会議について ・平成12年度研究成果フォローアップ調査結果 ・図書整理状況
13. 9. 7	特別会議室	(第6回企画運営会議) (1)栽培基準、調査基準の作成について (2)サマーレビュー結果について (3)平成15年度の研究実施体制について (4)研究課題進捗状況等ヒアリングについて

開催月日	場 所	内 容
13.10. 5	特別会議室	(第7回企画運営会議) (1)試験研究推進会議の結果について (2)平成15年度以降の研究実施体制について (3)現地ふれあい研究センター(北上)について (4)行政品質向上運動に係る業務方針管理手法の導入等について (5)下半期主要会議等について
13.11. 9	特別会議室	(第8回企画運営会議) (1)平成14年度当初予算要求概要について (2)平成15年度の研究実施体制について
13.11.26	特別会議室	(第9回企画運営会議) (1)平成13年度試験研究会議について (2)平成15年度の研究実施体制について (3)平成14年度試験研究予算に係る国庫助成等要望額の取り扱いについて
13.12.17	特別会議室	(第10回企画運営会議) (1)平成14年度予算について (2)平成15年度の研究実施体制について (3)東北の産学官連携課題案について
14.1.28	特別会議室	(第11回企画運営会議) (1)平成13年度試験研究推進会議(冬期)について ・総合調整結果 ・推進会議対応 (2)平成13年度終了課題等評価について (3)平成13年度試験研究設計会議について (4)平成14年度当初予算について (5)今後の主要な取組み事項について 平成14年度依頼研究員の取りまとめについて 年報作成について 主要研究成果の取りまとめについて 第3号研究報告、要報取りまとめについて フォローアップ調査について 春季一般公開について トライアングルの発行について 現地ふれあい農業研究センターについて (6)連絡事項 ・試験研究評価ガイドラインについて
14.2.25	特別会議室	(第12回企画運営会議) (1)試験研究推進体制の再編に係る検討案について (2)試験研究評価について (3)連絡事項 ・試験研究推進会議(冬期)結果について
14.3.25	特別会議室	(第13回企画運営会議) (1)試験研究推進体制の再編に係る要領等について (2)現地ふれあい農業研究センターについて (3)主要研究成果について (4)センター掲示板システムについて (5)4月の主要行事について

### (3) 委員会等の運営

#### ア 圃場管理委員会

開催月日	場 所	内 容
13. 4. 16	1F 小会議室	(1) 圃場管理委員会運営要領等、圃場管理委員について (2) 農管公社への作業委託業務の確認と変更等について (3) 平成 13 年度圃場利用計画の確認 (4) 技能員の配置、運営体制、研修計画等について (5) 作物残滓と堆肥場の利用法について (6) その他 旧蚕業試験場及び旧銘柄米研究室の管理について 圃場内暗渠水閘の修繕について 全場作業日について
13. 5. 2	研修室	(1) 桑園跡地利用について (2) 作物残滓の処理方法と堆肥場の設置について (3) 農管公社委託業務の増加について (4) その他 全場田植えについて
13. 6. 13	2F 小会議室	(1) 堆肥盤設置計画について (2) 平成 13 年度試験圃場への看板設置について (3) その他
13. 11. 22	1F 小会議室	(1) 堆肥製造計画について (2) 平成 14 年予算要求について (3) その他
14. 3. 4	特別会議室	(1) 平成 14 年圃場管理業務委託設計書について (2) 残さの堆肥化について (3) その他

#### イ 図書管理運営委員会

開催月日	場 所	内 容
13. 5. 23	2F 小会議室	(1) 既存図書の整理について (2) 図書のデータベース化について (3) 雑誌・資料類の製本について

#### ウ 参観デー等企画運営委員会

##### (1) 委員会

開催月日	場 所	内 容
13. 6. 25	特別会議室	(1) 岩手県農業研究センター参観デー開催日程について (2) 岩手県農業研究センター参観デーポスター・チラシの作成について
13. 7. 27	特別会議室	(1) 岩手県農業研究センター参観デー本部開催計画について (2) 畜産研究所参観デーへの本部の対応について

##### (2) 幹事会

開催月日	場 所	内 容
13. 6. 19	中会議室	(1) 岩手県農業研究センター参観デー開催日程について (2) 本部参観デー準備スケジュールについて
13. 8. 20	中会議室	(1) 岩手県農業研究センター本部参観デーマニュアルについて
14. 2. 15	研修室	(1) 平成 14 年度春季一般公開について (2) 平成 14 年度参観デーについて

エ 特許審査委員会

開催月日	場 所	内 容
13. 5.18	(書面協議)	(1) 水稲「岩南 16 号」についての勤務発明審査
13.12.25	(書面協議)	(1) 小ぎく(スプレータイプ)「アイمام」シリーズについての勤務発明審査
14. 2.25	特別会議室	(1) 「画像解析による果樹の栄養診断」についての勤務発明審査

オ 農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会

開催月日	場 所	内 容
13.10.24	小会議室	病害虫分科会 (1)要望事項に対する検討結果について (2)病害虫防除基準の改定案について 野菜 畑作物 土壌病害虫、桑、蚕 花き 水稲 果樹 (3)環境ホルモンに疑いのある農薬の取り扱いについて
13.10.26	中会議室	雑草分科会 (1)要望事項に対する検討結果について (2)雑草防除基準・成長調整剤使用基準の改訂内容について 水稲 畑作 飼料・牧草 野菜・花き 果樹・桑 (3)環境ホルモンに疑いのある農薬の取り扱いについて
13.11. 8 ～ 11. 9	中会議室  中会議室 小会議室 研修室	農作物病害虫・雑草防除基準編成会議 ・農薬安全使用分科会 (1)農薬の安全使用指針原案について ・病害虫分科会 (1)病害虫・鳥獣害防除基準原案について ・雑草分科会 (1)雑草防除基準原案及び成長調整剤の使用基準原案について

カ 特定課題検討会

開催月日	場 所	内 容
13. 7.27	特別会議室	新規チーム編成 平成 13 年度プロジェクトチーム 「有機栽培等管理技術のあり方と今後の展開方向に関する検討」
13. 8. 9	特別会議室	プロジェクト打合せ会議
14. 2.25	中会議室	特定課題検討会 ・調査検討の成果と今後の取組み方向について
14. 3.20	(書面協議)	報告書作成 平成 13 年度プロジェクトチーム 「有機栽培等管理技術のあり方と今後の展開方向に関する検討」

キ 農作物等栽培基準及び調査基準編集委員会

開催月日	場 所	内 容
13. 9. 7	特別会議室	編集委員会設置決定（第 6 回企画運営会議） 編集委員会委員 8 名
13.10. 5	特別会議室	第 1 回編集委員会 (1)編集内容及び方法 (2)執筆者の選任 (3)作業スケジュール
13.10.17	2 階小会議室	第 2 回編集委員会 (1)編集内容及び方法 (2)執筆者の選任 (3)作業スケジュール
13.11.16	中会議室	第 3 回編集委員会 (1)主要農作物栽培基準の作成状況 (2)農作物調査基準の作成状況 (3)栽培基準及び調査基準の全体構成 (4)今後のスケジュール
14. 1.15	特別会議室	第 4 回編集委員会 (1)主要農作物栽培基準の作成状況 (2)農作物調査基準の作成状況 (3)栽培基準及び調査基準の全体的調整・留意点の確認 (4)今後のスケジュール

(4) その他会議

ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
13. 6. 4	東京都	第 1 回幹事会(作物部会、園芸部会、全体) (1)平成 12 年度事業及び決算報告(監査報告) (2)新加入会員 (3)役員を選出 (4)平成 13 年度事業計画及び予算
13. 6. 4	東京都	通常総会(作物部会、園芸部会、全体) (1)平成 12 年度事業及び決算報告(監査報告) (2)新加入会員 (3)役員を選出 (4)平成 13 年度事業計画及び予算
13. 7.18 ～ 7.19	香川県	作物部会 現地検討会 (1)特別講演 (2)地元講演 (3)現地視察
13. 9.12 ～ 9.14	茨城県 埼玉県 千葉県	試験研究場所長会 現地検討会 (1)平成 14 年度農林関係予算の傾向について (2)特別講演 (3)現地視察
13.11. 1 ～ 11. 2	三重県	園芸部会 現地検討会 (1)情勢報告 (2)講演 (3)現地検討

イ 都道府県農業関係試験研究主務課長・場長会議

開催月日	場 所	内 容
13. 9.11	東京都	(1) 農林水産技術会議事務局主要情勢報告 (2) 意見交換会「都道府県と独立行政法人との連携強化について」
13. 6.28 ～ 6.29	山形県	東北地域農業関係試験研究場所長会議 (1) 各県における試験研究推進構想策定状況について (2) 平成 13 年度の主要研究課題について

ウ 岩手県試験研究機関所長等会議

開催月日	場 所	内 容
13.10.15 ～ 10.16	釜石市	(1) 岩手県試験研究機関所長等会議規約の一部改正について (2) 試験研究の総合調整に関する課題等について (3) 試験研究機関における特許の管理について (4) 試験研究機関における行政品質向上運動に係る業務方針等の策定状況について (5) 県環境保健研究センターの発足について (6) 県農業研究センターにおける I S O 14001 の取組みについて (7) 水産技術センター視察

エ 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
13. 8.28	東北農研センター	評価企画会議 (1) 新しい「東北農業試験研究推進会議」の運営について (2) 今後の地域総合研究の課題化について (3) 平成 14 年度試験研究助成事業の課題化について (4) 農業キーテクノロジーについて (5) その他 平成 13 年度研究成果移転セミナーについて
13.11.22	東北農研センター	評価企画会議 (1) 平成 13 年度東北農業試験研究推進会議の運営について (2) 平成 13 年度「行政施策上で対応が必要な試験研究問題について」 (3) 重要検討事項 地域重要研究問題及びこれを踏まえた研究推進方向について（戦略論議）
14. 2.14	東北農研センター	評価企画会議 (1) 主要研究成果の評価について (2) 主要研究成果の公表について (3) 行政部局の要望事項への取組方針の検討及び推進部会の報告 (4) 地域農業研究推進方策の課題化に関する検討 (5) 意見交換 (6) 評価委員の講評
14. 2. 7 14.2.6～7 14. 2.28	大曲市 " 盛岡市	水稲推進部会 水稲品種検討会（2. 6） 水稲栽培研究会（2. 6～7） 水稲直播研究会
14.2.4～5 14. 2. 5	福島市	畑作物推進部会 （夏）品種系統検討会
14.1.31～2.1 14.1.30～31	盛岡市	生産環境推進部会 土壌肥料研究会、病害虫研究会、斑点米カメムシ類研究会

開催月日	場 所	内 容
14. 2. 5 14. 2. 4	盛岡市	作業技術推進部会 作業技術研究会
14. 2. 1 14. 1.31	盛岡市	経営推進部会 経営研究検討会
14.2.5～6 14.2.4, 6	盛岡市	畜産推進部会 草地研究会(2.4) 牧草・飼料作物優良品種選定(2.6)
14.1.29～30 14.2.5～6	盛岡市	果樹推進部会 寒冷地果樹研究会
14.1.31～2.1 14. 1.31	盛岡市	野菜・花き推進部会 野菜部会、花き部会
14.1.31～2.1	福島市	流通・加工推進部会
14.1.29～30 14. 1.30	盛岡市	生物工学推進部会 生物工学研究会

オ 県内における開催学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
13.10.6～7	盛岡市 「岩手大学」	第132回日本獣医学会学術集会



## II 試験研究の推進



## 1 研究活動の概要

本センターでは「岩手県農業試験研究推進構想」(平成12年3月策定。以下「推進構想」と言う。)に基づき、  
バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良  
国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発  
自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発  
環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立  
地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立  
中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発  
農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発  
栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立  
など、本県の立地特性を生かしながら、新たな国際環境に対応し、持続的な展開が可能となる本県の農業を構築するため、時代を先取りした試験研究を進めることとしている。

平成13年度においては、再編整備により新たに発足した病害虫等組織の円滑な運営、プロジェクト調査研究、大学等他研究機関との連携など「研究業務の効率的推進」、各種研修や資格取得等の「研究活動の活発化」、普及組織との連携強化や農業情報システムの効果的運営など「研究成果の迅速な提供・利用」、参観デーや広報活動など「試験研究に対する県民の理解増進」、海外研修員の受け入れや専門家派遣による「国際協力の推進」に努めてきた。

また、平成13年度から新たに導入された政策評価システム並びに平成14年度実施が予定されている試験研究評価ガイドラインに対応し、平成14年度における新たな試験研究推進体制について策定した。

## 2 研究室の動き

### (1) 企画経営情報部

#### 企画情報室

研究に係る企画調整(所内組織間連絡調整、関係機関連絡調整、試験研究課題調整等)センターに関する広報及び情報システムの整備、充実を図った。

企画調整にあつては、所内諸会議(企画運営会議、全体会議等)や委員会(研究報告等企画編集委員会等)等の運営、関係機関(国、県及び関係団体)との連絡調整(推進会議等)を行うとともに、これらを含む所内の研究推進体制の定着化を図った。本年度は、新たに政策評価システムが導入され、他方試験研究評価ガイドラインの施行が平成14年度に予定されることもあり、この動きに対応した平成14年度以降の新たな試験研究推進体制のあり方について広く検討を実施し、基本方向と具体的な実施方法について策定した。

広報関係では、広報誌「トライアングル」の発刊、参観デー(本部・畜産・県北)現地ふれあい農業研究センター(釜石、千厩、北上、水沢地方振興局管内)、科学技術週間行事としての春季一般公開、一日子供農業研究員の開催及び「研究レポート」の発行等に取り組んだ。また、公開セミナーは「私の経営体験」(岩手阿部製粉株式会社代表取締役社長 阿部淳也氏)、「恵み豊かな岩手の食材」(料理研究家 梅津末子氏)、「畜産経営の活性化に向けた胚移植技術活用」((有)那須ET研究所所長 西貝正彦氏)、「ほうれんそうセミナー」(伊藤正人氏、岩脇ヨシエ氏)により、本センター及び畜産研究所、県北農業研究所を会場に実施した。

#### 農業経営研究室

農業経営の改善方策、担い手の育成方策、中山間地域活性化、県産農産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

農業経営の改善方策では、水稲作で実践されている民間3農法の特徴を整理し、いずれも慣行農法より物財費が増加するが、高価格での販売により所得を向上させており、その生産規模は収量水準や米の品質よりも販路や労働時間により規定されていることを明らかにした。地域農業の視点からは、県南部沿岸地域の圃場整備地区における意向調査や生産組織の調査から地域農業再編のための課題を提示した。

担い手の育成方策では、主業型農家のアンケート調査分析から、経営管理の実施状況、農業情報入手及び必要とする情報並びに経営者としての将来の経営意向等を整理し、今後の主業型農家育成対策のための基礎資料とした。

中山間地域活性化に関する研究では、中山間地域等直接支払制度の活用方策を解明するため、集落や市町村における取り組み事例分析から、集落の活性化につなげる制度活用上の課題を提示した。

県産農産物の販売戦略に関する研究では、花壇苗の市場データ分析から、県内の花壇苗産地においては、需要が安定している春出し出荷も見据えた生産戦略が必要であるとともに、出荷先も秋植え需要が伸びている東北地域への出荷を増やすことが販路拡大にあたって検討が必要であることを提示した。また、県外の先駆的な野菜産地においては、小規模生産者を取り込んで、直売所やインショップなどの販売先の確保による他品目少量生産体制の確立が生消間の情報交換の活発化と的確なニーズ対応を実現し、販売額の増大に結びついていることを明らかにした。

ダイコン・キャベツ作における省力機械化技術体系の経営評価では、慣行技術に対する省力効果と機械導入にあたっての必要規模を提示した。

## (2) 農産部

### 水田作研究室

水稻の品種選定、直播を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究及び水稻原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定調査では、「岩南糯 19 号」はヒメノモチより熟期がやや遅く、餅加工適性に優れることから奨励品種に編入するとともに、予備調査においてうるち 5 系統を有望と認め、新たに現地調査に供することとした。

県産米はひとめぼれが 8 年連続の“特 A”評価を、新品種「いわてっこ」は“A”の評価を得た。これら県産米の良質・安定生産技術確立のため、平成 13 年産米の作柄成立要因（作況指数 101、一等米比率全国 2 位）の解析と、産米の品質評価向上技術として、「ひとめぼれ」についての自然乾燥と機械乾燥の刈取適期の違いについてとりまとめるとともに、食味改善診断システムの開発に着手した。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稻除草剤 3 剤（初期剤 1 剤、初・中期一発剤 2 剤）を県防除基準に採用するとともに、水田雑草の最小限防除法について検討した。

省力・低コスト技術として期待される直播栽培技術については、代かき土中点播栽培の出芽・苗立ち、水管理、適用除草剤について検討し、その成果を「ひとめぼれの直播導入可能域」及び「直播栽培における雑草防除法」としてとりまとめた。また、水田農業確立の一環として WCS 用イネの刈取時期の判断指標を示した。

水稻原々種は 8 品種(78 系統)586kg、原種はうるち 6 品種 22,480kg、酒造好適米 1 品種 38kg、もち 3 品種 3,560kg（岩南糯 19 号含む）を生産した。また、優良種子生産のため、発芽能力の検定法及び浸種条件（水温・浸種期間）について継続検討した。

### 水稻育種研究室

水稻品種開発に関わる試験研究は、前年に「いわてオリジナル水稻品種開発事業」の第 1 期（平成 2 ～ 12 年度）が終了し、本年度から第 2 期（平成 13 ～ 22 年度）の計画が開始された。第 2 期では、主食用品種では、農業や化学肥料の低投入等に適応できる“環境に負荷の少ない栽培に適した品種”、気象変動の大きい地帯向けとして耐冷性が強く、良食味・品質を兼ね備えた“気象変動に対応できる安定生産品種”、低温発芽性や耐倒伏性に優れた“省力低コスト生産に向けた直播用品種”の開発を目標とし、さらに、新規需要等に対応した品種として、従来の“もち品種”“醸造用品種”の他に、業務用や加工米飯の需要が高まっている“低アミロ - ス品種”、飼料用としての利用も視野に入れた“超多収品種”、機能性食品として期待できる有色素米・巨大胚・低グルテリン米・低アレルギー米等の“新形質米品種”の開発に着手した。

各種特性検定試験や生産力検定試験の結果、岩手 65 号（早生の早・いもち強・穂発芽難・多収・良食味）、岩手 66 号（早生の早・いもち強・穂発芽難・多収・良食味）、岩手 67 号（早生の早・耐冷性極強・良質・良食味）、岩手 68 号（中生の早・強稈・耐冷性極強・いもち強・多収）、岩手 69 号（晩生の中・耐冷性極強・穂いもち強・良質・良食味）の主食用 5 系統に地方番号を付し、平成 14 年度の奨励品種決定調査用の新配布系統とした。熟期が「ヒメノモチ」よりやや遅い「中生の晩」に属し、耐倒伏性がやや強で「ヒメノモチ」より優れ、外観品質が「ヒメノモチ」並、餅加工適性が「こがねもち」並の「岩南糯 19 号」を水田作研究室と共同で成果としてとりまとめ、県奨励品種とした。

### 応用生物学研究室

当研究室は、1．遺伝子組換え作物の特性調査、2．地域遺伝資源の利用、3．革新技術支援の 3 つの重点課題に沿って研究を実施している。

- 1．遺伝子組換え作物の特性調査：生工研で育成した組換え水稻やリンゴの特性調査を実施し、水稻では閉鎖系温室内における検定対象病害であるいもち病の安定した誘発技術と、接種技術について検討中である。リンゴでは、キチナーゼ遺伝子導入主要品種 8 系統について、4 種の糸状菌病に対する検定を終了し、新たな遺伝子導入系統の検定に着手している。
- 2．地域遺伝資源の利用：主に増殖技術の開発を内容とするこの区分では、リンドウ F1 品種の採種用親株の増殖に関して、主要 4 系統の順化育成技術を明らかにし、成果としてとりまとめた。今後はこれらの均一性について検討し、増殖システムを確立する。また、本県育成のスターチス「アイスター」シリーズの種苗増殖については、その増殖システムを明らかにし、成果としてとりまとめた。農業新技術現地実用化（21 世紀型）で取り組んでいるサトイモの産地強化試験では、二子芋を材料に 1 年目培養苗定植株の利用技術について、成果としてとりまとめた。今後さらに貯蔵性や 2 年目の生育について検討する予定である。

3. 革新技術支援：水稲の DNA マーカーを利用した育種手法の開発では、マーカーの検索を継続すると共に簡易な DNA 抽出方法に一応の目処が見ついた。病害の診断技術では、市販キットの実用性を検討し、特徴的な病徴を示したシートと組み合わせたピーマンの実用的なウイルス診断手法を成果としてとりまとめた。また、近年実害の大きいキクの TSWV の局在性について成果としてとりまとめると共に、本県育成オリジナル小ぎく品種「アイマム」シリーズがウイルスに汚染していないことを確認した。

### 生産工学研究室

水稲の省力低コスト研究として、水耕ロングマット育苗・移植技術について平成 11 年度より地域基幹研究として農水省農業研究センターを中心に茨城、長野、埼玉の農業試験研究機関と共同で取り組んできたが、本年度は水耕苗の簡易な水管理及び施肥法を中心に検討した。また、北上市及び石鳥谷町の農家で本田での現地実証試験を実施した。省力低コスト研究のもう一つの柱である直播研究については、打ち込み式直播機の播種量や作業速度の試験を昨年に引き続いて行った。また、ラジコンヘリによる散播直播について作業性能を中心にとりまとめて研究成果とした。

資源の省力化や環境問題に配慮してもみから成型マットの開発が生研機構・全農を中心に行われたが、その育苗方法や導入条件を平成 11 年度から検討しており本年度研究成果としてとりまとめた。

側条施肥技術は寒冷地の初期生育確保対策や施肥量の低減技術として利用されてきたが 6 月中下旬の葉色低下が課題となっていたが、緩効性窒素を含むペースト肥料が開発され、その田植機の作業性能と施肥法についてとりまとめた。

大区画圃場における自動水管理システムや地下かんがい地下排水技術などの整備技術については平成 9 年度から検討してきておりその活用法等について研究成果としてとりまとめた。また、暗渠の被覆材や畦畔シートについて評価し、選定資料として研究成果とした。

野菜作の機械化に関しては、キャベツを対象とした収穫運搬車について労働負荷等を加味した性能調査をとりまとめ研究成果とした。また農作業における労働負担測定マニュアル及び農作業事故データベースについて研究成果をとりまとめた。

## (3) 園芸畑作部

### 果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種改良を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、JM 台木を利用した省力的な低樹高化栽培による省力化、軽労化、低コスト化技術の開発を目標に、新技術地域実用化研究促進事業により「リンゴわい化栽培における省力・安定生産のための JM 台木利用・早期成園化技術の開発」試験を進めている。本年度は土壌、品種別に、JM 1 及び JM 7 の台木利用法を明らかにした。更に、苗木の短期安定増殖技術の確立に努めている。また、これまでの外観本位から、消費者が求める食味本位の果実生産に重点を置いた省力栽培技術の開発を目指し、昨年度から地域基幹農業技術体系実用化研究として、「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」の研究に取り組んだ。この課題は、着色管理を限りなく省力した食味本位のリンゴ（葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等）を安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を高度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものである。

品種改良では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交雑育種に取り組んでいる。本年度までに 26 系統を二次選抜に編入し、うち 8 系統について有望系統として岩手番号を付した。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発及びヤマブドウの結実促進技術の開発に着手した。また、品種開発では 5 系統を二次選抜に編入し、特性検定を進めている。

西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーについては、国内外の有望品種の本県への適応性と特性検定を主体に試験を実施している。

### 野菜畑作研究室

畑作物、野菜研究ともに規模拡大及び水田高度利用に対応した作目再編、新栽培方式の確立に取り組んでいる。畑作物では、実需者ニーズに対応した高品質・安定生産技術及び超省力・低コスト生産技術体系の確立が求められており、優良品種選定・栽培法試験に加えて、地域基幹研究「不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力栽培技術の確立」等に取り組んだ。

野菜では、試験最終年次を迎えた、果菜類におけるセル苗利用を前提とした省力・軽労化・低コスト生産技術確立試験や重点課題であるトマトの点滴灌水同時施肥試験等に引き続き取り組んだ。

本年度の成果としては、「普及」及び「指導」区分で、青大豆「東北 141 号」の選定、大豆不耕起栽培の栽培特性、大豆の晩播密植・狭畦栽培技術、小麦新品種「ネバリゴシ」の栽培法、小麦の冬期播種栽培技術、きゅうり定植用セル成型苗の緊急時短期貯蔵技術、雨よけトマトのセル苗直接定植における収穫期拡大技術、キャベツ品種「夏さやか」の県南部における導入作期、の合計 8 つをとりまとめた。

## 花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型省力的花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の育成を図るとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、スターチス「アイスター」の花色の幅を広げること、ゆりの小輪系や無葯系品種等を育成すること、を目的に選抜を行った。本年度は、小ぎくの「アイマムホワイトピーチ」を育成し、県の奨励品種とした。

新商材開発では、枝物花木について 品目選定と栽培特性の解明、効率的増殖法と育苗技術の確立、栽植方式や整枝・仕立て法の確立、等を進めるとともに、「いわて乙女」の安定生産技術の確立や切花用りんどうの鉢物化技術の確立に取り組んだ。

長期継続出荷技術については、小ぎくの作期拡大や鉢物りんどうの開花調節等に取り組んだほか、新たに宮古地域において、施設を利用した花き周年生産モデル経営の確立実証に着手した。本年度は、夏秋ぎく系小ぎくの親株加温による作期の前進、沖縄系小ぎくに対するエスレル処理効果、鉢物りんどう「こりん」の鉢上げ直前の摘心による省力化並びに親株加温時期等による開花調節技術について成果を取りまとめた。

## 南部園芸研究室

県南部や沿岸地域の恵まれた気象条件を活かした野菜花卉園芸技術の開発研究とともに、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を実施している。なお本年度から、標高 15m の平坦地にほ場を移転し、栽培試験を開始した。

花きに対する試験では、トルコギキョウの短日処理技術を利用した秋だし作型で電照の効果について検討した。さらにストックの秋出し作型では太陽光発電を利用した高品質生産技術の検討をおこなっている。秋出荷花壇苗高品質低コスト生産技術では、わい化剤の使用効果について検討した。また本年度の成果として、ラークスパーの短日処理による高品質栽培法を取りまとめた。

野菜に関する試験では、引き続きいちごの短日処理を利用した秋出し作型の確立に向けた試験を行うとともに、省力化、高品質栽培技術の確立を目指して少量土壌培地耕によるイチゴベンチアップ栽培やトマト栽培に取り組んでいる。また高規格ガラスハウスを利用したトマトの養液栽培による周年生産技術の実証も行っている。

## (4) 生産環境部

### 環境保全研究室

化学肥料や農薬に起因する環境負荷軽減、環境保全型農業技術の総合組立てに関する試験研究に取り組んだ。

環境負荷軽減に関しては、前年に引き続き育苗箱施用剤の水田での消長を調査し、殺虫成分についても水面施用剤に比べ河川への流出の可能性が低いことを明らかにした（試験研究成果（指導））。また、現在流通している生分解性プラスチックマルチについて、資材別に分解速度等を明らかにし、各作物栽培に対応した選択のめやすを示した（試験研究成果（普及））。さらに農用地土壌汚染対策指定解除地域における土壌、玄米中のカドミウム濃度について 5 か年間継続調査し、問題のないことを確認した（研究成果（行政））。その他、環境教育で注目されているケナフの生育特性を検討した結果、夏期高温年で草丈は約 3 m となること、開花数は極めて少なく本県では採種は困難であることなどを確認した（研究成果（行政））。また、今年度から農薬の水田生態系への影響評価、水田等における生物保全対策関係に着目し、育苗箱施用剤のトンボ幼虫に及ぼす影響や水田に生息する水生生物の種類等を調査するとともに、夢泉土いわて創造研究推進事業で里山保全のための研究について予備調査を行った。

環境保全型農業技術の総合組立てに関しては、水稻の減農薬栽培技術の確立に向け、種物の温湯消毒とプール育苗を利用した場合の発芽率と病害発生状況を把握した。また、本田期においては、いもち病を対象に抵抗性品種の利用とケイ酸資材の投入により、農薬の低減が可能との結果を得た。野菜関係では、アブラナ科害虫防除を重点としたキャベツの無農薬栽培試験に取組み、作期の選択による被害回避及び防虫ネットの有効性を確認した。有機農産物の生産条件の解明では、トマト、ピーマンについて土壌条件、生産物の栄養成分（ビタミン C 含量）等について調査したが、今のところ慣行栽培との違いは明確でない。

## 土壌作物栄養研究室

土壌作物栄養研究室の重要事項として、第1に畜産県岩手で大量に発生する家畜糞尿の循環利用促進がある。昨年に引き続き普及センターの収集した堆肥の品質評価と分析を実施し、その結果を品質面では「家畜糞堆肥の品質は外観とECにより簡易に評価できる」(指導)、品質と成分特性は「家畜糞堆肥の特性評価システム」(指導)に取りまとめ、次年度普及センターで行う堆肥の化学肥料代替実証試験のための目安を提供した。

第2に持続的生産技術確立があり、従来以上に土壌診断や作物栄養診断が必要となる。これまで無リン酸栽培のできる水田での可態リン酸水準を明らかにしたが本年度は無カリ栽培のできる水田土壤中交換性カリ水準を明らかにし「土壌中カリ40mgで水稲無カリ栽培が出来る」(指導)に取りまとめた。また地力窒素の簡易測定法も「一日で出来る地力窒素の簡易評価法」(研究)に取りまとめ水田土壌での有効性を示した。更にエコファーマーが使える技術開発として肥効調節型肥料の野菜への応用にも対応し「基肥一回無追肥によるピーマンの減肥栽培」(普及)に取りまとめた。持続型農業のための有機質肥料研究も取りまとめ年であるが、BSE問題のある輸入肉骨粉が原料に含まれ使用不可能となった。今後は県内の安全な有機物を利用した有機質肥料を検討する必要性が生じた。

第3に土壌環境容量評価があり、有機物・施肥管理による変化を常に監視することが重要である。定点土壌モニタリング調査の4巡間述べて20年のデータを「県内水田土壌の15年間の有機物・施肥管理と化学性の変化」(指導)と「県内畑地土壌の15年間の有機物管理と化学性の変化」(指導)に取りまとめ、土壌養分増大と酸性化やCEC増加等の土壌環境容量の変化傾向を明らかにした。

その他、地域的な農家要望が高いりんどうこぶ症対策にも花き、病理昆虫研究室と協力しつつ土壌肥料的な検討にも着手した。

## 保鮮流通技術研究室

農産物の品質評価技術、高鮮度流通技術及び地域特産加工食品開発等に関する研究に取り組んだ。

農産物の品質評価技術では、養液土耕栽培のトマトについて内容成分的な品質と栽培条件の関連性を検討し、収量水準が同等であれば養液土耕栽培と慣行栽培の間に品質的な差異はないことを明らかにした。また、トマトの美味しさ評価指標として糖度が利用できることを明らかにした。寒締め菜っぱのビタミンCは、RQフレックスによる簡易測定法でほぼ測定可能なことが示唆された。野菜の内容成分改善のため、経済連との共同研究を開始した。

高鮮度流通技術では、高温時のキャベツ・レタスの冷却不足を解消するための予冷条件を検討するとともに、蜜入りりんごの低温高湿条件下での貯蔵について検討し、蜜入りりんごであっても約6ヶ月間貯蔵可能であることを明らかにした。また、氷雪を冷熱源として利用した簡易高湿予冷庫の構造等について取りまとめた。

地域特産加工食品開発等については、雑穀の加工適性や加工品開発に取り組み、雑穀のでんぷん特性を明らかにするとともに、雑穀のレトルト食品を試作した。大豆の氷菓製造技術について検討し、大豆臭が少なく、食感、食味ともに評価の高いラクトアイスのレシピを作成した。また、木の実や苺など県内特産物のビタミンC、ミネラル、抗酸化活性を取りまとめ栄養成分表を作成した。

本年度の研究成果として、「キャベツ・レタスにおける夏季高温期の真空予冷庫設定条件」(普及)、「木の実や柿の葉はビタミンCが豊富で抗酸化活性が高い」(指導)、「ひえ、あわ、きびのでんぷん特性」(研究)、「氷雪を活用した簡易高湿予冷庫の開発」(研究)、「トマトとピーマンの美味しさと理化学性の関係」(研究)の5課題を取りまとめた。

## (5) 病害虫部

### 病理昆虫研究室

当研究室は組織再編により、平成13年度から新たに発足した病害虫部に病理昆虫研究室として組み込まれ、今年度は病害虫制御技術開発を支援するための病害虫発生生態の解明、生態系を活用した病害虫制御技術の開発、昆虫機能の活用技術の開発に取り組んだ。

病害虫発生生態については、斑点米の原因となるアカスジカスミカメ、イネドロオイムシなどの水稲初期害虫、畑わさびの新害虫ミドリサルゾウムシについてそれらの生態に基づいた防除対策を示し成果公表した。果樹病害では近年多発しているリンゴ炭そ病の発生特徴、病原菌及び伝染源を明らかにした。花き病害ではリンドウ褐斑病の発生生態を明らかにし、効果的な防除法を示した。また、クワイ化病については、ウイロイドフリー母株を選抜するため、ハイブリダイゼーション法による実用的な診断法を確立し、いずれも成果として公表した。

生態系を活用した病害虫制御技術として天敵・微生物等自然生態系の活用、作物の生理・生態的特徴を利用した病害虫制御技術、省力・低コスト病害虫防除技術について検討した。これらの中から、生物農薬「シュードモナスCAB-02水和剤」によるイネ育苗期の細菌病の防除法、ヒドロキシイソキサゾール粉剤による雨よけほうれんそうの立枯病、根腐病の防除法を普及に移す成果とした。またオキソリニック酸耐性イネもみ枯細菌病の防除対策、カルプロパミド粒剤の播種時施用によるイネいもち病の新たな防除体系、捕食性土着天敵ヒメハナカメムシや近紫

外線カットフィルム利用によるハウス内アブラムシ類、アザミウマ類の密度抑制効果について成果公表した。

昆虫機能活用技術として和・洋装向け高級細織度生糸を生産する新たな三眠蚕系統を育成した。

なお、りんどう産地で数年来発生が目立っているりんどうこぶ症の原因解明について栽培部門、土壌肥料部門と共同で次年度から試験に着手することとした。

## (6) 畜産研究所

### 家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や肥育技術の向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定 26 頭を実施し、1 日当たり平均増体量（D G）は 1.19kg（選抜牛 1.24kg）であり、10 頭選抜（選抜率 38%）した。間接検定は「川辰」「玉 97018」「岩国」「良川」「藤幸」の 5 種雄牛について実施し、「良川」の肉質が優れ人工授精用基幹種雄牛として選抜した。

黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の確立について、21 ヶ月令の生体超音波測定で脂肪交雑  $r = 0.69$  の相関が得られ、また 16 ヶ月令と 21 ヶ月令の生体超音波測定値から能力に応じ短期肥育と長期肥育に区分し肥育実証した結果、高能力牛と推定した長期肥育は全て肉質 4 等級以上となり、肥育経営の改善技術として期待できることを明らかにした。

平成 5 年度から取り組んでいたランドレース種の新たな系統造成について、7 世代において肢蹄強健な全国トップクラスの産肉能力に優れた系統造成が完了し、平成 13 年 7 月に（社）日本種豚登録協会から認定を受けるとともに、「イワテハヤチネ L2」と名付けられた。

岩手県在来種である天然記念物「岩手地鶏」を活用し、本県独自のオリジナル高品質肉用鶏を作出するため、平成 8 年度～12 年度に軍鶏 ×（有色コーニッシュ × 岩手地鶏（赤笹））の交配鶏を 4 世代選抜し、発育能力の高い基礎鶏を作出した。本年度は、この基礎鶏に最も適した交配法を決定するための組み合わせ試験を実施した。

### 家畜飼養研究室

自然環境への配慮と飼料自給率向上を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため、超省力管理技術及び資源循環型酪農の飼養管理技術の確立に取り組んでいる。

完全自動（ロボット）搾乳機等を応用した超省力管理技術では、搾乳に係る労働時間はパーラー搾乳と比較して、1/2 以下に削減され、作業内容も著しく軽労化した。また、TMR（完全混合飼料）の不断給餌と 1 日平均 3 回搾乳により産乳量は約 11% 増加した。自動給餌機及び自動堆肥装置の応用では、現行法と比較してそれぞれ約 1/5 及び 1/4 に労働時間が削減した。

搾乳牛（泌乳後期牛）の時間制限集約放牧では、併給飼料を組み入れ安定した乳量・乳成分の確保と、適正な体重を維持し乾乳することで周産期病（ケトosis、第四胃変位等）の予防が可能であることを実証した。

子牛の育成期飼養管理技術では、1 日 4 リットルの初乳を確実に給与することで、十分な免疫が獲得され良好な発育が確保された。また、初産牛と経産牛の初乳中免疫グロブリン量はほぼ同等であることを確認した。

高泌乳・高蛋白牛群飼養管理技術では、ET 技術により高能力牛の造成を進めるとともに、TDN 濃度の調整による蛋白質の効率的利用について検討している。

機械搾乳（ロボット、パーラー搾乳）が乳腺細胞に及ぼす影響については、どの個体でも分房間に産乳量の差（未経産牛より経産牛で分房間の乳量差が大きい傾向を示した）があるため、ミルカーが一括離脱する搾乳方法では、早く搾りきった分房ほど過搾乳の状態に陥りやすいことが判明した。

### 家畜工学研究室

牛の改良と増殖及び胚移植技術の定着を促進するためにバイオテクノロジー技術の基礎試験と応用化研究について取り組んでいる。

胚移植技術では、胚の安定確保をはかるため供胚牛に対して脂肪酸カルシウムを過剰排卵処理前後 11 日間、飼料に添加したところ、総コレステロール値が有意に上昇し高い正常卵率を得た。加えて回収胚数の増加は、発情期の甲状腺ホルモンの関与が新知見として示唆され、ホルモンの利用特性について解明が課題提起されている。生体から経膈法で未成熟卵子を採取し、体外受精技術を活用して胚生産を試みた結果、個体の明らかな移植可能胚の生産が可能となった。しかし、経膈採卵前後の FSH 製剤投与は未成熟卵子の数的増加は認められなかった。

胚の保存技術開発では、凍結前後の形態観察と発育性及び移植成績からガラス化法が優れた技術であり、高価なプログラムフリーザーを必要とせず、短時間で処理ができ、性別別胚や生体胚の保存に利用できることを明らかにした。

短期種雄牛造成技術の確立を目的とした体細胞クローン技術では、線維芽細胞をドナー核とした再構築胚による

産子を得、さらに胎児由来の羊水浮遊細胞をドナー核とした再構築胚の作成のための基礎試験を実施している。

遺伝子解析では、遺伝病の原因遺伝子特定などで成果をあげているDNA解析を、複数の遺伝子が関与している脂肪交雑などの量的形質にも応用するため、経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析を継続実施した。その結果、大規模半兄弟家系の解析から脂肪交雑及び枝肉重量に強く連鎖する領域をみいだした。一方、黒毛和種の産子に発生する半致死性遺伝病の内水頭症について、原因遺伝子特定のため産子の再現試験から解析を実施している。また、日本短角種に発生した筋肉肥大（Double-Muscle）について遺伝子診断法を確立し、産肉成績から疾病の病態を総括した。

## 飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜糞尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。

とうもろこしの品種選定：国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成系統1系統、畜産草地研究所育成系統2系統、長野県中信農業試験場育成系統1系統、計4系統について検討した結果、標準品種に優れる系統は認められなかった。市販とうもろこし品種では早生種の「KD520」と晩生種の「33G26（パイオニア118日）」が、耐病性、乾物収量、TDN収量とも標準品種に比較し優れていることが明らかにされ推奨品種候補として提案した。

牧草の品種選定：採草用草種ではオーチャードグラス極早生種の「アキミドリ」が耐病性、収量性に優れていること、チモシーグラスでは中生種の「ホクセイ」で収量が高く適応地域が広いことが明らかにされ、これら2品種を奨励推奨品種候補として提案した。

粗飼料の簡易品質評価法：小型反射式光度計（商品名：RQフレックス）による粗飼料の硝酸態窒素測定方法の検討を行った結果、公定法である液体クロマトグラフ法との相関係数が0.97以上と高い結果を示したことから、同法による硝酸態窒素の簡易定量分析が可能であることを明らかにした。

家畜糞尿処理：県内に導入された3方式（スクープ式、密閉縦型、ロータリー式）の堆肥化施設の調査結果を基に、50～60頭規模の酪農経営において個々の経営体が導入する施設選択のための参考資料とすべく、各々の堆肥化性能、コスト面等の特徴を明らかにし、導入指針を作成した。堆肥化性能はスクープ式が季節変動が少なく良好であった。コスト試算ではロータリー式が低コストであったが冬期の堆肥化性能低下が欠点である。密閉縦型は電気代がかかるが戻し堆肥やブロイラー鶏糞等の混合投入によりオガクズ等の副資材を軽減できる。

## 外山畜産研究室

中山間地域に位置する本研究室では立地特性である豊富な草資源を活用して、放牧飼養形態を取り入れた肉用牛の試験研究に取り組んでいる。

市場評価向上を目指した黒毛和種放牧子牛の集約放牧育成技術の確立については、放牧子牛が舎飼子牛と同程度の発育（日増体量：DG0.9kgを目標）ができるように、牛・草および施設面から検討している。親子放牧において、子牛に体重比1%量を限度として補助飼料を給与することで、開牧当初から放牧した子牛はDG0.9kgを達成できた。途中入牧した子牛の発育は目標には達しなかったものの、前者と別群にすることでDGの向上を図ることができた。集約放牧地における牧草の季節生産性については休牧間隔を10日とした輪間放牧及び肥料の種類に関係なく初夏施肥をすることで生産量の平準化が図れた。牛のストレス防止や蹄病予防を目的として放牧地の水飲み場周辺等の泥濘化している場所にカキ殻を応用したところ、泥濘改善効果が認められた。漁業系廃棄物であるカキ殻は三陸沿岸から容易に入手でき、低コストでしかも移設が簡単であり、泥濘化改善資材として推奨できる。

日本短角種繁殖経営における黒毛和種胚移植技術の導入効果を検討した。夏山冬里方式で親子放牧を行う日本短角種繁殖経営において、放牧前に黒毛和種の胚移植を1回実施し、不受胎時には自然交配を行う体系を導入した場合、胚移植の受胎率が30%以上であれば、経営的なメリットが期待できることが明らかになった。

## 種山畜産研究室

黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策推進事業」の一環として、県内山黒毛和種種雄牛候補22頭を選抜するとともに、畜産研究所生産の受精卵雄産子7頭計29頭の直接検定を実施し、年度内に16頭終了、残り13頭については平成14年6月に終了する。全頭終了後検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し、後代検定「間接検定実施牛6頭」および「現場後代検定実施牛3頭」を選抜する。

平成9年度の直接検定により選抜された「<sup>きくきょうふく</sup>菊京福」「<sup>だい ますおうさかえ</sup>第3益王栄」「<sup>よしきくふく</sup>義菊福」「<sup>きたたかふく</sup>北孝福」「<sup>きくけんた</sup>菊賢太」「<sup>きくつるゆき</sup>菊鶴雪」の6頭について間接検定を実施し、以下の成績が得られた。

ア．一日あたり増体量(kg)

第3益王栄(0.92) > 菊賢太(0.89) > 菊京福(0.86) > 菊鶴雪(0.84) > 北孝福(0.82) > 義菊福(0.76)

イ．ロース芯面積( )

北孝福(51) > 北京福(48) > 菊賢太(47) > 義菊福・菊鶴雪(42) > 第3益王栄(41)

ウ．脂肪交雑(BMS)

北孝福・菊鶴雪(3.0) > 菊賢太(2.7) > 菊京福(2.6) > 義菊福(2.0) > 第3益王栄(1.8)

平成13年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「北孝福」「菊鶴雪」が脂肪交雑の成績が全国平均を上回ったことから、県有種雄牛に選抜された。また、「菊京福」「菊賢太」も間接検定の成績が県の選抜基準を上回ったことから、凍結精液の供給を開始した。

平成12年度開始した「現場後代検定」実施候補種雄牛4頭については、平成14年11月までに肥育が終了し、と畜、枝肉格付成績の収集、分析を行って得られた産肉能力により選抜の予定。

## (7) 県北農業研究所

### 営農技術研究室

土壌管理、病虫害防除、機械化などの営農技術の開発や自然生態系活用型農業技術の開発を目標に研究を実施しており、他の研究室と連携した取り組みを行っている。

環境保全型農業技術の取り組みとして、生分解性プラスチックマルチの利用法を検討した。当研究室ではすき込み後の後作への影響を明らかにし、環境保全研究室等との連携により各種資材の特性としてとりまとめ研究成果とした。また、省力・減肥技術として期待される畦立て同時畦内施肥技術についても検討した。

野菜の病虫害関係では、病虫害防除所と連携してネギの主要害虫であるネギハモグリバエの発生生態を明らかにし、発生時期の予察ができることを示した。また、キャベツ根こぶ病の総合防除のため、主要産地における根こぶ病の菌密度 - 発病曲線を明らかにし、減農薬栽培技術に資する知見を得た。

野菜の機械化技術に関しては、生研機構との連携で、ほうれんそうの包装機について取り組み、実用性について検討した。

情報技術関連の取り組みとして畑地かんがい地区を対象とし気象情報による土壌水分予測技術について検討した。

### 産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、優良品種選定試験としてキャベツ・ほうれんそう・だいこんの3品目について実施し、平成13年度はほうれんそう1品種を「推奨品種」として普及に移した。

地域基幹研究「野菜の省力機械化体系を基幹とした大規模畑輪作技術」では、子葉奇形苗の選別除去と差し替えが生育斉一化や収量・品質の向上に与える効果について、またキャベツ、だいこんの前作にエン麦(ハイオーツ)を導入した輪作体系の大野村現地圃場における5カ年の実証結果について、それぞれ研究成果とした。

雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術開発として、ほうれんそうの遮光技術やかん水方法及び効率的な生産方式について、普及センター設置のリーディングファームと連携し検討した。

花きでは、地域基幹研究「中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物の生産技術」において、中山間地域に適した有望品目として宿根草13品目・花き4品目を選定しその特性等を研究成果とした。

この他、21世紀型農業経営モデル実証試験(一戸町)では、秋だしパンジーを中心とした花壇苗の周年生産技術やガーデニング用素材の検討、またグランドカバープランツについては、法面保護と景観形成のための法面の省力的な雑草管理法や種子散播による低コスト法面被覆方法について検討した。

### やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通作物(小麦、大豆等)雑穀類の栽培法や品種の選定及び葉たばこの環境保全型栽培技術に関する研究を実施している。

水稲では、12年度に県奨励品種に採用した、良食味・耐冷性に優れた県オリジナル新品種「いわてっこ」の期待生育量を明らかにし、そのための栽培法を研究成果としてとりまとめ普及に移した。

小麦、大豆等の普通畑作物では、県北地域に適応する多収・良食味品種の選抜・育成を目標に、国や北海道立農試で育成した系統を導入しての試験を実施し、大豆では緑豆系統の「東北141号」が有望であることを確認し、奨励品種に採用した。小麦では新品種「ネバリゴシ」の栽培法を明らかにし研究成果とした。雑穀類ではヒエの無農薬水田栽培法を確立・実証し、研究成果にとりまとめ普及に移した。

一方、葉たばこに関連する調査研究では、緊急な課題となっている廃プラ処理対策の一つとして、生分解性マルチ新資材の検討を継続し、資材別の特徴と使用目的に応じた選定法をとりまとめ研究成果とした。

3 平成 13 年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R	S	T	U	V	W	X
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイオテク	家畜バイオテク	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	地域活性化	やませ利用	生物機能	有機農業	保鮮流通	農産物加工	情報利用
企画経営情報部	28	1	3	2	1	1	1	2	2						10	1		3			1			
農業経営研究室	28	1	3	2	1	1	1	2	2						10	1		3			1			
農産部	104	68			1					14						11	10							
水田作研究室	30	29														1								
水稲育種研究室	37	37																						
応用生物工学研究室	14									14														
生産工学研究室	23	2			1											10	10							
園芸畑作物部	128		23	50	24	30							1											
果樹研究室	50			50																				
野菜畑作研究室	38		23		15																			
花き研究室	25					24							1											
南部園芸研究室	15				9	6																		
生産環境部	61	1			1							13	25			1				1	5	7	5	2
環境保全研究室	21											11	2							1	5			2
土壌作物栄養研究室	27	1										2	23			1								
保鮮流通技術研究室	13				1																	7	5	
病害虫部	25													20							5			
病理昆虫研究室	25													20							5			
畜産研究所	48	1					5	18	16		5	3												
家畜育種研究室	12								11			1												
家畜飼養研究室	5						5																	
家畜工学研究室	5										5													
飼料生産研究室	17	1							14			2												
外山畜産研究室	6							4	2															
種山畜産研究室	3							3																
県北農業研究所	85	10	15		14	9						8	2	10	1	4			11		1			
営農技術研究室	33		1		2							7	2	10	1	3			6		1			
産地育成研究室	24				12	9													3					
やませ利用研究室	28	10	14									1				1			2					
総計	479	81	41	52	41	40	6	20	18	14	5	24	28	30	11	17	10	3	11	6	7	7	5	2

(2) 試験研究課題一覧

凡例

番号：年度毎連番、課題番号：小課題番号＋細目課題番号、  
 推進構想分野：当該課題の関連する推進構想分野を略称で記載。複数ある時は主となる分野に を付記。  
 実施区分：継；次年度継続、完；本年度完了、繰上完了；終期を繰上げ本年度完了、廃止；途中で終了  
 担当研究室：主担当に を付記。  
 予算：国庫研究；国庫補助研究、国庫委託；国庫委託事業、民間委託；民間委託事業、  
 令達；他公所からの令達予算研究、県単研究；県単研究予算、県単採種；主要農作物採種管理費

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室 ( ;主担当)	予算
1	38 -3200	水稲 農業農村	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 点播栽培技術の総合実証 実証技術の総合評価と地域営農システムの確立	13～14	継	農業経営 水田作 生産工学	国庫 研究
2	96 -1200	畑作物 農業農村 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培 技術 大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策 水田利用作付体系・機械化栽培定着のための生産組織化 の究明	12～13	完	農業経営 野菜畑作 生産工学	
3	-4100		高品質・超省力栽培体系の現地実証 組立技術の経営経済評価	12～15	継		
4	739 -1100	畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の 開発 麦・大豆立毛間播種体系の導入条件と展開方策 麦・大豆立毛間播種栽培の定着要因の解明	13～17	継		
5	128 -1110	果樹 農業農村	需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの省力的生産技術導入による経営基盤強化方 策の解明 食味本位りんごの省力的生産技術導入による経営基盤強 化方策 現行非破壊選果機の活用上の問題点の把握と改善方 策	12～14	継	農業経営 果樹	
6	-1120		食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析 と改善方策	12～14	継	農業経営	
7	154 -3200	野菜 農業農村 やませ利用	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の実証と評価 経営及び地域に対する経済性の評価	9～13	完	農業経営 産地育成	
8	206	花き 農業農村	カジュアルフラワーの消費動向と流通販売方策	11～13	完	農業経営 花き	県単 研究
9	233 -2000	酪農 農業農村	完全自動（ロボット）搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 搾乳ロボット導入による超省力管理システムの経営経済評価	12～13	完	農業経営 家畜飼養	
10	242 -1300	肉畜 農業農村	北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛 の放牧管理技術の確立 黒毛和種肥育素牛生産における放牧利用の展開方向の解明 黒毛和種肥育素牛の放牧育成システムの経営的評価	13～15	継	農業経営 外山畜産	国庫 研究
11	-1200		遠野地域の公共牧場における総合的放牧利用の展開方向 の解明	11～13	完		
12	256 -1200	草地飼料 農業農村	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・ 供給システムの確立 北上山地における良質粗飼料生産・調製・供給システムの現 地実証 良質粗飼料生産・調製・供給システムの経営経済的評価	10～13	完	農業経営 飼料生産	
13	-1300		北上山地における貯蔵粗飼料生産・調製・供給のための地域 支援システムの構築 採草地を組み込んだ公共草地の高度利用の解明	11～13	完		
14	751 -3000	農業農村 情報利用	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの開発 生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システ ムの開発	13～15	継	農業経営 土壌作物栄養 営農技術	
15	420		地域農業計画診断システムの開発に関する研究	9～13	完	農業経営	県単

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
16	729	農業農村	県南部沿岸地域の小規模農業地域における地域農業再編モデルの策定	13～15	継		研究
17	700-1000		主業型農家の経営発展過程分析による育成支援方策の解明	13～15	継		
18	426		新規就農青年の経営発展と支援方策	11～13	完		
19	428	農業農村情報利用	農産物の市場動向分析	13～17	継		
20	701	農業農村	担い手の販売能力高度化に対応した産地の成立条件の解明	13～15	継		
21	444-1200	生産システム 水稲 農業農村	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の導入条件の設定 ロングマット水耕育苗技術導入経営体の明確化	12～14	継	農業経営 生産工学	国庫 研究
22	470-1100	地域活性化 やませ利用	中山間地域活性化戦略の確立に関する研究 地域資源を高度活用した農産物供給システムの確立 地域特産物の生産実態把握と農産物供給システムの担い手への支援方策	11～13	完	農業経営	県単 研究
23	-1200		農業関連活動の有機的結合プロセスの解明	11～13	完		
24	702	地域活性化	中山間地域等直接支払制度の活用方策の解明	13～15	継		
25	483-1200	農業農村 やませ利用	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 地域農業資源の探索・評価と新商材の需要把握（現地支援研究） 新商材の市場・消費ニーズの把握	12～14	継	農業経営 保鮮流通技術 産地育成	国庫 研究
26	-2100		高付加価値農産物の生産・流通技術の開発（技術開発試験） 商品特性に対応した流通チャネルの探索	12～15	継	農業経営 産地育成 やませ利用	
27	-3300		消費ニーズを踏まえた生産流通システムの実証（体系化実証試験） 開発技術の経営評価と生産・流通システムの策定	13～15	継	農業経営 営農技術 産地育成 やませ利用	
28	703	有機農業 水稲	水稲作における民間農法の経営的特長の把握	13～13	完	農業経営	県単 研究
29	35-1000	水稲	奨励品種決定予備調査(粳、糯) 中・晩生品種	S29～13	完	水田作 やませ利用	県単 採種
30	36-1000		奨励品種決定本調査(粳、糯) 中・晩生品種	S29～13	完		
31	37		奨励品種決定現地調査	S29～13	完		
32	728		大区画水田圃場における圃場畦畔の雑草制御と景観形成技術の確立	13～14	継	水田作 生産工学	県単 研究
33	38-1100	水稲 農業農村	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 直播栽培技術導入条件の設定 品種・作期を組み合わせた直播導入可能地域の設定	11～13	完	水田作 農業経営	国庫 研究
34	-2100	水稲 土壌作物	湛水点播直播安定栽培技術の確立 出芽・苗立ちの安定化と初期生育の斉一化技術の確立	11～14	継	水田作 土壌作物栄養	
35	-2200		点播栽培の生育安定化技術の確立	11～14	継		
36	-3100	水稲 農業農村	点播栽培技術の総合実証 点播栽培技術の組み立て実証	11～14	継	水田作 農業経営 生産工学	
37	40-1100	水稲	水稲作用新除草剤の効果の解明 水稲作用除草剤第2次適用性試験 県南適応性	S34～13	完	水田作 やませ利用	民間 委託
38	44-1000		水稲作用新資材の効果の解明 新育苗培土等の実用性確認	1～13	完	水田作	
39	45-1000		水稲栽培における水田雑草の最小限防除技術の開発 移植前作業と単成分除草剤による水田雑草の防除効果	12～15	継		令達
40	-2000		移植後の水管理が水田雑草の発生に及ぼす影響	12～15	継		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
41	704 -1000	水稻 保鮮流通	米の食味改善診断技術の開発 中・晩生水稲品種の食味診断技術開発	13～15	継	水田作 土壌作物栄養 やませ利用	県単 研究
42	58 -1000	水稻	水稻粳有望品種・系統の栽培特性 粳有望新系統「岩南25号」の栽培特性	13～14	継	水田作	
43	-2000		粳有望新系統「岩南60号」の栽培特性	13～14	継		
44	59		水稻優良種子生産のための発芽能力検定法の確立	13～15	継		
45	48 -2000		良質・良食味米生産技術の栽培実証 県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証	S58～13	完	水田作 やませ利用	民間 委託
46	-1100		良質・良食味米生産技術の栽培実証 気象・土壌条件に対応した新品種の高品質安定生産技術の確立 早生・良質・良食味新品種「岩南16号」の栽培	13～14	継		県単 研究
47	60 -1000		水稻有望新系統の早期栽培特性把握試験 粳有望系統「岩南25号」(一関市)	13～14	継	水田作	
48	49 -1000	水稻 情報利用	水稻作況調査と作柄成立要因の解析 中・晩生品種	S34～13	完	水田作 やませ利用 土壌作物栄養	
49	50 -1000		水稻優良品種の気象反応試験 中・晩生品種関係	S34～13	完	水田作 やませ利用	
50	51	水稻 土壌作物	土壌・施肥管理と水稻の生育反応	S34～13	完	水田作 やませ利用 土壌作物栄養	
51	55	水稻 情報利用	登熟診断技術の確立	10～13	完	水田作	
52	57	水稻	水稻糯有望新系統の栽培特性 糯有望新系統「岩南糯19号」の栽培特性	10～13	完		
53	60 -2000		水稻有望新系統の早期栽培特性把握試験 糯有望系統「岩南糯19号」(紫波町)	13～13	完		
54	740 -1000	水稻 草地飼料	寒冷地北部におけるホールクロップサイレージ用イネの栽培実証 省力・低コスト生産技術体系の実証	13～15	継	水田作 飼料生産	国庫 委託
55	-2000		ミニマム防除体系の確立	13～14	継		
56	61	水稻	水稻原々種生産	S29～	継	水田作	県単 採種
57	62		水稻原種生産	S29～	継		
58	444 -2300	生産システム 水稻	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の開発 ロングマット苗の移植精度向上と初期栽培管理技術の開発	12～14	継	水田作 生産工学	国庫 研究
59	736	水稻	分子マーカーを用いた岩手県水稻奨励品種の識別技術の確立	13～14	継	水稻育種	令達
60	737		分子マーカーを用いた水稻品種選抜技術の検討	13～17	継	応用生物学	
61	5 -1000		水稻新規需要等対応品種の育成 水稻新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査	2～22	継	水稻育種	
62	18 -1000		水稻品種特性調査 東北地域の水稻奨励品種比較試験	7～22	継		
63	-2000		水稻品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成	S59～22	継		
64	6		水稻高度耐冷性集積系統の育成	2～22	継		
65	7		水稻高度耐病性集積系統の育成	2～22	継		
66	19 -1000		水稻品種育成交配試験 水稻交配試験	S59～22	継		
67	-2000		水稻初期世代養成試験	S59～22	継		
68	-3000		水稻世代促進試験	S59～22	継		
69	-4000		水稻個体選抜試験	S62～22	継		
70	-5000		水稻単独系統選抜試験	S62～22	継		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算					
71	20-1000		稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成 いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定	1~22	継	水稲育種 やませ利用						
72	-2000		葉いもち圃場抵抗性検定調査	S48~22	継							
73	-3000		穂いもち圃場抵抗性検定調査	S62~22	継							
74	21-1000		極良食味水稲品種・系統の育成 食味官能調査	S60~22	継							
75	-2000		食味成分調査	2~22	継							
76	-3000		炊飯米外部構造調査	13~22	継							
77	15-1000		水稲生産力検定試験 生産力検定予備試験	S58~22	継							
78	-2000		生産力検定予備試験系統群	S58~22	継							
79	-3000		生産力検定本試験	S58~22	継							
80	-4000		生産力検定本試験系統群	S58~22	継							
81	16-1000		水稲系統適応性検定試験 水稲系統適応性検定試験(国公立育成成分)	S39~22	継			水稲育種 やませ利用	国庫委託			
82	-2000		稲民間育成品種評価試験	13~13	完			水稲育種	民間委託 令達			
83	22-1000		高度耐冷性水稲品種・系統の育成 高度耐冷性を有する系統の探索	2~22	継			水稲育種 やませ利用				
84	-2000		障害型耐冷性検定調査	S59~22	継							
85	23		不良環境地帯向け水稲品種の育成(現地試験)	S59~22	継							
86	24-1000		育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験 中・晩生水稲系統	S52~22	継							
87	25		低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成	2~22	継							
88	26-1000		難穂発芽性水稲品種・系統の育成 穂発芽性検定調査	S62~22	継							
89	27-1000		直播適応性水稲品種・系統の育成 直播関連適性検定法の検討	13~15	継							
90	-2000		直播生産力検定試験	3~22	継							
91	28-1000		超多収水稲品種・系統の育成 育成系統の施肥反応試験	2~22	継							
92	29		醸造用水稲品種・系統の育成	2~22	継							
93	30		醸造用水稲品種・系統の加工適性試験	8~22	継							
94	31		水稲糯品種・系統の育成	2~22	継							
95	32		低アミロース水稲品種・系統の育成	2~22	継							
96	280		作物ハ`イテ` 果樹	りんごの有望品種及び有望台木の再分化技術の開発	12~14					継	応用生物学	県単研究
97	281		作物ハ`イテ` 水稲	耐病性関連遺伝子導入稲の特性評価	9~13					完	応用生物学 野菜畑作	
98	282		作物ハ`イテ` 果樹	耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価	9~13					完		
99	744-3000		作物ハ`イテ`	水田を活用した持続型作付体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 優良系統の培養苗利用による栽培実証	13~15					継		
100	284-1000	作物ハ`イテ` 花き	りんどう採種用親系統の維持・増殖技術の確立 えぞりんどうの葉片培養による大量増殖法の確立	9~13	完							
101	-2000		えぞりんどうの茎頂培養による大量増殖法の確立	9~13	完							
102	286		スタ・チス・シヌア・タの低コスト培養システムの確立	10~13	完							
103	287	作物ハ`イテ`	稲の薬培養を利用した育種技術の効率化	9~13	完							
104	288	水稲	DNAマーカー利用による稲優良形質の探索及び選抜法の確立	9~14	継							
105	289	作物ハ`イテ`	ピーマン病原ウイルスの検出・診断技術の利用	10~13	完							
106	290	野菜	なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	10~13	完							
107	292	作物ハ`イテ`	りんどうのウィルスフリー化技術の確立	9~13	完							

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
108	293	花き	小ぎくのウィルスフリー化技術の確立	12～16	継		
109	294	作物ハ イク 果樹	りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立	9～13	完		
110	440 -2110	水稲 情報利用 生産システム	大区画ほ場営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立 ラジコンヘリ利用による水稲栽培技術の開発 ラジコンヘリ利用による水稲直播栽培技術の確立	10～13	完	生産工学	
111	38 -2300	水稲 生産システム	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 湛水点播直播安定栽培技術の確立 点播栽培における効率的作業技術の確立	11～14	継	生産工学 水田作	国庫 研究
112	154 -1110	野菜 やませ利用 農業農村	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 露地野菜の省力機械化技術の適応条件の解明 キャベツ等	9～13	完	生産工学 営農技術 農業経営 産地育成	
113	440 -1000	生産システム 水稲 情報利用	大区画ほ場営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立 高度な診断技術・栽培管理知識を集約した「担い手農家技術 支援エキスパートシステム」の開発	9～13	完	生産工学	県単 研究
114	441	生産システム	労働強度・機械作業安全性の解析と改善技術の確立	9～13	完		
115	442	生産システム 水稲	新側条施肥体系の確立	11～13	完	生産工学 土壌作物栄養	民間 委託
116	96 -3110	生産システム 畑作物 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培 技術 大豆の高品質安定生産技術確立 大豆の高品質安定生産技術確立 不耕起播種機の能率・精度の向上	11～14	継	生産工学 野菜畑作	国庫 研究
117	739 -2300	生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の 開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 立毛間播種機の実用性と改良指針の作成	13～15	継	生産工学 営農技術	
118	-3000		麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	13～17	継	生産工学 農業経営 野菜畑作	
119	444 -2100	生産システム 水稲	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽 培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の開発 寒冷地水耕育苗における最適環境制御技術の開発	11～14	継	生産工学 水田作 土壌作物栄養 病理昆虫	
120	-2200		ロングマット苗の貯留・運搬・補給技術の開発	11～14	継	生産工学	
121	-2300		ロングマット苗の移植精度向上技術と初期栽培管理技術 の開発	11～14	継	生産工学 水田作 病理昆虫	
122	-3100		大区画圃場におけるロングマット苗移植技術の総合実証 大区画圃場におけるロングマット苗移植技術の組立実証	11～14	継	生産工学	
123	732	農村整備	傾斜地畑の土壌流亡防止工法の確立	13～15	継		令達
124	462		重機の走行がほ場整備後の土壌の均一性に与える影響の解明	11～15	継		
125	463 -1000	農村整備 水稲	ほ場条件に対応した水管理システムの確立 地下かんがい、地下排水方式の確立	9～14 13	繰上 完了		
126	-2000		用排水の自動化と水循環方式による水利用方式の確立	9～13	完		
127	465 -1000		北東北重粘土地帯における暗渠排水技術の確立 簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	12～14	継		国庫 研究
128	-2000		新暗渠疎水材の実用化	12～14	継		
129	-3000		現地実証による効果測定	12～14	継		
130	463 -3000		ほ場条件に対応した水管理システムの確立 暗渠排水の最適被覆材の選定	9～14 13	繰上 完了		令達
131	466 -1000		大規模・大区画ほ場における生産管理のシステム化 畦畔被覆資材・方法の確立	9～13	完		
132	466 -2000		農道ターン方式の確立	9～13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算	
133	121-1100	果樹	21世紀のリンゴわい化栽培を担うJM台木の利用技術の開発 JM台木の現地適応性の解明 JM7台木利用樹の現地適応性	11~15	継	果樹	国庫研究	
134	-2100		JM台木の簡易・安定・短期生産法の確立 台木の簡易増殖法	11~13	完			
135	-2200		苗木の短期生産法	11~13	完			
136	-3100		優良ポット苗の短期育成技術の確立 JM台木を用いたポット養成苗木の短期生産法	12~15	継			
137	-4100		JM台木と主要品種・県奨励品種との親和性の解明 JM台木と「ふじ」、「きおう」等の親和性	11~15	継			
138	-5110		JM台木利用・栽植様式による低樹高栽培の確立 台木の利用法 地上部台木長の検討	11~15	継			
139	-5120		JM5台木の間港台利用法の検討	11~15	継			
140	-5200		JM7台木の栽植様式の検討	11~15	継			
141	708		山ぶどう結実安定技術の確立	13~17	継			県単研究
142	709		ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討	13~17	継			
143	123-1100		果樹	西洋なしのわい化栽培による省力・低コスト栽培技術の確立 ラ・フランスの生産安定 ラ・フランスの単為結果性を利用した安定生産技術の検討	11~13			完
144	124-1000	果樹園管理の省力機械化栽培法の確立 果樹園用局所施肥機による施肥量の削減と果実品質の向上		11~13	完			
145	125-1000	果樹の植調剤 りんご園の除草剤の効果的使用法		1~13	完			
146	-2000	ぶどう園等除草剤の効果的使用法		1~13	完			
147	-4000	りんごの摘花(果)剤の選抜と実用化		1~13	完			
148	-5000	りんごの摘葉剤の選抜		1~13	完			
149	127-1000	新品種等の安定生産技術の確立 きおうの裂果・落果防止技術の確立		5~13	完	県単研究		
150	129-1000	果樹の生育と果実品質の変動要因の解明 りんごの生育・生態の把握		9~13	完			
151	-2000	ぶどうの生育・生態の把握		9~13	完			
152	-3000	果樹の生育と果実品質の変動要因の解明 西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握		9~13	完			
153	128-1111	果樹 保鮮流通		需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立 食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用した均質化栽培法の確立 食味本位リンゴの樹相診断技術の確立 樹勢要因と果実品質の関係解明	12~13	完	果樹 保鮮流通技術	国庫研究
154	-1112		食味本位リンゴの適正着果量の解明	12~13	完			
155	-1113	果樹	食味本位リンゴの樹相診断法の確立	13~14	継	果樹		
156	-1121		良食味・均質化のための樹体構成法 樹体内果実品質の分布把握	12~13	完			
157	-1122		受光条件と果実品質の関係解明	12~14	継			
158	-1123		葉面積指数と果実品質の関係解明	12~14	継			
159	-2111		食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立 新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の開発 「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」などへの新摘花・摘果作業の削減技術の確立 新摘花剤の効果確認	12~14	継			
160	-2112		「さんさ」「ふじ」などへの品種適応性の検討	12~14	継			

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
161	-2113		需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立 新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の開発 ‘ふじ’ ‘さんさ’ ‘ジョナゴールド’ などへの新 摘花・摘果作業の削減技術の確立 摘果剤の効果安定法	12～14	継		
162	-2114		体系処理法の開発と省力効果の確認	13～14	継		
163	-2211		摘葉剤の実用性及び効果安定法の検討	12～16	継		
164	-2212		摘葉剤処理が樹体生理に及ぼす影響	12～16	継		
167	-2213		着色評価のための非破壊センシング利用技術の開発	12～16	継		
165	-2220		新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理 の大幅削減技術の開発 着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立	12～16	継		
166	-1131	果樹 情報利用	食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立 食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用し た均質化栽培法の確立 各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確 立 光センサーによる内部品質評価法の検討	12～16	継		
168	-1132	果樹	各種資材利用による内部品質向上・均質化技術 の検討	12～16	継		
169	131 -1100		果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発 カラムナータイプ等に適合した省力技術体系の開発 摘花・摘果の省力技術の開発	9～16	継		国庫 委託
170	-1200		摘葉管理の省力技術の開発	9～16	継		
171	-1300		密植立木仕立てでの省力的せん定技術の開発	9～16	継		
172	-2100		果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発 りんごスパタイプ等特殊形質樹利用による低コスト・超省 力・高品質生産技術の解明 スパタイプ等特殊形質を有する品種の栽培特性の把握	9～13	完		県単 研究
173	132 -1000	果樹 作物バ イク	先端技術応用による優良品種の開発育成 良品質・高生産を目的としたウイルスフリー樹の作出	S57～13	完	果樹 応用生物学	令達
174	133 -1000	果樹	ジョナゴールド、ふじ等に優る中・晩生種の開発 国育成系統適応性（盛岡58～62号）	1～13	完	果樹	
175	-2000		国内外導入品種の選抜	1～13	完		
176	-3000		いわて特産中～晩生種の交配育成	1～13	完		
177	134 -1100		キャンベル、紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜 寒冷地向きぶどうの系統適応性試験 第9回系統適応性検定試験	4～13	完		国庫 委託
178	-1200		第10回系統適応性検定試験	4～13	完		
179	-2000		国内外育成の寒冷地向き品種の選抜（生食用、醸造、兼用種 等品種の選抜）	1～13	完		令達
180	-3000		耐寒性中・大粒種ぶどうの交配育成	1～13	完		
181	135 -1000		ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発 国内外導入品種の選抜	1～13	完		
182	136	果樹 果樹	おうとう、もも等の優良品種の選抜	1～13	完		
183	80	畑作物	麦類の奨励品種決定調査	S29～13	完	野菜畑作	県単 採種
184	81 -1000		大豆の奨励品種決定調査 基本調査	S29～13	完	やませ利用	
185	-2000		現地調査	S29～13	完		
186	83 -1000		新形質品種の特性を活かした高位安定栽培技術の確立 低アミロース小麦系統「東北206号」の高品質安定栽培技術	11～13	完	野菜畑作	国庫 委託
187	84	畑作物 水田農業	ハトムギ優良品種の選定	11～14	継		令達

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算	
188	85	畑作物	麦類耐寒雪性特性検定試験	S29～13	完		国庫委託	
189	86		大豆立枯性病害抵抗性検定試験	S62～13	完			
190	87		ばれいしょウイルス病抵抗性検定試験	S28～13	完			
191	88		ばれいしょ系統適応性検定試験	S47～13	完			
192	89		あずき系統適応性検定試験	S40～13	完			
193	91		主産国に負けない高い製パン・製めん特性を持った小麦品種の選定と評価	7～13	完			令達
194	92		大規模機械化栽培に適したダイズ新品種の選定及び栽培実証	7～13	完			
195	96 -1400	畑作物 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術 大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策 不耕起土壌の理化学性等の把握	11～15	継	野菜畑作 生産工学	国庫 研究	
196	-2200		不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術 不耕起、無中耕、無培土栽培に対応した土壌管理技術の確立	12～15	継			
197	-2300		不耕起、無中耕、無培土栽培に適応した品種、栽培法の検討	11～15	継			野菜畑作
198	97 -2000	畑作物	畑作物の革新的作型の確立 小麦の冬期播種栽培技術の確立	13～15	継		県単 研究	
199	739 -2100	畑作物 生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立	13～17	継	野菜畑作 生産工学 農業経営 土壌作物栄養 営農技術 やませ利用	国庫 研究	
200	-2200		小麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術の確立	13～17	継			
201	100 -1000	畑作物 情報利用	畑作物の生育相及び気象反応の解明 大豆の生育相と気象反応の解明	S49～13	完	野菜畑作 やませ利用	県単 研究	
202	-2000		麦類の生育相と気象反応の解明	S49～13	完			
203	727	畑作物	水田大豆の加工適性向上のための高品質安定化技術	13～15	継	野菜畑作	国庫 委託	
204	96 -2400	畑作物 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術 不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術 大豆作を中心とした水田利用作付体系の実証<地域に適合した転換畑の持続的作付け体系の組立実証	11～15	継	野菜畑作 農業経営	国庫 研究	
205	105		畑作物原々種および原種生産	S29～13	完			野菜畑作
206	150 -1000	野菜	園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発 新接ぎ木法に対応した養生・順化技術の確立	9～13	完			
207	151 -1110		園芸作物の経営基盤を強固にする省力・低コスト生産技術の開発 セル成型苗等省力・低コスト生産技術の開発 雨よけトマトにおけるセル成型苗直接定植技術の確立 重複2作栽培による長期どりの検討	9～13	完			
208	-1210		ハウスピーマンにおけるセル成型苗直接定植技術の確立 徒長防止による初期収量確保の検討	9～13	完			
209	156 -1000		大規模野菜生産技術の確立 夏秋キュウリの省力型品種の選抜	9～13	完			
210	-2000		雨よけトマトの省力型品種の選抜	9～13	完			
211	-3000		ピーマンの省力型品種の選抜	9～13	完			
212	738 -1000		雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大 省力技術の実証	13～15	継			野菜畑作 産地育成
213	-2000		安定多収技術の実証	13～15	継			
214	157 -3000	野菜 土壌作物 保鮮流通	園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 地床利用によるトマトの点滴灌水同時施肥栽培技術の開発実証	12～14	継	野菜畑作 農業経営 土壌作物栄養 保鮮流通技術 南部園芸		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算
215	159	野菜 土壌作物	新肥料の肥効試験	9～13	完	野菜畑作	民間委託
216	163 -1000	野菜	ニューなばな「はるの輝」の前進作型の開発 ワックスレス中生優良系統の選抜	S58～13	完		令達
217	744 -1000		水田を活用した持続型作付体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 優良種苗の現地選抜	13～15	継	野菜畑作 応用生物学	県単研究
218	165 -1000	野菜 作物ﾊﾞｲｸ	野菜の優良栄養繁殖系品種の育成 サトイモの優良系統の選抜	10～15	継	野菜畑作	令達
219	744 -2000	野菜	水田を活用した持続型作付体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 田畑輪換を中心とした連作障害対策の実証	13～15	継	野菜畑作 病理昆虫	県単研究
220	174		えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖	8～13	完	野菜畑作	令達
221	191	花き 作物ﾊﾞｲｸ 花き	りんどうの品種育成	S49～15	継	花き 応用生物学	
222	192	花き 作物ﾊﾞｲｸ	スターチス類の品種育成	11～15	継		
223	193		スターチス・シヌアータの優良培養系統の特性評価	9～13	完	花き 応用生物学 南部園芸	県単研究
224	194	花き	ニュータイプ小ぎくの品種育成	1～15	継	花き	令達
225	195	花き 作物ﾊﾞｲｸ	ゆりの品種育成	5～15	継	花き 応用生物学	
226	196 -1100	花き	寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立 枝物花木の寒冷地向け適品種選定及び栽培技術の確立 品目選定と栽培特性	12～16	継	花き	国庫研究
227	-1200		効率的増殖法及び育苗技術の確立	12～16	継		
228	-1300		栽植方式及び早期株養成技術の解明	12～16	継		
229	-1400		整枝及び仕立て法の開発	13～16	継		
230	-1500		休眠特性の解明と促成栽培技術の確立	13～16	継		
231	197 -1000		寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術 宿根草等の鉢物化技術の確立	10～14	継		県単研究
232	202 -2000		農薬、新資材等の実用化試験 F K H -14水和剤、プロザミド水和剤の小ぎく栽培床適応性	12～13	完		民間委託
233	204		沖縄系小ぎくの長期安定出荷技術	11～13	完		令達
234	205		沖縄養成洋ラン鉢物の年内出荷体系の確立	11～13	完		
235	207		カジュアルフラワーの栽培安定化技術の確立	12～14 13	廃止		県単研究
236	208 -1000		りんどうの高品質安定生産技術の開発 りんどうの栄養系品種の高品質安定生産技術及び不時出荷技術の開発	6～13	完		
237	-1000		主要切花品目の開花調節機能の解明 りんどうの生育、開花制御要因の解明	9～13	完		
238	-2000		りんどうの作況調査	S58～13	完		
239	-3000		トルコギキョウの生育、開花制御要因の解明	9～13	完		
240	211		りんどうの高品質促成栽培技術の確立	10～14	継		
241	212 -1000		きく類の長期出荷技術の開発 小ぎく、スプレーギクの作期拡大技術の開発	9～13	完		
242	213	花き	りんどうのセル成型育苗の管理指標の策定	7～13	完		
243	746		沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	13～15	継	花き 病理昆虫	
244	214		花き原種苗の維持・増殖	S49～17	継	花き 応用生物学	令達
245	344 -3000	土壌作物 花き	新肥料の実用化試験 スプレーギクに対するノンストレス肥料の肥効確認	12～14	継	花き	民間委託

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
246	150 -2100	野菜	園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発 低温処理等による付加価値型苗生産技術の開発 短日処理によるいちご促成作型の開発	9～13	完	南部園芸	県単研究
247	747 -1000		水田地帯における園芸生産の高度・安定化 いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化	13～15	継		
248	711		いちご低温カット栽培における高設栽培技術の確立	13～15	継		
249	156 -4000		大規模野菜生産技術の確立 夏秋きゅうり急性萎凋症状の耕種の発生要因の解明	12～15	継	南部園芸 野菜畑作	
250	712		トマト溶液栽培による周年栽培技術の確立実証	13～15	継	南部園芸	
251	748 -1000		東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証・確立	13～15	継		
252	157 -1000		園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 いちごのベンチアップ栽培の確立	11～15	継		
253	-2000		トマトの少量土壌培地耕栽培技術の確立	11～15	継		
254	160 -1000	野菜 土壌作物	新肥料の肥効検定他 果菜類に対する肥効確認	9～13	完		民間委託
255	193	花き 作物ハイク	スターチス・シヌアータの優良培養系統の特性評価	9～13	完	南部園芸 応用生物学	県単研究
256	197 -2000	花き	寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術 秋出荷花壇苗の生産体系の確立	10～14	継	南部園芸	
257	201 -2000		地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術 トルコギキョウの秋冬出し高品質生産技術の確立	9～13	完		
258	710		太陽光発電を利用した栽培技術の確立	13～17	継		
259	160 -2000	花き 土壌作物	新肥料の肥効検定他 花きに対する肥効確認	9～13	完		民間委託
260	203 -1000	花き	施設の高度利用技術による花き周年生産技術 ラクスパーク等の越冬、抑制作型における良品生産技術の確立	9～13	完		県単研究
261	310 -1000	環境保全	施肥窒素溶脱抑制技術の確立 ライシメーター試験	3～14	継	環境保全	令達
262	311		農薬残留対策調査(作物残留)	S46～13	完		国庫委託
263	312		農薬残留安全追跡調査	10～14	継		国庫研究
264	313 -1000		農薬安全使用等啓発事業 防除農薬散布層の安全性確認調査	12～14	継		
265	314		土壌汚染防止対策技術の確立	S62～13	完		令達
266	749		農薬残留対策調査(水系残留)	13～13	完		国庫委託
267	315 -1100	環境保全 水稻	農薬水質影響調査 水質影響低減技術の開発 いもち病防除剤の施用法と水系での残留	10～13	完		国庫研究
268	-1200	環境保全	種子消毒廃液処理対策技術の確立	10～14	継		
269	750 -1000	環境保全 病害虫	農薬水質影響調査 育苗箱施薬による水田生態系への影響	13～15	継		
270	316 -1000	環境保全	環境にやさしいマルチ資材等利用技術 生分解性マルチフィルムの分解特性及び作物への影響調査	11～13	完	環境保全 営農技術	県単研究
271	327		寒冷地におけるケナフの栽培特性の解明	12～13	完	環境保全 営農技術 やませ利用	
272	325	土壌作物	水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	10～14	継	環境保全	令達
273	328 -1000		連作障害発生要因の解明 作付け体系及び土壌管理と土壌生態系の関係の解明	9～13	完	環境保全 土壌作物栄養	県単研究
274	504 -2000	生物機能 野菜 病害虫	天敵による施設果菜類の多犯性害虫防除技術の確立 キュウリにおける天敵を利用したアブラムシ類の総合防除	12～13	完	環境保全	県単研究
275	714	有機農業 野菜	キャベツにおける無農薬・無化学肥料栽培技術	13～15	継		令達

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算
276	521	有機農業 野菜 病害虫	電解機能水による野菜の病害に対する抑制効果の実証	12～14	継		国庫 委託
277	522	有機農業	有機農産物の生産条件の解明	12～15	継		県単 研究
278	523 -2100	有機農業 水稲	水稲における環境保全型農業の総合組立 水稲の減農薬栽培技術の確立 育苗期における減農薬体系の組立	13～15	継		国庫 研究
279	-2200		本田における減農薬栽培の組立	13～15	継		
280	560 -1000	情報利用	農業気象観測とメッシュ気象図の活用方策の確立 農業気象観測と気象情報データベースの作成・管理	9～13	完		県単 研究
281	-2000		アメダスによる地域別気象特性評価	9～13	完		
282	38 -4000	水稲 土壌作物	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 湛水点播直播栽培の施肥管理技術	11～15	継	土壌作物栄 養 水田作	国庫 研究
283	444 -2110	生産システム 水稲	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の開発 寒冷地水耕育苗における最適環境制御技術の開発 養分供給方法	11～14	継	土壌作物栄 養 生産工学	
284	320 -1100	環境保全 水稲 土壌作物	環境保全型有機質資源施用基準設定調査 有機物連用試験 水稲の有機物施用基準設定調査	10～14	継	土壌作物栄 養	令達
285	326 -1000	有機農業 環境保全 土壌作物	合理的施肥のための新肥料の開発 発酵鶏糞配合肥料の肥効確認	11～13	完		民間 委託
286	340 -1000	土壌作物 水稲	農作物の要素欠乏及び過剰対策の確立 要素反応と施肥改善(施肥反応と気象)	S38～14	継	土壌作物栄 養 営農技術	県単 研究
287	-2100	土壌作物 花き	微量要素欠乏対策 りんどうの栄養・吸収モデルの作成	S54～14	継	土壌作物栄 養	
288	341 -1000	土壌作物 果樹	りんごの生育予測、栄養診断技術の確立 りんごわい性樹の栄養診断法	9～14	継		令達
289	342 -1000	土壌作物 花き	野菜、花きの生育予測、栄養診断技術の確立 野菜・花き・畑作物の栄養診断手法の確立	11～15	継		県単 研究
290	343 -1000	土壌作物 水稲	水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立 水稲栄養の気象・土壌反応(作況)	S47～13	完	土壌作物栄 養 水田作	
291	157 -4000	土壌作物 野菜	園芸作物の養液土耕施設等に対応した生産技術 点滴かん水による養・水分供給技術の確立	12～14	継	土壌作物栄 養 野菜畑作	
292	345	土壌作物 花き	新肥料の実用化	13～15	継	土壌作物栄 養	民間 委託
293	347 -1000	土壌作物 野菜	肥効調節型肥料の導入技術の確立 野菜類の全量育苗時施肥技術の確立	13～14	継		国庫 研究
294	348 -2100	土壌作物 花き	露地野菜・花き等の土壌管理技術の確立 りんどうの土壌管理指針策定 りんどう生産環境実態調査	10～14	継		
295	-2200		りんどう土壌管理指針策定	10～14	継		
296	349 -1000	土壌作物 果樹	果樹桑等の永年作物の土壌管理技術 りんご園の土壌管理有機物施用指針策定	10～14	継		令達
297	350 -1000	土壌作物 野菜	施設野菜栽培土壌の塩類集積予防対策と土壌管理技術の確立 施設栽培における有機物施用基準の策定	5～14	継		
298	351 -2000	土壌作物 環境保全	不良土壌基盤の簡易改良技術の開発 下層土改良による畑土壌の生産力の向上	9～14 13	廃止		
299	324 -1100		良質堆肥の有効利用技術の確立 畜産由来資源等の特性解明と有効利用技術の確立 家畜ふん堆肥の品質評価基準の策定	9～14 13	繰上 完了	土壌作物栄 養 飼料生産	

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( : 主担当)	予算
300	-1200		家畜ふん堆肥の成分特性	9~14 13	繰上完了		
301	-1300		家畜ふん堆肥のデータベース作成	9~14	継		
302	319		家畜糞尿施用による水質汚染防止技術の確立	9~13	完	土壌作物栄養	
303	353	土壌作物	土壌中可給態窒素の簡易評価法の確立	9~13	完		県単研究
304	355 -1000		土壌蓄積養分の有効利用法 土壌中可給態窒素・交換性カリ含量と作物生育との関係解明	9~13	完		
305	357		畑土壌における土壌中可給態窒素含量と作物生育との関係解明	9~13	完		
306	751 -1000	土壌作物 情報利用	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの開発 作物生育適地評価システム開発	13~15	継	土壌作物栄養 農業経営 営農技術	国庫委託
307	320 -2000	土壌作物 環境保全	環境保全型有機質資源施用基準設定調査 土壌機能実態モニタリング調査	10~14	継	土壌作物栄養	国庫研究
308	-1200		有機物連用試験 畑地の有機物施用基準設定調査	10~14	継		令達
309	157 -5000	野菜 保鮮流通	園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 養液土耕栽培での高品質生産条件の解明	11~15	継	保鮮流通技術 野菜畑作	県単研究
310	530 -1000	保鮮流通	各種農産物の品質評価指標の解明 果菜類の簡易品質評価法	11~13	完	保鮮流通技術	
311	-2000	保鮮流通 野菜	寒締め菜っぱの簡易品質評価法	13~15	継		
312	531 -1000	保鮮流通 野菜 土壌作物	農産物の各種栄養成分含量と土壌環境条件との関係の解明 ほうれんそう内部品質向上のための有機物施用等土壌管理技術の確立	10~14	継	保鮮流通技術 土壌作物栄養	国庫研究
313	745	保鮮流通 野菜	枝豆新品種の鮮度保持技術の確立	13~15	継	保鮮流通技術	令達
314	128 -3100	保鮮流通 果樹	需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立 食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立	12~16	継	保鮮流通技術 果樹	国庫研究
315	196 -2100	保鮮流通 花き	寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立 切り枝の品質保持技術の確立 鮮度保持剤等の利用による品質保持技術の確立	13~16	継	保鮮流通技術 花き	
316	536	保鮮流通 野菜 花き	真空予冷施設等を高度に活用した高鮮度流通技術の開発	11~13	完	保鮮流通技術	県単研究
317	483 -4000	農産物加工 畑作物	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 雑穀の加工適性評価	12~14	継	保鮮流通技術 やませ利用	国庫研究
318	544 -2000		地域特産物を利用した加工食品の開発 大豆加工菓子類等の製造技術開発	13~13	完	保鮮流通技術	令達
319	483 -5000		地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 雑穀の粒形を活かした加工品の開発	12~15	継	保鮮流通技術 やませ利用	国庫研究
320	546 -1000	農産物加工	農産物加工品の品質評価法の確立 地域推奨品流通適正化調査分析	11~14	継	保鮮流通技術	令達
321	548		加工工房指導業務	9~14	継		県単公園
322	370	病害虫 果樹	りんごのカメムシ類の発生生態と防除法	9~13	完	病理昆虫	国庫研究
323	371 -2000	病害虫 花き	花き類の新奇病害虫の発生生態把握及び防除技術の開発 りんどうのチビクロキノコバエの防除技術	9~13	完		県単研究
324	372	病害虫	新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明	9~17	継		国庫研究
325	373	病害虫 水稻	斑点米カメムシの発生生態解明と防除法の確立	12~14	継		国庫研究
326	374	病害虫 野菜	ねぎ病害虫の発生生態	9~13	完		県単研究

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
327	731		なす科野菜における青枯病総合防除技術の確立	13～15	継	病理昆虫 野菜畑作	国庫研究
328	733	病害虫 果樹	リンゴ根頭がんしゅ病の発生生態と診断法	13～14	継	病理昆虫 果樹	県単研究
329	734	病害虫 花き	キク矮化ウイルスの遺伝子診断法の確立	13～14	継	病理昆虫	
330	382	病害虫 水稲	イネもみ枯細菌病菌	12～14	継		国庫研究
331	383	病害虫	りんごのハダニ類	9～13	完		
332	735	果樹	リンゴ炭そ病の発生予察技術の開発	13～15	継		
333	389 -1000	病害虫 花き 情報利用	野菜花き害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証 りんどう病害虫防除体系の確立と実証	10～14	継		
334	388	病害虫 水稲 情報利用	イネいもち病の省力的予察法の確立及び広域の実証	12～15	継		
335	392	病害虫 畑作物	あずきウイルス病抵抗性検定試験	S53～17	継		国庫委託
336	393	病害虫 野菜	トウモロコシすす紋病抵抗性検定試験	S33～13	完		
337	394	病害虫 草地飼料	ソルガムすす紋病抵抗性検定試験	S37～13	完		
338	402	病害虫	新農薬の効果検定と防除基準作成	S49～17	継		民間委託
339	715	病害虫 水稲	水稲初期害虫の隔年防除技術の確立	13～15	継	病理昆虫 営農技術	国庫研究
340	730	病害虫 野菜	きゅうりにおける総合的病害防除技術の確立	13～15	継	病理昆虫	
341	741 -2000	病害虫 果樹	複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証 散布回数削減病害虫防除体系の実証	13～15	継		県単研究
342	742 -2000	生物機能	有用拮抗微生物の探索と評価 昆虫病原ウイルスの利用技術	13～15	継		
343	415 -2000		土着天敵群の実態解明とその利用技術 ピーマン害虫に対する総合防除技術の確立	12～14	継		
344	492 -2000		需要動向を見極めた繭・糸・桑の生産技術開発 細織度三眠蚕生産技術の現地実証	13～14 13	繰上 完了		
345	499		天蚕の優良系統育成	1～17	継		令達
346	502		人工飼育昆虫の利用技術	12～14	継		県単研究
347	236	肉畜	日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45～17	継	家畜育種	令達
348	237		日本短角種産肉能力検定(間接法)	S48～17	継		
349	240	肉畜 情報利用	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	9～13	完		県単研究
350	241	肉畜 家畜P <sup>1</sup> イ <sup>1</sup> ク	分割胚由来一卵性双子を用いた優良種畜作出システムの確立	9～13	完	家畜育種 家畜工学 外山畜産	
351	242 -2400	肉畜	北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立 集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発 放牧育成肥育素牛の肥育特性の解明	12～15	継	家畜育種 農業経営	国庫研究
352	246		「いわて短角牛」適正出荷のための肥育技術の確立	12～14	継	家畜育種	県単研究
353	247	肉畜 情報利用	黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の開発	8～13	完	家畜育種 種山畜産	研究
354	248	肉畜	ビタミンA制限による肥育技術の確立	10～15	継	家畜育種	令達
355	249		高能力、高品質、斉一性の高いランドレース種の系統造成	5～13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
356	251		優良鶏性能調査	2~17	継		
357	720		岩手独自の交雑種鶏を活用した組み合わせ検定	13~15	継		県単研究
358	723	環境保全	戻し堆肥の敷料利用システムの確立	13~14	継	家畜育種 飼料生産 家畜飼養	
359	230	酪農	高泌乳・高蛋白牛飼養管理技術の確立	10~16	継	家畜飼養 家畜工学	
360	721		集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立	13~17	継	家畜飼養	
361	232		時間制限集約放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立	10~14	継		
362	233 -1100	酪農 情報利用	完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 搾乳ロボット等を応用した超省力管理技術の確立	9~13	完		
363	722	酪農	ロボット搾乳とパーラー搾乳が乳腺細胞に及ぼす影響と乳房炎発生との関係	13~15	継		
364	300	家畜ハイク	受精卵移植技術実用化確立試験	9~13	完	家畜工学	
365	301	肉畜	過剰排卵処理法と経膈採卵の組み合わせによる胚生産の検討	11~13	完	家畜工学 種山畜産	令達
366	302	家畜ハイク 酪農	雌雄判別技術を利用した乳用牛群改良技術の確立	11~15	継	家畜工学 家畜飼養 種山畜産	県単研究
367	303	家畜ハイク 肉畜	核移植技術による優良種畜の大量生産技術の開発	10~15	継	家畜工学 外山畜産 種山畜産 家畜飼養	国庫研究
368	304		肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析	7~18	継	家畜工学 家畜育種 種山畜産	令達
369	740 -3000	水稻 草地飼料	寒冷地北部におけるホーククロップ用イネの栽培実証 良質イネホーククロップサイレージ調整技術の確立	13~15	継	飼料生産 水田作	国庫委託
370	253	草地飼料	とうもろこし市販品種の特性比較試験	S54~17	継	飼料生産	令達
371	254		とうもろこし系統適応性検定試験	S55~17	継		国庫委託
372	725		ソルガム市販品種の特性比較	13~15	継		令達
373	255 -1000		採草用牧草の品種選定試験 オーチャードグラス	11~13	完		
374	-2000		チモシー	11~13	完	飼料生産 外山畜産	
375	726		採草用牧草の播種基準の策定	13~15	継	飼料生産 水田作	県単研究
376	256 -1400		北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 北上山地における良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証 開発技術導入による良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証	10~13	完	飼料生産 農業経営	国庫研究
377	-2100		採草地の機能強化のための良質粗飼料生産技術の開発 公共草地における低位利用草地の簡易牧草種子追播機による草生改良技術の確立	10~13	完	飼料生産	
378	-2200		新品種導入等による標高別草種・品種の新組み合わせ選定(中標高地)	9~13	完	飼料生産 外山畜産	
379	743		ソルガムラップサイレージ調製技術	13~15	継	飼料生産	令達
380	257		糞尿施用とうもろこし畑の簡易診断技術の確立	10~14	継		県単研究
381	259		牧草の気象感応試験	S41~13	完		県単研究
382	724		被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立	13~15	継		
383	263		粗飼料の硝酸態窒素簡易測定法の確立	12~13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
384	318	環境保全	ロックウールの脱臭装置の高機能化とドレインの環境保全的循環技術	12～16	継		国庫委託
385	323		県内における各種堆肥化システムの稼働実績と適応性の解明	12～13	完		県単研究
386	242 -2100	肉畜 草地飼料	北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立 集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発 草種構成と緩効性肥料の組み合わせによる草地生産平準化技術	11～15	継	外山畜産	国庫研究
387	-2200	肉畜	適正輪換放牧方式による発育向上技術	11～15	継		
388	-2300		放牧草の栄養特性に対応した補助飼料給与技術	11～15	継		
389	243	肉畜 家畜バィク	胚移植技術を取り入れた効率的な繁殖経営の実証	9～13	完	外山畜産 家畜工学 農業経営	県単研究
390	256 -2300	草地飼料	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 採草地の機能強化のための良質粗飼料生産技術の開発 新品種導入等による標高別草種・品種の新組み合わせ選定(高標高地)	9～13	完	外山畜産 飼料生産	国庫研究
391	262		広葉樹林帯を活用した肉用牛放牧における水土保全機能の解明	11～15	継	外山畜産	県単研究
392	234	肉畜	黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62～17	継	種山畜産	令達
393	235		黒毛和種産肉能力検定(間接法)	1～17	継		
394	238		県有種雄牛の能力調査	9～13	完		県単研究
395	751 -2000	畑作物	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの開発 土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	13～15	継	営農技術 産地育成	国庫委託
396	154 -4000	野菜 土壌作物	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 緑肥導入技術の環境の評価	13～13	完	営農技術 病理昆虫 産地育成	
397	-2200	野菜 やませ利用 土壌作物	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 省力機械化体系に適した栽培技術開発 機械化に対応した施肥技術の改良	10～13	完	営農技術 土壌作物栄養	国庫研究
398	316 -2000	環境保全 野菜	環境にやさしいマルチ資材等利用技術 環境にやさしいマルチ資材等利用技術	11～13	完	営農技術	県単研究
399	320 -1100	環境保全 水稲 土壌作物	環境保全型有機質資源施用基準設定調査 有機物連用試験 水稲の有機物施用基準設定調査	10～14	継		令達
400	-1200	環境保全 土壌作物	畑地の有機物施用基準設定調査	10～14	継		
401	321 -1000	環境保全 水稲	有機質資材等の施用管理技術の確立 有機質資材の水田での窒素発現特性把握	9～13	完	営農技術 土壌作物栄養	
402	-2000	土壌作物	有機質資材中窒素の水稲による利用率把握	9～13	完		
403	-3000		有機質資材の水田施用と水質	9～13	完		
404	-4000		有機質資材の環境保全型施用技術総合実証	9～13	完		県単研究
405	343 -2300	土壌作物 水稲	水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立 水稲作物栄養モデルの作成 岩南16号の生育診断指標	9～14	継	営農技術 やませ利用	
406	352 -1000	土壌作物	開発農地の土壌管理技術の確立 新規造成畑の早期熟畑化実証(場内)	9～13	完	営農技術 土壌作物栄養	
407	716 -1000	病害虫 野菜	中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の生態把握及び防除技術の開発 レタスにおけるナモグリバエの発生生態と防除法の確立	13～15	継	営農技術 病理昆虫	
408	752	病害虫	害虫発生予察支援システムの開発	13～17	継		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
409	154 -5000	病害虫 病害虫 野菜	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 土地利用型輪作体系における生産性向上制限要因の解明	9～13	完	営農技術 病理昆虫 産地育成	国庫 研究
410	398 -1000	病害虫 野菜	東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術 の確立 キャベツ根こぶ病菌密度の推移と発病度の実態解析	10～14	継	営農技術	
411	-2000		土壌評価に基づく対抗植物を利用したキャベツ根こぶ病発病 抑制効果の評価	10～14	継		
412	-3000		キャベツのコナガ寄生蜂導入条件の策定	10～14	継		
413	-4000		検定植物を用いた根こぶ病の簡易菌密度推定法の確立	10～14	継		
414	-5000		C Rダイコンを組み込んだ転作体系による減農薬栽培技術の 実証	10～14	継		
415	-6000		エンバクを組み込んだ輪作体系による減農薬栽培技術の実証	10～14	継		
416	402	病害虫	新農薬の効果検定と防除基準作成	S49～17	継		民間 委託
417	753	農業農村 やませ利用	大規模普通畑作経営体の地域農業に及ぼす効果	13～15	継		県単 研究
418	706	生産システム 水稻	県北部を対象とした水稻低コスト生産システムの開発	13～15	継	営農技術 やませ利用 水田作 生産工学 農業経営	
419	563 -1100	生産システム 野菜	野菜・花き等機械化技術の開発 作業機械・新資材の利用技術の確立 ほうれんそう収穫機械の開発改良	10～14	継	営農技術	令達
420	739 -2200	生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の 開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 小麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術	13～17	継	営農技術 やませ利用 生産工学 野菜畑作	国庫 研究
421	154 -1120	やませ利 用 野菜 農業農村	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 露地野菜の省力機械化技術の適応条件の解明 ダイコン等	9～13	完	営農技術 生産工学	
422	482	やませ利用	畑地かんがい地帯における野菜・花き等を組み入れた高収益モデル 実証	13～15	継	営農技術	県単 研究
423	483 -2514	やませ利 用 畑作物 病害虫	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確 立 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発(技術開発試験) 雑穀類の高付加価値化技術 ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術 アワを中心とした雑穀類の害虫の発生生態の解 明と防除対策	11～15	継	営農技術 やませ利用	国庫 研究
424	-2515	やませ利	ヒエ・アワの乾燥調製法	11～15	継		
425	-3212	用 畑作物	消費ニーズを踏まえた生産流通システムの実証 高付加価値雑穀の生産技術の現地実証 ヒエ・アワの無農薬栽培現地実証 ヒエ・アワの乾燥調製法	11～15	継		
426	713 -2000	やませ利 用 野菜	雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術確立 省力低コスト化技術体系の組み立て	13～15	継	営農技術 産地育成 生産工学 農業経営	県単 研究
427	520	有機農業 野菜	作型を利用したレタスの無農薬栽培技術	9～13	完	営農技術 環境保全 病理昆虫	令達
428	154 -2110	野菜 生産システム やませ利用	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 省力機械化体系に適した栽培技術の開発 定植機・収穫機等に対応したキャベツ栽培法の確立 定植苗の生育斉一化	9～13	完	産地育成 営農技術	国庫 研究

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
429	-2120		本畑での生育斉一化	9～13	完	産地育成 営農技術	
430	-3100	野菜 生産システム 農業農村	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の実証と評価 機械化畑輪作体系の作物生産に対する評価	9～13	完	産地育成 農業経営 営農技術	
431	161	野菜 土壌作物	新肥料の肥効試験	11～13	完	産地育成	民間 委託
432	164 -3000	野菜	地域適応性に優れた品種の選定 キャベツの品種選定	9～13	完		県単 研究
433	-4000		ハウレンソウの品種選定	9～13	完		
434	-5000		ダイコンの品種選定	9～13	完		
435	173		調理用トマトの安定生産技術	11～13	完		
436	483 -2200	野菜 やませ利用	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発(技術開発試験) コマツナ等の冬春期安定生産技術の開発	11～13	完	産地育成 農業経営	国庫 研究
437	-2310		山菜の安定生産技術 ウルイの母株養成技術の開発	11～15	継		
438	-2320		促成栽培に有望な山菜類の収集	11～15	継		
439	-2330		有望山菜の生産安定技術の検討	13～15	継		
440	-2410	花き やませ利用	特産的花きの商品化技術 有望品目・有望品種の収集及び選定	11～13	完		
441	-2420		有望品目・有望品種の栽培法の検討	12～14	継		
442	-2430		宿根草・花木を組み合わせた長期継続出荷体系の確立	13～15	継		
443	-3110		消費ニーズを踏まえた生産・流通システムの実証(体系化実証試験) 高付加価値花きの生産技術の現地実証 有望宿根草・花木の現地適応性	11～14	継		
444	-3120		低コスト高品質栽培の実証	12～14	継		
445	199	花き 地域活性化	寒冷地における法面の省力的管理・景観形成に適した植物種の選定及び低コスト増殖	12～14	継	産地育成	県単 研究
446	201 -3000	花き	地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術 デルフィニウムの品種選定と栽培技術の確立	9～13	完		
447	484 -3000	花き やませ利用	県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証(一戸町小友地区) 花壇苗周年生産技術の確立	9～14	継		
448	344 -5000	花き 土壌作物	新肥料の実用化試験	11～13	完		民間 委託
449	713 -1100	やませ利 用 野菜	雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術確立 高位安定生産技術の確立 遮光方法の検討	13～14	継	産地育成 営農技術 農業経営	県単 研究
450	-1200		かん水方法の検討	13～14	継		
451	-1300		効率的安定生産技術の検討	13～14	継		
452	15 -3000	水稲	水稲生産力検定試験 生産力検定本試験(早生品種関係等)	9～13	完	やませ利用	令達
453	24 -2000		育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験 早生水稲系統	9～13	完		
454	35 -2000		奨励品種決定予備調査(粳、糯) 早生品種	S29～13	完		県単 採種
455	36		奨励品種決定本調査(粳、糯) 早生品種	S29～13	完		
456	40 -1200		水稲作用新除草剤の効果の解明 水稲作用除草剤第2次適用性試験 県北適応性	S34～13	完	やませ利用 水田作	民間 委託
457	704 -2000	水稲 保鮮流通	米の食味改善診断技術の開発 早生水稲品種の食味診断技術開発	13～15	継		県単 研究

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
458	47 -1110	水稲	栽培条件に対応した高品質・良食味生産技術の開発 水稲有望系統の栽培特性 「岩南16号」の栽培特性 作期・施肥法	12～15	継		
459	-1120		地域適応性・施肥法(現地試験)	12～15	継		
460	49 -2000	水稲 情報利用	水稲作況調査と作柄成立要因の解析 早生品種	S34～13	完	やませ利用 土壌作物栄養 病理昆虫	
461	50 -2000	水稲	水稲優良品種の気象反応試験 早生品種関係	S34～13	完	やませ利用	
462	82 -1000	畑作物	普通作物等の多収良質品種の育成 小麦奨励品種決定調査	S56～13	完	やませ利用 野菜畑作	県単 採種
463	-2000		大豆奨励品種決定調査	S29～13	完	やませ利用	
464	-3000		そば優良系統の選抜	13～15	継	やませ利用 野菜畑作 保鮮流通技術	県単 研究
465	483 -2511	畑作物 やませ利用	高付加価値農産物の生産・流通技術の開発(技術開発試験) 雑穀類の高付加価値化技術 ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術 ヒエの育苗法の検討	11～15	継	やませ利用 営農技術	国庫 研究
466	-2512		アワの除草法の検討	11～15	継		
467	-2513		ヒエの無農薬水田移植栽培技術の検討	11～15	継		
468	-3210		消費ニーズを踏まえた生産・流通システムの実証(体系化実証試験) 高付加価値雑穀の生産技術の現地実証 ヒエ・アワの無農薬機械化栽培現地実証	11～15	継		
469	754	畑作物	新規需要・高機能性品種・系統の選定 高製パン適性小麦系統「東北214号」の高品質・安定多収栽培技術	13～15	継	やませ利用 野菜畑作	国庫 委託
470	90		大豆系統適応性検定試験	S45～13	完	やませ利用	
471	93 -1000		革新的農業技術・経営実証 大豆無培土栽培現地実証	11～13	完		令達
472	99 -1000		新資材の実用化 子床用ポット 生分解性資材	12～13	完		民間 委託
473	-2000		育苗用培土	12～13	完	やませ利用 営農技術	
474	101 -1000		気象と作物の生育相解析 小麦作況調査	S57～13	完	やませ利用 野菜畑作	県単 研究
475	-2000		大豆作況調査	S57～13	完		
476	316 -3000	環境保全 畑作物	環境にやさしいマルチ資材等利用技術 鍬込み可能マルチの葉たばこ栽培への適応性	10～13	完	やませ利用	
477	739 -2100	生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立	13～17	継	やませ利用 営農技術 野菜畑作	国庫 研究
478	171 -1110	やませ利 用 野菜 土壌作物	北部沿岸農地開発地域における大規模野菜作経営の実証 農地開発地における持続型高収益野菜モデル経営の実証 継続実施可能な有機物施用方法の検索 畜産由来有機物利用による低コスト土壌改良効果実証	13～15	継	やませ利用 営農技術	県単 研究
479	-1210		高収益土地利用型野菜等を組み入れた畑輪作体系の確立 緑肥を組み入れた普代型モデル畑輪作体系の実証	13～15	継		

(3) 要望課題の実施

ア 平成 10～13 年度実施要望分

区分	計	平成 13 年度措置及び実施状況									備 考
		未着手のもの		13 年度着手したものの実施状況			そ の 他				
		A 1	A 2	B1-a	B1-b	B1-c	B 2	C	D		
平成 12 年度 措 置	A 1	4 4	1	1	7	2 6	8		1		
	A 2	1 8	2	1 1							B1：前倒しで実施
	B 1	2 4 3			4 6	100	2 8	1	4 9	1 7	A1：新規課題に組み替え等 C：12 年度研究成果として提出 D：組織再編等により対応困難
	B 2	2 0			1		2	1 7			
	合計	3 2 5	5	1 2	5 4	130	3 9	1 8	5 0	1 7	

注 1：平成 13 年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14 年度実施予定)
- A 2 (15 年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1～2 年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成 12 年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13 年度実施予定)
- A 2 (14 年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

注 2：措置数は延べ数。1 要望課題に複数の措置がある場合は個々にカウント。

措置状況調査課題数は、252 課題 (H10：72、H11：39、H12：64、H13：77)

総要望課題数は、379 課題 (H10：131、H11：78、H12：73、H13：97)

1 課題内で全ての措置が「C」もしくは「D」となった時点で調査対象より削除。

イ 平成13年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧

総合部門（経営）		平成13年度措置及び実施状況									備考
		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)			1	7					8	
	A2(14年度以降実施予定)										
	B1(現在実施中)				5					5	
	B2(県以外の研究機関)										
	C(既知見あり)							4		4	
	D(実施できない)										
計				1	12			4		17	
農産部門		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)	1			2					3	
	A2(14年度以降実施予定)										
	B1(現在実施中)			2	4					6	
	B2(県以外の研究機関)						1			1	
	C(既知見あり)							6		6	
	D(実施できない)								2	2	
計		1		2	6		1	6	2	18	
園芸畑作部門		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)			5	5	3		1		14	H14 新規課題 H13～試験開始
	A2(14年度以降実施予定)	1	2							3	
	B1(現在実施中)			2	9	1		2		15	
	B2(県以外の研究機関)									3	
	C(既知見あり)							13		13	
	D(実施できない)								4	4	
計		2	2	8	14	6		16	4	52	
総合部門（生産環境部門）		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)			1	6	1				8	H14～実施
	A2(14年度以降実施予定)		2							2	
	B1(現在実施中)			2	9	2		6		20	
	B2(県以外の研究機関)						1			1	
	C(既知見あり)							12		12	
	D(実施できない)								2	2	
計		1	2	3	15	3	1	18	2	45	
畜産部門		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)				1	3				4	
	A2(14年度以降実施予定)										
	B1(現在実施中)			1	3					4	
	B2(県以外の研究機関)						2			2	
	C(既知見あり)							4		4	
	D(実施できない)								1	1	
計				1	4	3	2	4	1	15	
全体		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)	1		7	21	7		1		37	
	A2(14年度以降実施予定)	1	4							5	
	B1(現在実施中)	2		7	30	3		8		50	
	B2(県以外の研究機関)			1		2	4			7	
	C(既知見あり)							39		39	
	D(実施できない)								9	9	
計		4	4	15	51	12	4	48	9	147	

平成13年度措置及び実施状況区分

A 1（14年度実施予定）

A 2（15年度以降実施予定）

B1-a（現在実施中、年度内取りまとめ）

B1-b（現在実施中、1～2年後取りまとめ）

B1-c（現在実施中、しばらくかかる）

B 2（県以外の研究機関）

C（既知見あり）

D（実施できない）

ウ 平成12年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧(13年度)

総合部門(経営)		H12 措置	平成13年度措置及び実施状況								備 考	
			A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D		計
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1				2					2	
	A2(13年度以降実施予定)	A 1				2					2	
		A 2		1							1	
	B1(現在実施中)	B 1			1	2	1		2		6	
	計			1	1	6	1		2		11	
農産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1			1	4					5	
	A2(13年度以降実施予定)	A 2					1				1	
		B 1				1					1	
	B1(現在実施中)	B 1			1	4		1			6	
	B2(県以外の研究機関)	B 2						2			2	
計				2	9	1	3			15		
園芸畑作部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1				3	2		1		6	組織再編のため対応困難
	B1(現在実施中)	B 1				2	9		1		14	
	B2(県以外の研究機関)	B 2						3			3	
	計					5	11	3	2	2	23	
総合部門(生産環境部門)		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1				2	1				3	現地調査不十分
	A2(13年度以降実施予定)	A 1				1					2	
		A 2		1							1	
	B1(現在実施中)	B 1					2				2	
		A 1				1					1	
	B2(県以外の研究機関)	B 1			3	6			11		24	国研へ課題要望
		B 2			3						3	
計			2	6	10	3	3	11	4	39		
畜産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1			3						3	
	B2(県以外の研究機関)	B 2						1			1	
	計				3			1			4	
全 体		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1			4	11	3		1		19	
	A2(13年度以降実施予定)	A 1		1		3					4	
		A 2		2			1				3	
	B1(現在実施中)	B 1				1	2				3	
		A 1				1					1	
	B2(県以外の研究機関)	B 1			5	14	10	1	14	6	50	
		B 2			3				9		9	
計			3	12	30	16	10	15	6	92		

平成13年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14年度実施予定)
- A 2 (15年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1~2年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成12年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13年度実施予定)
- A 2 (14年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

エ 平成11年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧(13年度)

総合部門(経営)		H12 措置	平成13年度措置及び実施状況									備 考
			A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	B1(現在実施中)	A 1									2	H13 新規課題
		B 1			1	2					3	
	計				1	4					5	
農産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	B1(現在実施中)	A 1									2	H13 新規課題
		B 1				2					2	
	計					4					4	
園芸畑作部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	A2(13年度以降実施予定)	A 2	1								1	組織再編のため対応困難
	B1(現在実施中)	B 1			5	10			3		19	
	計		1		5	10			3	1	20	
総合部門(生産環境部門)		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 11	B1(現在実施中)	B 1			4	4			3		14	国研へ課題要望
	計				4	4			3	3	14	
畜産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 11	B1(現在実施中)	B 1				3					3	
	計					3					3	
全 体		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	A2(13年度以降実施予定)	A 2	1								1	
	B1(現在実施中)	A 1				4					4	
	計	B 1			10	21			6	4	41	
			1		10	25			6	4	46	

平成13年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14年度実施予定)
- A 2 (15年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1~2年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成12年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13年度実施予定)
- A 2 (14年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

オ 平成10年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧(13年度)

総合部門(経営)		H12 措置	平成13年度措置及び実施状況								備 考		
			A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D		計	
平 11	B1(現在実施中)	B 1				3			1		5	課題打ち切り	
	計					3			1	1	5		
農産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					1				1	H13 新規課題 実施困難	
	A2(13年度以降実施予定)	A 1					1				1		
		A 2		1									1
	B1(現在実施中)	A 1											1
		B 1			5	4	1		5				17
		B 2						1					1
	B2(県以外の研究機関)	B 1					1						1
B 2							8				8		
計			1	5	5	4	9	5	2		31		
園芸畑作部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					1				1	組織再編のため対応困難	
	A2(13年度以降実施予定)	A 2		3							3		
	B1(現在実施中)	B 1			4	6	4		6		21		
	B2(県以外の研究機関)	B 2						3			3		
	計			3	4	6	5	3	6	1			28
総合部門(生産環境部門)		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					1				1	対応困難	
	B1(現在実施中)	B 1			6	8	1		8		26		
	B2(県以外の研究機関)	B 2						1			1		
	計				6	8	2	1	8	3			28
畜産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
11 年 度 措 置	A2(13年度以降実施予定)	A 2		1							1		
	B1(現在実施中)	B 1			2	2					4		
	計			1	2	2					5		
全 体		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					3				3		
	A2(13年度以降実施予定)	A 1					1				1		
		A 2		5									5
	B1(現在実施中)	A 1				1							1
		B 1			17	23	6		20	7			73
		B 2						1					1
	B2(県以外の研究機関)	B 1					1						1
B 2							12				12		
計			5	17	24	11	13	20	7		97		

平成13年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14年度実施予定)
- A 2 (15年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1~2年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成12年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13年度実施予定)
- A 2 (14年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

カ 平成 13 年度試験研究実施要望課題の措置状況

凡例 平成 12 年度：A1=平成 13 年度実施予定、A2=平成 14 年度以降実施予定

B1=現在実施中、B2=県以外の研究機関

C=既知見あり、D=実施できない

平成 13 年度：A1=平成 14 年度実施予定、A2=平成 15 年度以降実施予定

B1=現在実施中、B2=県以外の研究機関（a=年度内とりまとめ、b=1～2年後

とりまとめ、c=しばらくかかる）（B1-a、B2-c等と表記する）

C=既知見あり、D=実施できない

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名	No.					H12	H13	
総合(経営)	4	59	水稲アイガモ農法導入による経営評価	盛岡農業改良普及センター	農業経営	A1 C	B1-a	
総合(経営)	5	53	本県野菜作農家の経営構造の解明、類型化と類型毎の支援策の確立	農産園芸課	農業経営	A1 B1	B1-b B1-b	
総合(経営)	6	64	主業型野菜農家を育成するための経営モデル類型の作成	盛岡農業改良普及センター	農業経営 野菜畑作	A1 B1	B1-b B1-b	
総合(経営)	7	73	大規模りんどう経営の育成方向	湯田地域普及所	農業経営 花き	A1 C	B1-b	
総合(経営)	8	88	農業法人の育成支援対策について	地域農業振興課	農業経営	A1 C	B1-b	
総合(経営)	9	90	今後育成すべき経営体とその育成策の提示	専門技術員室	農業経営	A1 B1	B1-b B1-b	
総合(経営)	10	86	中山間地域等直接支払制度の導入による効果検証	地域農業振興課	農業経営	A1	B1-b	
総合(経営)	11	91	経営能力に優れた経営体の育成と産地体制のあり方の提示	専門技術員室	農業経営	A1 C	B1-b	
総合(経営)	12	87	主業型農家に対する農地の集積利用について	地域農業振興課	農業経営	B1	B1-b	
総合(経営)	13	89	農林業センサスと主業型農家データベースに基づいた地域農業の振興方策と主業型農家の育成対策の提示	専門技術員室	農業経営	B1	B1-b	
農産	1	82	水稲種子の登熟条件の違いによる発芽生理特性の解明と育苗技術の検討	岩手県経済連	水田作 病理昆虫	A1 B1 C	B1-b B1-b	
農産	4	9	冷害常襲地帯における耐冷性・品質を重視した水稲肥培管理技術の確立	久慈農業改良普及センター	やませ利用 水田作 土壌作物栄養	B1 C	B1-b	
農産	5	10	「密植千鳥植え」による高品質安定性産技術の確立	久慈農業改良普及センター	水田作 生産工学 土壌作物栄養 やませ利用	B2 D	B2-c D	
農産	7	49	乾田播種早期湛水直播(折衷直播)栽培技術の開発	農産園芸課	生産工学 水田作	B1 C	B1-b	
農産	8	51	米の食味改善診断システムの開発	農産園芸課	水田作 土壌作物栄養	A1 B1	B1-b B1-b	H13～新規課題
農産	9	47	県産自主流通米の流通過程における品質の低下の実態とその対策	農産物流通課	水田作 保鮮流通技術	D	D	
農産	10	4	畦畔雑草防除のためのネット被覆法	一関農業改良普及センター	生産工学	B1 C	B1-a	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
農産	12	13	水田麦・大豆の作付けに対応した基盤整備手法の確立	農村計画課	生産工学	B1 C	B1-a	
農産	14	93	近年、市販されている補助暗渠機械の効果確認	専門技術員室	生産工学	A1 C	A1	
園芸畑作	1	62	9月下旬から10月上旬に販売できる省力りんご品種の育成	盛岡農業改良普及センター	果樹	B1	B1-b	
園芸畑作	2	77	リンゴの赤色新品種の開発	大船渡農業改良普及センター	果樹	B1	B1-b	
園芸畑作	3	71	りんご樹体内貯蔵養分の測定評価技術の開発と貯蔵養分増加対策	北上農業改良普及センター	果樹 土壌作物栄養	A1 C	B1-c	
園芸畑作	4	8	県北沿岸部における山ぶどうの安定性産技術の確立	久慈地方振興局 久慈農業改良普及センター	果樹	A1 C	B1-c	
園芸畑作	5	63	ぶどう平棚短梢仕立てによる大粒種の栽培技術の確立	盛岡農業改良普及センター	果樹	A1 C	B1-c	
園芸畑作	6	21	きゅうり栽培の総合的な省力化技術の確立	二戸農業改良普及センター	野菜畑作	A2 B1 C D	A1 C D	H12 成果（普及）
園芸畑作	7	80	きゅうり接木育苗時の奇形葉の発生原因と収量・品質に及ぼす影響	岩手県経済連	野菜畑作 土壌作物栄養	A1 B2	B1-a B1-a	
園芸畑作	11	32	カラーピーマンにおける果皮ひび割れ軽減技術の確立	岩泉地域普及所	野菜畑作	A1 D	B1-b D	
園芸畑作	12	66	いちご高設栽培における施肥方法の確立	盛岡農業改良普及センター	南部園芸 土壌作物栄養	A1	B1-b	H13～新規課題
園芸畑作	13	26	枝豆の採種について	軽米地域普及所	野菜畑作 やませ利用	A1 B1 C	C C	H12 成果（行政） 同上
園芸畑作	14	7	夏期における雨よけほうれんそうの安定生産技術	久慈地方振興局 久慈農業改良普及センター	産地育成 野菜畑作	B1 C	B1-b	
園芸畑作	15	19	雨よけほうれんそうの高温期安定生産技術	二戸農業改良普及センター	産地育成 野菜畑作	B1 C	B1-b	
園芸畑作	16	81	雨よけほうれんそうの成育中灌水法の確立	岩手県経済連	産地育成 保鮮流通技術 病理昆虫	B1 C	B1-b	
園芸畑作	17	18	県南部におけるキャベツの夏どり作型の確立	花巻農業改良普及センター	野菜畑作	A1	B1-a	
園芸畑作	18	54	本県産キャベツの市場競争力の向上方策	農産園芸課	産地育成 野菜畑作	A1 B1 C	B1-a B1-a	
園芸畑作	19	22	夏秋ねぎの適品種選定	二戸農業改良普及センター	産地育成 野菜畑作	B1	A1	H14～作型別適品種選定試験開始。
園芸畑作	20	36	加工適性のある大豆極早生品種	千厩農業改良普及センター	野菜畑作	B1	B1-b	
園芸畑作	21	52	麦・大豆立毛間大豆・麦播種技術の本県における適応性について	農産園芸課	野菜畑作	B2 C	B1-c	H13～試験開始（地域基幹研究）
園芸畑作	23	97	県中南部における水稻あと小麦の栽培技術	専門技術員室	野菜畑作 生産工学	A1 B1 C	B1-b B1-b	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
園芸畑作	24	78	小麦の部分耕栽培技術の確立	岩手県経済連	野菜畑作	B1	B1-b	
						B2	B1-c	
園芸畑作	25	96	水田における小麦の安定化のための播種技術	専門技術員室	野菜畑作 生産工学	A1	B1-a	
						B1	B1-b	
						C		
園芸畑作	26	72	大豆跡晩播小麦の栽培法の確立	北上農業改良普及センター	野菜畑作	A1	B1-a	
園芸畑作	27	5	超早生りんどうの品種育成	一関農業改良普及センター	花き	B1	B1-c	
園芸畑作	28	33	りんどうの株仕立て法の確立	岩泉地域普及所	花き	B1	B1-a	
						D	D	
園芸畑作	29	23	りんどうの除草の体系化	二戸農業改良普及センター	花き	A2	A2	
園芸畑作	30	29	りんどう栽培における除草剤の利用体系について	宮古農業改良普及センター	花き	A2	A2	
園芸畑作	32	42	スターチス・シヌアータの収量向上技術	千厩農業改良普及センター	花き	A1	B1-b	
						C		
園芸畑作	33	12	太陽熱利用のハウス簡易暖房施設の試作開発	久慈農業改良普及センター	南部園芸 生産工学	A1	B1-b	H13～新規課題
						D	D	
総合 (生産環境)	1	75	稲わら施用田における水稲有機物施用基準の策定	湯田地域普及所	土壌作物栄養 営農技術	B1 C	C	H12 成果(指導) (豚ふん以外の有機物については試験継続中)
総合 (生産環境)	2	38	水稲減農薬防除体系の評価及び減農薬栽培法の確立	千厩農業改良普及センター	環境保全	A1	B1-b	
						B1	B1-b	
総合 (生産環境)	3	74	水稲減農薬栽培法の確立	湯田地域普及所	環境保全 病理昆虫	A1	B1-b	
						B1	C	
						C		
総合 (生産環境)	4	55	葉もち育苗期感染苗に対する育苗箱施用剤等の防除効果及び残効期間の解明	病害虫防除所	病理昆虫	B1 C	C	H12 成果(指導)
総合 (生産環境)	5	35	小麦の増収および品質向上を図るための融雪期栄養診断基準	千厩農業改良普及センター	土壌作物栄養 野菜畑作	B1	B1-b	
						C		
						D	D	
総合 (生産環境)	6	3	大豆生育への肥料(塩化カリウム)の影響	一関農業改良普及センター	土壌作物栄養 野菜畑作	B1 C	C	H12 施肥合成績書
総合 (生産環境)	7	48	新しい大豆加工食品の開発	農産物流通課	保鮮流通技術	B1	B1-a	
総合 (生産環境)	8	79	新制度下における麦・大豆の成分分析手法の開発及び栽培法と成分の関連について(特に大豆)	岩手県経済連	保鮮流通技術 野菜畑作	B1 C	C	分析手法に関する情報提供済
総合 (生産環境)	9	11	葉茎菜類の植物体内養分簡易測定法の開発	久慈農業改良普及センター	保鮮流通技術	A1 C	B1-c	
総合 (生産環境)	10	69	IPM(総合的病害虫管理)を推進するきゅうり害虫防除体系の確立	農業普及技術課	環境保全 病理昆虫 営農技術	A1	B1-b	
						B1	B1-b	
総合 (生産環境)	11	94	キャベツの畦内局所施肥(条状)技術の確立	専門技術員室	営農技術 土壌作物栄養 生産工学	A1	B1-a	
						B1	B1-a	
						C		
総合 (生産環境)	14	61	りんご病害虫防除での農薬散布回数削減技術の確立	盛岡農業改良普及センター	病理昆虫 環境保全 果樹	B1	B1-b	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
総合 (生産環境)	15	95	性フェロモン利用りんご園における天敵利用の確立	専門技術員室	病理昆虫 環境保全	A1	B1-b	
						B1	B1-b	
						B2	B2	
総合 (生産環境)	16	56	リンゴ炭疽病の発生生態の解明と防除対策	病害虫防除所	病理昆虫	B1 C	B1-b	
総合 (生産環境)	17	57	リンゴハダニ類の殺ダニ剤抵抗性検定の実施及び簡易検定法の開発	病害虫防除所	病理昆虫	B1	B1-b	
総合 (生産環境)	18	16	紅伊豆のハダニ類防除体系の確立	花巻農業改良普及センター	病理昆虫	A2	A2	現地での状況調査が不十分。
総合 (生産環境)	19	67	花き病害虫防除マニュアルの作成	盛岡農業改良普及センター	病理昆虫	A2 B1 C	A2 C	きくについてH14以降検討予定。 りんどうについてH13防除基準及び花き指導指針に提示。
総合 (生産環境)	20	41	花き(りんどう)のカメムシ防除技術の確立	千厩農業改良普及センター	病理昆虫	B1	B1-c	現地での症例特定できず。
総合 (生産環境)	22	50	土壌診断による堆肥の施用適量の判定	農産園芸課	土壌作物栄養 環境保全 営農技術	B1 C	B1-b	
総合 (生産環境)	23	84	岩手県内で産出される各種畜産由来肥料のみによる農産物生産特性の解明	岩手県経済連	土壌作物栄養 環境保全 飼料生産 営農技術	A1 B1 C	B1-b B1-b	
総合 (生産環境)	24	70	在来天敵の主要害虫に対する密度抑制効果の解明	農業普及技術課	病理昆虫 環境保全 営農技術	A1 D	B1-b	
総合 (生産環境)	25	83	農産加工技術の開発・指導	岩手県経済連	保鮮流通技術	B1	B1	恒常的な継続業務
総合 (生産環境)	26	85	農業研究センター内で栽培される農作物中の各種成分の測定	岩手県経済連	環境保全 土壌作物栄養 保鮮流通技術	B1	A1	H14～一部実施
畜産	1	1	堆肥発酵促進資材の効果判定	二戸地方振興局	飼料生産	B2	B2	
畜産	2	6	日本短角種牛肉の品種特性分析について	久慈地方振興局	家畜育種	B1 C CC D	B1-b D	
畜産	3	24	家畜ふん尿堆肥の簡易な品質判定法の確立及び採草地、飼料畑における許容還元量増強技術の確立	二戸農業改良普及センター	飼料生産 土壌作物栄養	B1 C	B1-a	
畜産	4	30	肥育牛舎の敷き料としての戻し堆肥の活用方法	宮古農業改良普及センター	家畜育種 家畜飼養 飼料生産	A1	B1-b	
畜産	5	37	被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立	千厩農業改良普及センター	飼料生産	A1	B1-c	
畜産	6	44	高能力牛の育成期飼養管理技術の確立	畜産課	家畜飼養	A1	B1-c	
畜産	7	45	黒毛和種の放牧促進に係る実証的研究	畜産	外山畜産	A1 B1 C	B1-c B1-b	
畜産	8	46	牛舎施設等の改善が酪農経営に及ぼす効果の調査・分析	畜産課	家畜飼養 農業経営	B1 B2 C	B1-b B2	

#### 4 共同研究の推進

##### (1) 地域基幹農業技術体系化促進研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術	北海道北見農試 北海道上川農試 福島農試	9～13	岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立	産地育成
新品種の導入等を基幹とした公共草地の高度利用技術	北海道根釧農試 北海道新得畜試 青森畜試	9～13	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立	飼料生産
東北地域における環境保全型農業を基幹とした重要野菜の安定生産技術	福島農試	10～14	キャベツ根こぶ病を対象とした耕種的対策を含めた総合防除による栽培管理技術の確立	営農技術
寒冷地北部地域における超省力水稻生産技術と地域営農システム	青森農試 秋田農試 宮城農セ	11～14	寒冷地北部地域の気象条件下での水稻の直播栽培技術及び同技術を導入した地域営農システムの確立	水田作
ロングマット苗移植・不耕起乾田直播を導入した省力・低コスト生産技術	長野農総試 埼玉農試 茨城農総セ	11～14	水稻のロングマット苗移植・不耕起乾田直播技術を導入した低コスト高生産性水田営農体系を確立	生産工学
不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術	栃木農試 愛知農総試	11～15	不耕起・無中耕・無培土技術を中心とした超省力栽培体系の確立による転換畑大豆作の規模拡大	野菜畑作
中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物生産技術	青森畑園試	11～15	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	農業経営
市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術	北海道新得畜試 青森畜試 福島畜試	11～15	放牧肥育素牛の発育改善、肥育成績向上のための技術対策	外山畜産
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感りんごの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作技術の確立	宮城古川農試 山形農試	13～17	東北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学

##### (2) 先端技術等地域実用化研究促進事業

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道新得畜試 山梨酪農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 島根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学
りんごわい化栽培における省力・安定生産のためのJM台木利用・早期成園化技術の開発	秋田果樹試 宮城農・園総合研 福島果樹試 長野果樹試	11～15	挿し木繁殖性に優れ、高品質果実生産が期待できるJM系わい性台木を利用した低樹高栽培法の確立	果樹
寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	山形得園試 福島農試 鳥取園試	12～16	寒冷地に適した露地向け花き品目である枝物花木類の栽培技術の確立	花き
大区画水田における低コスト・効果的暗渠排水による汎用化技術の確立	千葉農試 茨城農業総合セ 埼玉農試	12～14	北東北地方における汎用化水田のための簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	生産工学

## (3) 21世紀型農業経営モデル実証試験

課 題 名	振興局 (市町村名)	研 究 期 間	実 証 研 究 課 題	担 当 研 究 室
畑地かんがい地域における野菜、花き等の高収益モデル実証	盛岡 (岩手町)	13～15	(1)有機質資源の活用指針の作成 (2)効率の高い稲作・転作営農技術の確立 (3)土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	営農技術
水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証	北上 (北上市)	13～15	(1)根腐病対策を中心とした水田活用による持続型作付体系の実証 (2)優良種苗の現地選抜	野菜畑作 応用生物 病理昆虫
大規模ほ場整備地区におけるほ場畦畔の雑草抑制と景観形成技術確立	水沢 (胆沢町)	13～15	(1)町委託事業への参画による有望 GCP の検討 (2)有望 GCP の増殖管理技術の検討	水田作 生産工学
水田地帯における園芸生産の高度・安定化「いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化」	一関 (花泉町)	13～15	(1)新品種導入に際する技術支援 (2)短日処理技術実証に係る技術支援 (3)導入技術に対する経営モデル確立	南部園芸
東磐井地区における園芸省力安定生産モデル経営の実証	千厩 (大東町)	13～15	(1)トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証確立	南部園芸
ほ場整備地区における園芸団地形成に向けた農業経営の確立	大船渡 (陸前高田市)	13～15	(1)農業経営モデルの分析・評価	農業経営
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野 (遠野市)	13～15	(1)ほうれんそう大型経営の栽培技術実証	野菜畑作 産地育成
沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	宮古 (宮古市)	13～15	(1)トルコギキョウの良品生産技術の指導 (2)スプレーグクの日長管理技術の指導 (3)チューリップの良品生産技術の指導 (4)良品生産に向けた病虫害防除体系の確立 (5)花き周年栽培モデル体系の確立	花き 病理昆虫
大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普代型安定生産技術体系の確立	久慈 (普代村)	13～15	(1)野菜・緑肥を中心とした輪作体系の確立 (2)灌漑施設を利用した野菜安定栽培技術の確立 (3)新規開発畑における土壌管理・輪作マニュアルの策定 (4)経営感覚に優れた主業型農家の育成	やませ利用 農業経営 営農技術
県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証	二戸 (一戸町)	12～14	(1)秋だしパンジー栽培技術の確立 (2)花壇苗周年生産技術の確立 (3)花き栽培施設を有効活用した山菜促成栽培の実証	産地育成

## (4) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
いもち病抵抗性関連遺伝子を導入した水稲の耐病性評価	応用生物工学
DNA マーカーを用いた水稲特性検定法の確立	水稲育種 応用生物工学
りんどう病原ウイルス(CMV等)の検出・診断技術の利用	応用生物工学
トマト黄化えそウイルス(TSWV)の検出・診断技術の確立及び利用	病理昆虫
耐病性関連遺伝子を導入したりんごの系状菌病抵抗性評価	応用生物工学
リンゴ根頭がんしゅ病菌の検出・診断技術の確立と利用	病理昆虫 応用生物工学
ピーマン病原ウイルス(PMMV)の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	応用生物工学
ナス科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物工学

## (5) 大学との共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
雑穀の食品機能及び遺伝子解析研究と地域連携食品開発	岩手大学	11～13	雑穀(キビ、アワ、ヒエ等)の脂質代謝改善機能成分等の探索、遺伝子解析による品種識別法の解明、省力栽培技術の確立並びに地元食品企業と連携した新加工食品の開発研究について調査検討する。	やませ利用
カイコ及び野蚕からの新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～15	カイコの抗カビ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫

## (6) A F R 研究会

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
花卉育種研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	花き
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、岩手医大、生物工学研究所	10～	病理昆虫
植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、農業研究センター	10～	水稻育種
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	病理昆虫
機能性食品研究会 A	岩手大学農学部、工業技術センター、東北農業研究センター、農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場、(株)ミッシェル、花巻起業化支援センター	10～	やませ利用
機能性食品研究会 B	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	野菜畑作
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	生産工学
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	水田作
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	果樹
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	応用生物工学
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、農研センター、生物工学研究所	12～	水稻育種 水田作
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、農研センター	12～	病理昆虫 営農技術
有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	12～	飼料生産 土壌作物栄養
始原生殖細胞 (PGCs) 利用研究会	岩手大学農学部、農研センター、小岩井農牧	13～	家畜育種

## (7) その他の共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の内部品質向上対策のための品質評価に関する研究	岩手県経済農業協同組合連合会	13～15	(1) 野菜の内部品質評価のための簡易分析法開発及び成分変動要因の解析 (2) 化学分析による成分評価及び県産野菜の成分実態調査	保鮮流通技術

5 現地試験の実施

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
開発技術の経営評価と生産・流通システムの策定	軽米町	晴山	企画経営情報部 農業経営研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	雫石町	上野	農産部 水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	紫波町	大巻、南日詰	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	西根町	大更	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	花巻市	矢沢	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	沢内村	前郷	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	胆沢町	小山	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	江刺市	稲瀬	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	花泉町	花泉	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	千厩町	千厩	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	遠野市	青笹	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	山田町	豊間根	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	陸前高田市	竹駒町	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	種市町	宿戸	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	浄法寺町	浄法寺	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	紫波町	南日詰	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	一関市	巖美町	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	一関市	山屋	水田作研究室
水稲有望新系統の早期栽培持性把握試験「岩南 25 号」	紫波町	南日詰	水田作研究室
水稲有望新系統の早期栽培持性把握試験「岩南糯 19 号」	紫波町	平沢	水田作研究室
水稲有望新系統の早期栽培持性把握試験「岩南糯 19 号」	紫波町	片寄	水田作研究室
寒冷地北部におけるホールクroppサイレージ用イネの栽培実証 (21世紀プロ3系)	遠野市	青笹	水田作研究室
早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ (岩南 16 号)」の栽培法	遠野市	上郷	水田作研究室
早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ (岩南 16 号)」の栽培法	遠野市	土淵	水田作研究室
早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ (岩南 16 号)」の栽培法	遠野市	土淵	水田作研究室
大区画湛水直播による低コスト稲作技術の確立 (地域基幹)	花巻市	宮野目	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	前沢町	白山	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	一関市	中里	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	水沢市	佐倉河	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	江刺市	鱒背	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	東和町	前田	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	花巻市	西宮野目	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	北上市	飯豊	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	胆沢町	北大畑	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	雫石町	西安庭	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	石鳥谷町	中寺林	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	西根町	田頭	水田作研究室

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 ( 純情米総合実証展示ほ )	九戸村	荒屋	農産部 水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 ( 純情米総合実証展示ほ )	遠野市	青笹	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 ( 純情米総合実証展示ほ )	遠野市	土淵	水田作研究室
不良環境地帯向け水稻品種の育成	沢内村	高下	水稻育種研究室
稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成	金ヶ崎町	六原	水稻育種研究室
ドレンレイヤー工法現地実証試験	花巻市	鍋倉	生産工学研究室
重機の走行がほ場整備後の土壌	宮守村	宮守川上流	生産工学研究室
均一性に与える影響の解明	宮守村	宮守川上流	生産工学研究室
均一性に与える影響の解明	江刺市	袖野	生産工学研究室
ロングマット水耕苗現地実証試験	北上市	滑田	生産工学研究室
ロングマット水耕苗現地実証試験	石鳥谷町	新堀	生産工学研究室
麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	花巻市	宮野目	生産工学研究室
りんご新台木の現地適応性試験	二戸市	湯田	園芸畑作部 果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	紫波町	矢巾	果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	宮古市	内の沢	果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	江刺市	小倉沢	果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	一関市	花泉中央	果樹研究室
地域基幹研究体系化総合実証試験	盛岡市	都南	果樹研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	紫波町	水分	野菜畑作研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	東山町	長坂	野菜畑作研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	前沢町	古城	野菜畑作研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	藤沢町	要害	野菜畑作研究室
不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立	玉山村	下田	野菜畑作研究室
不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立	北上市	相去	野菜畑作研究室
水田を活用した持続的体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証	北上市	二子	野菜畑作研究室
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野市	小友	野菜畑作研究室
沿岸中山間における花き周年生産モデルの確立	宮古市	老木	花き研究室
りんどう品種育成に係る現地調査	石鳥谷町	北寺林	花き研究室
小ぎく品種育成に係る現地調査	北上市	江釣子	花き研究室
鉢物りんどうの栽培試験に係る現地調査	北上市	稲瀬	花き研究室
切花りんどうの鉢物化試験	花巻市	矢沢	花き研究室
水田地帯における園芸生産の高度安定化 「イチゴ栽培における省力技術導入による高度生産化」	花泉町	永井	南部園芸研究室
東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 「トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証」	大東町	大原	南部園芸研究室

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
有機農産物生産条件の解明 有機農産物生産条件の解明 有機農産物生産条件の解明 生分解性マルチフィルムの分解特性及び作物への影響調査 水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	胆沢町 矢巾町 松尾村 滝沢村 平泉町	若菜 広宮沢 松尾 姥屋敷 北沖	生産環境部 環境保全研究室 環境保全研究室 環境保全研究室 環境保全研究室 環境保全研究室
湛水点播直播栽培の施肥管理技術 土壌蓄積養分の有効利用法 〃 転作麦専用肥料の肥効確認 水稲に対する新ケイ酸質資材の効果	花巻市 花巻市 花巻市 花巻市 雫石町	太田 太田 北湯口 湯口 西安庭	土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室
ほうれんそうの内部品質向上のための土壌管理技術の確立	西根町	寺田	保鮮流通技術研究室
複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証 りんどう病害虫防除体系の確立と実証 水稲初期害虫隔年防除技術の確立 水稲初期害虫隔年防除技術の確立 斑点米カメムシ類の発生生態解明と防除法の確立 新農薬の効果検定と防除基準作成(畑わさび害虫防除試験)	江刺市 花巻市 岩手町 雫石町 花巻市 岩泉町	小倉沢 湯口 黒内 御明神 太田 門	病害虫部 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室
寒冷地北部におけるホールクロップサイレージ用イネの栽培実証 開発技術導入による良質粗飼料生産・調整・供給システムの確立	紫波町 玉山村	志和 玉山	畜産研究所 飼料生産研究室 飼料生産研究室
畜産由来資源の有効活用技術の開発 畜産由来資源の有効活用技術の開発 地かんがい地帯における野菜・花き等の高収益モデルの実証 作型を利用したレタスの無農薬栽培技術 ほうれんそう収穫・調整機械の開発・改良 短期輪作による環境保全型根こぶ病発病抑止技術の実証 新肥料の実用化 新肥料の実用化 生分解性マルチの現地適応性	軽米町 軽米町 岩手町 遠野市 西根町 西根町 軽米町 軽米町 一戸町	山内 米田 一方井 青笹 田頭 焼走 晴山 山内 奥中山	県北農業研究所 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室
高付加価値花きの生産技術の現地実証 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術の実証 県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立 りんどう新肥料の肥効調査	二戸市 大野村 一戸町 軽米町	上斗米 帯島 小友 山内	産地育成研究室 産地育成研究室 産地育成研究室 産地育成研究室
水稲奨励品種決定現地調査 水稲奨励品種決定現地調査 雑穀類の高付加価値技術	種市町 浄法寺町 軽米町	宿戸 浄法寺 高家	やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
麦・豆奨励品種決定現地調査 大規模野菜専作経営の実証と持続型産地育成 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法	玉山村 普代村 久慈市 大野村 軽米町 浄法寺町 山形村	下田 和野山 小久慈 萩の渡 山内 大清水 来内	県北農業研究所 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室



### III 試験研究の成果



# 1 試験研究成果

成果区分	農産部門	園芸畑作部門				畜産部門	総合部門	総計
	水稲	畑作物	果樹	野菜	花き			
普及	6	3	3	7	1	9	2	31
指導	13	5	5	10	8	12	7	60
行政	4	1				3	7	15
研究		2	3	7	6	3	3	24
計	23	11	11	24	15	27	19	130

## 試験研究成果の区分

- 1 普及（普及に移しうる成果）  
農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果。
- 2 指導（技術指導に参考となる成果）  
普及員等指導者の技術指導上の参考として適当と認められる成果。
- 3 行政（行政施策等に反映すべき成果）  
行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの。
- 4 研究（技術開発に有効な成果）  
新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの。

### 【普及（普及に移しうる成果）】

分野	No.	成 果 名	提案研究室	
農産部門 水稲	1	品種 オリジナル中生もち水稲 餅加工適性に優れた「岩南糯19号」	水田作 水稲育種	
	2	水稲オリジナル品種「いわてっこ」の栽培法	やませ利用 営農技術 水田作	
	3	「ひとめぼれ」における自然乾燥と機械乾燥の刈り取り適期の違い	水田作	
	4	湛水直播におけるノビエの発消長と雑草防除	水田作	
	5	平成14年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作 やませ利用	
	6	生物農薬「シュードモナスC A B -02水和剤」の特性と使用上の留意点	病理昆虫	
園芸畑作部門	畑作物	7	品種 大豆 緑色の濃い豆腐向け特産大豆「東北141号」	野菜畑作 やませ利用
		8	小麦新品種「ネバリゴシ」の期待生育量と栽培法	野菜畑作 やませ利用
		9	ひえの無農薬水田移植栽培技術	やませ利用 営農技術
	果樹	10	平成14年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	果樹
		11	品種 りんごわい性台木「JM1」	果樹
		12	りんご新しい性台木「JM1」「JM7」の利用法	果樹
	野菜	13	基肥一回無追肥によるピーマンの減肥栽培	土壌作物栄養
		14	ヒドロキシイソキサゾール粉剤の土壌混和によるハウレンソウ立枯病の防除法	病理昆虫
		15	品種 ほうれんそう 春播き・秋播き栽培に適する「イーハトープ」	産地育成
		16	キャベツ収穫運搬車の作業特性と導入基準	生産工学 営農技術
		17	キャベツの子葉奇形苗の選別除去と差し替えの効果	産地育成

分野	No.	成 果 名	提案研究室
園芸畑作部門	野菜	18 キャベツ・レタスにおける夏季高温期の真空予冷庫設定条件	保鮮流通技術
		19 生分解性プラスチックマルチの特性と選択の目安	環境保全 営農技術 やませ利用 野菜畑作
	花き	20 品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM6」（白桃色スプレー咲き）	花き
畜産部門	21 黒毛和種優良種雄牛「糸晴清」「信菊徳」の作出	種山畜産	
	22 自動搾乳システムによる省力管理技術と生産性	家畜飼養 農業経営	
	23 県有優良種雄牛「北孝福」の作出	種山畜産	
	24 品種 飼料用とうもろこし早生品種「KD520」	飼料生産	
	25 品種 飼料用とうもろこし晩生品種「パイオニア118日（33G26）」	飼料生産	
	26 品種 オーチャードグラス極早生品種「アキミドリ」	飼料生産	
	27 品種 チモシー中生品種「ホクセイ」	飼料生産 外山畜産	
	28 品種 チモシー晩生品種「ホクシュウ」	外山畜産 飼料生産	
	29 品種 ペレニアルライグラス極早生品種「クサボウシ」	外山畜産	
総合部門	30 農業機械・作業技術関連成果・文献等検索システム	生産工学	
	31 平成14年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫	

【指導（技術指導に参考となる成果）】

分野	No.	成 果 名	提案研究室
農産部門	水稲	1 水稲湛水直播における無人ヘリコプターの作業性能	生産工学
		2 畦畔被覆資材の施工比較	生産工学
		3 もみがら成型マットでの育苗方法と成型機の導入条件	生産工学
		4 緩効性側条ペースト施肥田植機の性能と施肥法	生産工学 土壌作物栄養
		5 水田における暗渠排水の最適被覆材の評価	生産工学
		6 平成13年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作 土壌作物栄養 病理昆虫 やませ利用
		7 ホールクroppサイレージ用イネ栽培における刈取時期の判断指標	水田作 飼料生産
		8 「ひとめぼれ」の湛水直播導入可能域	水田作
		9 土壌中カリ40mg以上で水稲無カリ栽培ができる	土壌作物栄養 営農技術
		10 オキシロニック酸耐性イネもみ枯細菌病菌の発生と防除対策	病理昆虫
		11 カルプロバミド粒剤の播種時施用法によるいもち病防除体系	病理昆虫
		12 水稲初期害虫を一斉防除した翌年は防除の必要はない	病理昆虫
		13 アカスジカスミカメの越冬世代は耕起により減少する	病理昆虫
園芸畑作部門	畑作物	14 大豆不耕起栽培における生育・収量及び栽培特性	野菜畑作
		15 大豆の晩播密植・狭畦栽培技術	野菜畑作
		16 小麦の冬期播種栽培技術	野菜畑作
		17 雑穀類（ひえ・あわ・きび・アマランサス）の種子貯蔵年限	やませ利用

分野	No.	成 果 名	提案研究室	
果樹	18	あわにおけるアワノメイガの加害生態	営農技術 やませ利用	
	19	りんご「きおう」の樹勢安定による裂果軽減	果樹	
	20	りんご「きおう」の収穫後の表面色の変化	果樹	
	21	りんご幼果に発生した炭そ病の発生特徴と伝染源	病理昆虫	
	22	西洋なし「ラ・フランス」の単為結果性と果実肥大	果樹	
	23	木の実や柿の葉はビタミンCが豊富で抗酸化活性が高い	保鮮流通技術	
	野菜	24	きゅうり定植用セル成型苗の緊急時短期貯蔵技術	野菜畑作
		25	病勢進展からみたきゅうり推奨品種「夏ばやし」のべと病・うどんこ病耐病性	病理昆虫
		26	雨よけトマトのセル苗直接定植における障害果軽減及び収穫期拡大技術	野菜畑作
		27	ピーマン病原ウイルスCMV・PMMoV・TSWVの簡易迅速診断	応用生物学 病理昆虫
		28	施設ピーマンにおける近紫外線カットフィルムの害虫密度抑制効果	病理昆虫
		29	キャベツ品種「夏さやか」の県南部における導入作期	野菜畑作
		30	前後作にエンパク(ハイオーツ)を導入したキャベツ・ダイコンの畑輪作技術の現地実証	産地育成 営農技術
		31	ダイコン・キャベツ作における機械化体系の省力効果	農業経営 生産工学 産地育成 営農技術
		32	岩手県におけるネギハモグリバエの発生生態	営農技術
		33	畑わさびの新害虫ミドリサルゾウムシの生態と防除対策	病理昆虫
		花き	34	ハイブリダイゼーション法によるウイロイドフリーきく母株の選抜法
	35		鉢花りんどう「こりん」の鉢上げ直前の摘心による省力化	花き
	36		葉片培養によるりんどう採種用親系統(北海道系、えぞ早生系、矢巾系、磐梯系)の増殖法および順化技術	応用生物学
	37		りんどう褐斑病の発生生態と防除時期	病理昆虫
	38		スターチス「アイスター」シリーズの培養による増殖法および順化技術	応用生物学
	39		ラークスパーの抑制作型における短日処理の効果	南部園芸
	40		中山間地域に適した宿根草・花木の特性	産地育成 農業経営
	41		花壇苗の市場データから見た需要動向	農業経営
	畜産部門	42	黒毛和種県有種雄牛の子牛市場成績	種山畜産
		43	県有種雄牛の産肉能力と交配パターン	種山畜産
		44	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種
		45	日本短角種産肉能力検定(間接法)成績	家畜育種
		46	ウシ胚安定確保のための脂肪酸カルシウム製剤投与効果	家畜工学
		47	ウシ性別別胚のガラス化保存法	家畜工学
		48	日本短角種繁殖経営における黒毛和種胚移植技術の導入効果	外山畜産 家畜工学 農業経営
		49	パドックの泥濘化改善技術	外山畜産
		50	草種・品種の早晩性を利用した収穫適期幅の拡大	飼料生産 外山畜産
		51	粗飼料の硝酸態窒素簡易測定法	飼料生産

分野	No.	成 果 名	提案研究室
	52	酪農経営における攪拌型堆肥化施設の導入指針	飼料生産
	53	既存草地における黒毛和種集約放牧のための草地管理	外山畜産
総合部門	54	農作業改善のための労働負担測定評価方法マニュアル	生産工学
	55	育苗箱施用粒剤（殺虫成分）の田面水濃度	環境保全
	56	繭生産者が容易に自家採卵できる細織度白繭三眠蚕の作出	病理昆虫
	57	家畜ふん堆肥の品質は外観やECにより簡易に評価できる	土壌作物栄養
	58	家畜ふん堆肥の特性評価システム	土壌作物栄養
	59	県内水田土壌の15年間の有機物・施肥管理と化学性の変化	土壌作物栄養
	60	県内畑地土壌の15年間の有機物・施肥管理と化学性の変化	土壌作物栄養

【行政（行政施策等に反映すべき成果）】

分野	No.	成 果 名	提案研究室
農産部門 水稲	1	大区画ほ場等整備技術の検証結果と活用方法	生産工学
	2	平成13年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	水田作 やませ利用
	3	平成14年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作 やませ利用
	4	平成14年度水稲新配布系統（候補系統）	水稲育種
園芸畑作部門 畑作物	5	岩手県におけるケナフの生育特性	環境保全
畜産部門	6	黒毛和種産肉能力検定（直接法）成績	種山畜産
	7	黒毛和種産肉能力検定（間接法）成績	種山畜産
	8	玄米の多量給与が日本短角種去勢牛の産肉性に及ぼす影響	家畜育種
総合部門	9	水稲作における民間農法等の経営的特徴	農業経営
	10	主業型農家経営実態調査 (1) 主業型農家における経営管理の実施状況	農業経営
	11	主業型農家経営実態調査 (2) 主業型農家における農業情報入手先及び必要とする情報	農業経営
	12	主業型農家経営実態調査 (3) 経営者としての考え方及び将来の経営意向	農業経営
	13	流通構造の変化に対応した他県野菜産地の動き	農業経営
	14	農作業事故事例データベースと事故防止対策	生産工学
	15	土壌汚染防止対策によるカドミウム濃度の低下実態（追補）	環境保全

【研究（技術開発に有効な成果）】

分野	No.	成 果 名	提案研究室	
園芸畑作部門	畑作物	1	小麦の春播き栽培における一次加工特性	野菜畑作
		2	ひえ、あわ、きびのでんぷん特性	保鮮流通技術
	果樹	3	りんご「ふじ」のスパータイプ系統の特性	果樹
		4	りんご育成系統「岩手2～9号」の果実特性	果樹
		5	果樹園用局所施肥機（試作機）の機能と特徴	果樹
	野菜	6	きゅうり接ぎ木における苗貯蔵による穂木・台木の生育調整技術	野菜畑作
		7	セル苗利用を前提とした雨よけトマトの立毛間定植による2作どり栽培	野菜畑作
		8	施設ピーマンにおけるヒメハナカメムシ類の発消長	病理昆虫

分野	No.	成 果 名	提案研究室	
花き	9	キャベツ主産地における根こぶ病菌密度 - 発病曲線 ( D R C )	営農技術	
	10	氷雪を活用した簡易高湿予冷庫の開発 【当面非公開】	保鮮流通技術	
	11	さといもの組織培養由来株および芋の特性 ( 1 年目培養苗定植 )	応用生物学 野菜畑作	
	12	トマトとピーマンの美味しさと理化学性の関係	保鮮流通技術	
	13	きくのウイルス保毒実態と T S W V の局在事例	応用生物学 病理昆虫	
	14	沖縄系小ぎく「そよ風」に対するエスレル処理効果	花き	
	15	夏秋ぎく系小ぎくの親株加温による作期の前進	花き	
	16	鉢花りんどう「こりん」の親株加温時期等による開花調節技術	花き	
	17	液体振とう培養によるりんどう採種用親系統 ( 吾妻系、松尾系 ) の増殖法および順化技術	応用生物学	
	18	切り花の市場別・品目別有利販売特異日の検索	農業経営	
	畜産部門	19	搾乳ミルカー ( ティートカップ ) の離脱方法の違いが乳腺細胞に及ぼす影響	家畜飼養
		20	黒毛和種肥育牛の超音波測定による早期能力判定技術	家畜育種
		21	ウシの羊水浮遊細胞をドナーとした核移植成績	家畜工学
	総合部門	22	特産品開発にあたっての試食による評価測定	農業経営
		23	市況情報分析システム	農業経営
		24	1日で作れる地力窒素の簡易評価法	土壌作物栄養

## 2 フォローアップ

<平成10年度研究成果>

回答数	県庁・出先機関	191
(延べ数)	農業改良普及センター	715
	農業団体	66

(単位：%)

No	研究成果名	この成果を知っているか			活用したいか	
		知っている	他の成果として	初めて知った	はい	いいえ
<b>【普及（普及に移しうる成果）】</b>						
1	品種 酒造好適米「岩南酒13号（吟ぎんが）」	100	0	0	100	0
2	「ひとめぼれ」の生育栄養診断基準（一部改定）	100	0	0	100	0
3	平成11年度雑草防除基準に採用した水稻除草剤	100	0	0	92	8
4	平成11年度雑草防除基準に採用した水田畦畔抑草剤	100	0	0	100	0
5	水中拡散性に優れた水田除草剤「イマゾスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン粒剤」の省力散布法	88	0	12	88	12
6	りんごわい性樹の省力型低樹高栽培	100	0	0	100	0
7	塗布剤がりんごせん定痕のカルス形成に及ぼす影響	100	0	0	100	0
8	りんごの摘花剤・摘果剤利用による省力効果	100	0	0	100	0
9	除草剤の飛散がりんご幼木の主幹に与える影響	100	0	0	92	8
10	品種 ぶどう「安芸クイーン」	85	8	8	42	58
11	西洋なし「ラ・フランス」の好適受粉品種「ゼネラル・レクラーク」	85	15	0	62	38
12	品種 キャベツ「夏さやか」	82	18	0	77	23
13	品種 ダイコン「岩手YR春いちばん」	100	0	0	54	46
14	品種 ホウレンソウ「ミストラル」	87	13	0	80	20
15	短日処理による促成いちごの前進作型（追補） 小型ポット利用による苗養成及び短日処理期間、定植時期	100	0	0	100	0
16	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS1」	100	0	0	100	0
17	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS3」	100	0	0	100	0
18	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS12」	100	0	0	100	0
19	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「NS14」	100	0	0	100	0
20	品種 スターチス・シヌアータ栄養系品種「MSR」	100	0	0	100	0
21	スプレーギクの再電照による品質向上技術	100	0	0	80	20
22	プレルーディングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術（追補） （2）カサブランカ、ルレーブ、シーウィンドの好適処理条件	100	0	0	100	0
23	プレルーディングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術（追補） （3）プレルーディング処理時の湿度条件と簡易処理技術	100	0	0	100	0
24	スターチス・シヌアータ栄養系品種の挿し芽苗育成法	100	0	0	83	17
25	スターチス・シヌアータ栄養系品種の作型組合せ法	83	0	17	100	0
26	加温抑制トルコギキョウの高品質生産技術 - 夜冷短日育苗と短日処理による品質向上 -	83	17	0	50	50
27	短日処理による10月出しトルコギキョウの品質向上技術（追補） - 育苗期における短日処理効果 -	75	13	13	88	12
28	県北沿岸地域におけるトルコギキョウの抑制作型	100	0	0	71	29
29	座繰り生糸の製造方法	100	0	0	80	20
30	大規模小麦集団転作の成立条件	67	0	33	78	22
31	性フェロモンを利用したハウス栽培なばなのコナガ防除	87	0	13	79	21
32	りんごのハダニ類防除体系の改定	92	0	8	92	8
33	県北地域におけるネギコガを主としたネギ害虫の防除法	100	0	0	100	0

No	研 究 成 果 名	この成果を知っているか			活用したいか	
		知って いる	他の成果 として	初めて 知った	は い	いいえ
34	平成11年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	94	6	0	94	6
35	冷温高湿貯蔵による西洋なし「ラ・フランス」の長期貯蔵法	100	0	0	100	0
36	MA包装段ボール箱によるブロッコリーの鮮度保持法	50	0	50	50	50
37	乳牛に対する一回哺乳方法	80	0	20	80	20
38	ミルクングパーラー排水用低コスト浄化槽の開発	100	0	0	80	20
39	品種 ソルゴー型ソルガム「風立」	100	0	0	100	0
40	品種 ソルゴー型ソルガム「天高」	100	0	0	67	33
41	ソルゴー型ソルガム「風立」「天高」の混播利用	100	0	0	67	33
42	品種 兼用型ソルガム「葉月」	100	0	0	100	0
43	平成11年度雑草防除基準に採用した除草剤の播種同日処理による草地更新技術	100	0	0	100	0
44	平成11年農作物病害虫・雑草防除基準に採用した牧草用殺虫剤	100	0	0	100	0
【指導（技術指導に参考となる成果）】						
1	「かけはし」の腹白粒軽減対策	100	0	0	100	0
2	平成10年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	87	7	7	87	13
3	水稲の湛水土中直播栽培法	91	0	9	82	18
4	大区画圃場における機械利用による中間管理技術	90	0	10	100	0
5	平成11年度に普及が見込まれる水稲育苗培土の実用性	100	0	0	100	0
6	岩手県南部におけるスルホニルウレア(SU)系水田除草剤抵抗性アゼナ類の発生事例	92	8	0	100	0
7	水田難防除雑草「クサネム」の発生状況	90	0	10	100	0
8	野菜栽培管理ピークルの作業特性（追補） ～キャベツ現地実証における作業特性と収穫～	75	0	25	67	33
9	りんごわい性台木「JM7」の挿し木繁殖法	100	0	0	100	0
10	りんご「きおう」の表面色カラーチャートによる収穫適期判断	100	0	0	92	8
11	平成10年度春期の異常気象がりんごの果実品質等に及ぼした影響	100	0	0	91	9
12	りんごの非破壊選果機使用上の留意点	83	8	8	58	42
13	県中南部における6月どりキャベツの施肥法	100	0	0	50	50
14	輪作及び耐病性品種の利用によるダイコン萎黄病の発生軽減	100	0	0	75	25
15	アスパラガス伏込み促成栽培の根株養成法	50	0	50	40	60
16	県北地域におけるネギの8月出荷作型	83	0	17	83	17
17	生育予測を用いた大豆の作期策定	91	0	9	80	20
18	県南部における小豆品質向上のための播種適期	100	0	0	100	0
19	平成10年における大豆冠水害被害の実態	50	0	50	100	0
20	トルコギキョウの短日処理による品種反応	100	0	0	88	12
21	りんどう「ポラーノブルー」の最適株間及び仕立て本数	91	9	0	73	27
22	りんどうの夏播き育苗の定植期	80	0	20	60	40
23	りんどう栄養系鉢物品種の作型及び開花調節法	100	0	0	100	0
24	県北沿岸地域におけるラークスパーの春出し作型	83	0	17	67	33
25	県北沿岸地域でのお盆向け小ぎくの品種と栽培方法	83	0	17	100	0
26	県北地域におけるスプレーギクの長期継続出荷作型	100	0	0	100	0
27	スターチス・シヌアータの夏秋出し作型における播種期と収量・品質	75	0	25	71	29
28	天蚕繭の繰糸方法	100	0	0	100	0
29	養蚕施設の菌床しいたけ栽培への利用事例	40	60	0	60	40

No	研 究 成 果 名	この成果を知っているか			活用したいか	
		知って いる	他の成果 として	初めて 知った	は い	いいえ
30	農産物直売所の展開条件	52	5	43	81	19
31	農村女性による加工部門の起業活動の実態と支援方策	75	0	25	91	9
32	りんご「さんさ」「ジョナゴールド」に対する肥効調節型肥料の施用効果	93	0	7	43	57
33	メッシュ生産環境情報システムの開発	100	0	0	100	0
34	メッシュ生産環境情報による潜在的生産力評価法	100	0	0	100	0
35	土壌環境・作物分析の手引き	91	0	9	100	0
36	水稻育苗期細菌病の多発判断指標	86	0	14	79	21
37	ハウレンソウ萎ちょう病に対する品種耐病性簡易検定法	50	25	25	75	25
38	りんご斑点落葉病に対する罹病性の品種間差異	82	9	9	82	18
39	トマト黄化えそウイルスによる野菜・花き病害の発生実態と症状の特徴	100	0	0	92	8
40	粒剤のセルトレイ施用によるキャベツ害虫防除法	100	0	0	100	0
41	岩手県におけるネギコガの発生実態	100	0	0	100	0
42	チビクロバネキノコバエのりんどう定植株への加害実態	100	0	0	100	0
43	鋤き込み可能マルチ資材の葉たばこ栽培への適応性	63	0	37	100	0
44	主な加工品の製造技術	45	0	55	100	0
45	南部かしわ雌の長期（5ヶ月）肥育の経済性	80	0	20	60	40
46	系統造成途中豚（ランドレース種、第5世代）の能力	100	0	0	100	0
47	日本短角種産肉能力検定（直接法）成績	92	0	8	83	17
48	日本短角種産肉能力検定（間接法）成績	92	0	8	83	17
49	公共牧場における食餌性条件反応を利用した黒毛和種親子放牧の実証	100	0	0	100	0
50	B I S データーによる県有種雄牛の能力調査	85	5	10	100	0
51	散水式脱臭装置によるキノコ菌床素材の有効性	75	8	17	50	50
【行政（行政施策等に反映すべき成果）】						
1	平成10年度水稻奨励品種決定調査本調査・現地調査結果	93	0	7	93	7
2	水稻の登熟中期における冠水が収量・品質に及ぼす影響	100	0	0	100	0
3	ほ場均平度の経年変化の実態	100	0	0	100	0
4	泥炭土層を含む水田における圃場整備直後の水稻生育	100	0	0	100	0
5	沖縄系小ぎく品種の栽培特性	100	0	0	100	0
6	平成10年度繭品質評価	100	0	0	100	0
7	地域農業動向把握システムの開発とその活用例	67	0	33	89	11
8	都市住民に選ばれるお米とその背景	67	0	33	67	33
9	県内でのなばな「はるの輝」の購入意識	100	0	0	80	20
10	盛岡市内の消費者がりんごを購入する視点	75	0	25	67	33
11	都市・農村交流を楽しむ都市住民の姿	33	0	67	100	0
12	都市・農村交流宿泊施設の運営実態と今後の方向	11	11	78	89	11
13	いもち病防除剤の水系における残留実態	100	0	0	100	0
14	搾乳ロボット6ヶ月間の稼働成績	100	0	0	100	0
15	DNAマーカーを用いた日本短角種の親子判定	100	0	0	50	50
16	ラジコントラクタによる傾斜放牧地の草地改良技術	67	0	33	33	67
17	黒毛和種産肉能力検定（間接法）	100	0	0	90	10

小数点以下ラウンドのため、合計が100%にならない場合がある。

### 3 東北農業試験研究成果

#### < 研究成果情報 >

##### (1) 研究成果数

	東北農業研究成果情報	東北地域新しい技術シリーズ	研究成果選シリーズ候補
水稲	4	1	-
畑作	5	1	-
果樹	2	1	-
野菜花き	7 *	1	-
畜産	3	2	1
生産環境	6	1	-
作業技術	4 *	1	-
生物工学	2	1	1
流通・加工	1	-	-
経営	-	-	-
計	33	9	2

\* 「野菜収穫運搬車によるキャベツ作業の軽労化と導入基準」は野菜花きと作業技術の両部会に属する。

##### (2) 研究成果

部会名	部会No. 新・東北地域新しい技術 選：研究成果選	成果情報課題名（分類） （下段：県の成果名）	担当研究室
水稲	3（新） 4	食味と加工適性に優れた中生の水稲もち品種「岩南糯19号」の育成（技・普） 岩手県における水稲新品種候補「岩南糯19号」の採用（技・普） H13普及1 品種 オリジナル中生もち水稲 餅加工適性に優れた「岩南糯19号」	水田作 水稲育種
	11	「ひとめぼれ」における自然乾燥と機械乾燥の刈り取り適期の違い（技・普） H13普及3 「ひとめぼれ」における自然乾燥と機械乾燥の刈り取り適期の違い	水田作
	17	水稲湛水直播におけるノビエ、ホタルイの発生モデル（技・普） H13普及4 湛水直播におけるノビエの発生消長と雑草防除	水田作
畑作物	2	岩手県における青豆新品種「東北141号」の採用（技・普） H13普及7 品種 大豆 緑色の濃い豆腐向け特産大豆「東北141号」	野菜畑作 やませ利用
	3	岩手県における麦新品種「ネバリゴシ」の目標生育量と栽培法（技・普） H13普及8 小麦新品種「ネバリゴシ」の期待生育量と栽培法	野菜畑作 やませ利用
	4（新）	秋播性小麦の冬期播種栽培技術（技・参） H13指導16 小麦の冬期播種栽培技術	野菜畑作
	5	ひえ育苗における留意点及びプール育苗の実用性（技・普） H13普及9 ひえの無農薬水田移植栽培技術	やませ利用 営農技術
	6	雑穀類（ひえ・あわ・きび・アマランサス）の種子貯蔵年限（技・参） H13指導17 雑穀類（ひえ・あわ・きび・アマランサス）の種子貯蔵年限	やませ利用
果樹	3（新）	リンゴ「きおう」の表面色カラーチャートによる収穫適期判定（技・普） H12普及7 リンゴ「きおう」の表面色カラーチャートによる収穫適期判断（追補） H11指導10 リンゴ「きおう」の表面色カラーチャートによる収穫適期判断	果樹
	4	リンゴ幼果に発生した炭疽病の発生特徴と伝染源（科・参） H13指導21 リンゴ幼果に発生した炭そ病の発生特徴と伝染源	病理昆虫
野菜花き	5	キュウリ定植用セル成型苗の緊急時短期貯蔵技術（技・参） H13指導24 きゅうり定植用セル成型苗の緊急時短期貯蔵技術	野菜畑作
	6	野菜収穫運搬車によるキャベツ作業の軽労化と導入基準（技・普） H13普及16 キャベツ収穫運搬車の作業特性と導入基準	生産工学 営農技術

部会名	部会No. 新：東北地域新しい技術 選：研究成果選	成果情報課題名（分類） （下段：県の成果名）	担当研究室
野菜花き	7	生分解性プラスチックマルチの特性と選択目安（技・参） H13普及19 生分解性プラスチックマルチの特性と選択の目安	環境保全 営農技術 やませ利用 野菜畑作
	8	キャベツセル育苗の子葉奇形苗の選別除去と差し替えの効果（技・参） H13普及17 キャベツの子葉奇形苗の選別除去と差し替えの効果	産地育成
	22	スプレータイプの小菊品種「CM6」の育成とその特性（技・普） H13普及20 品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM6」（白桃色スプレー咲き）	花き
	23（新）	ラークスパーの抑制作型における短日処理の効果（技・普） H13指導39 ラークスパーの抑制作型における短日処理の効果	南部園芸
	24	中山間地に適した宿根草・花ばくの特性（技・参） H13指導40 中山間地域に適した宿根草・花木の特性	産地育成 農業経営
畜産	4（新・選）	自動搾乳システムによる省力管理技術と生産性（技・普） H13普及22 自動搾乳システムによる省力管理技術と生産性	家畜飼養 農業経営
	5	パドックの泥濘化改善技術（技・参） H13指導49 パドックの泥濘化改善技術	外山畜産
	6（新）	酪農経営における攪拌型堆肥化施設の導入指針（技・参） H13指導52 酪農経営における攪拌型堆肥化施設の導入指針	飼料生産
生産環境	3（新）	土壌中カリ40mg以上で水稲無カリ栽培ができる（技・普） H13指導9 土壌中カリ40mg以上で水稲無カリ栽培ができる	土壌作物栄養 営農技術
	4	家畜ふんたい肥の品質は外観とECにより簡易に評価できる（技・普） H13指導57 家畜ふん堆肥の品質は外観やECにより簡易に評価できる	土壌作物栄養
	5	家畜ふんたい肥の特性評価システム（技・参） H13指導58 家畜ふん堆肥の特性評価システム	土壌作物栄養
	6	基肥一回無追肥によるピーマンの減肥栽培（技・普） H13普及13 基肥一回無追肥によるピーマンの減肥栽培	土壌作物栄養
	7	畑わさびの新害虫ミドリサルゾウムシの生態と防除対策（技・参） H13指導33 畑わさびの新害虫ミドリサルゾウムシの生態と防除対策	病理昆虫
	8	ネギハモグリバエの発生生態（科・参） H13指導32 岩手県におけるネギハモグリバエの発生生態	営農技術
作業技術	2（新）	野菜収穫運搬車によるキャベツ作業の軽労化と導入基準（技・普） H13普及16 キャベツ収穫運搬車の作業特性と導入基準	生産工学 営農技術
	3	農作業改善のための労働負担測定評価方法マニュアル（技・参） H13指導54 農作業改善のための労働負担測定評価方法マニュアル	生産工学
	4	農作業事故事例データベースと事故防止対策（技・参） H13行政14 農作業事故事例データベースと事故防止対策	生産工学
	5	農業機械・作業技術関連成果・文献等検索システム（技・参） H13普及30 農業機械・作業技術関連成果・文献等検索システム	生産工学
	生物工学	3（新・選）	スターチス「アイスター」シリーズの培養による増殖法および順化技術（技・普） H13指導38 スターチス「アイスター」シリーズの培養による増殖法および順化技術
4		葉片培養によるりんどう採種用親系統の増殖法および順化技術（科・参） H13指導36 葉片培養によるりんどう採種用親系統（北海道系、えぞ早生系、矢巾系、磐梯系）の増殖法および順化技術	応用生物工学
流通加工	1	ひえ、あわ、きびのでんぷん特性（科・参） H13研究2 ひえ、あわ、きびのでんぷん特性	保鮮流通技術

アンダーラインは「東北地域新しい技術シリーズ」となったものである。  
斜体は「研究成果選シリーズ」の候補となったものである。

## IV 試験研究成果の発表



# 1 試験成績書等刊行物

資料番号	表題名	発行年月	ページ数
ISSN 1346-4035	岩手県農業研究センター 研究報告第2号	13.12	56
ISSN 1346-4043	岩手県農業研究センター 研究要報第2号	13.12	136
企画経営 13 - No. 1	野菜経営指導関係資料 - 野菜の需要動向と他県先進産地の動向 -	14. 2	92
企画経営 13 - No. 2	平成 13 年度岩手県農業研究センター試験研究成果	14. 2	226
企画経営 13 - No. 3	平成 13 年度 21 世紀型モデル実証試験地事業現地支援実証試験成績	14. 3	74
農産 13 - No. 1	平成 12 年度試験成績書（農産部水田作研究室）	13. 4	160
農産 13 - No. 2	平成 13 年度水稻作用除草剤第 2 次適用性試験成績書	13.12	51
農産 13 - No. 3	平成 13 年度水稻新配布系統参考成績書	14. 3	26
東北地域基幹産業技術体系化 促進研究 研究成果 No. 6	機械の汎用利用・複数作業同時化による特産作物の高品質畑輪作 技術	14. 1	191
園芸 13 - No. 1	平成 12 年度試験成績書（果樹研究室）	13.10	244
園芸 13 - No. 2	平成 12 年度野菜試験成績書（野菜畑作研究室）	14. 3	100
園芸 13 - No. 3	平成 12 年度試験成績書（花き研究室）	14. 3	74
園芸 13 - No. 4	平成 12 年度畑作物試験成績書（野菜畑作研究室）	14. 3	50
	果菜類長期安定出荷マニュアル「雨よけトマト」	14. 3	28
	果菜類長期安定出荷マニュアル「きゅうり」	14. 3	38
環境 13 - No. 1	平成 13 年度試験成績書（環境保全研究室）	14. 3	150
環境 13 - No. 2	農産物加工による起業	14. 3	126
環境 13 - No. 3	平成 11 年度試験成績書（保鮮流通技術研究室）	14. 3	56
環境 13 - No. 4	平成 9 年度試験成績書（土壌肥料）	14. 3	102
畜産 13 - No. 1	平成 13 年度試験成績書（畜産研究所）	14. 3	138

## 2 学会等研究報告

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
企画経営情報部 農業経営研究室	菅原 豊司	平成 13 年度 東北地域農林 水産業研究成 果発表会	13. 7. 23	岩手県中山間地域の特産物の需要 と産地対応	東北農業研究別号 第 14 号, 23-35, 13. 12
	中森 忠義	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	酪農経営における搾乳ロボットの 導入形態と導入が可能となる乳量 水準	東北農業研究第 54 号 269-270, 13. 12
	村上 和史	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	水田作経営体における作業管理	東北農業研究第 54 号 271-272, 13. 12
	佐藤 嘉彦	第 29 回東北農 村生活研究大 会	13. 9 18	グリーン・ツーリズム情報検索シ ステム	ポスターセッション
	村上 和史	平成 13 年度 日本農業経営 研究大会	13. 10. 21	農業法人における組織内プロフェ シヨナルの存在	
	村上 和史	2002 年度日本 農業経済学会 大会	14. 3. 31	農業法人の労働組織における階層 の形成 - 岩手県内の水田作経営 体の事例分析から -	
農産部 水田作研究室	尾形 茂 他 8 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	水稻新奨励品種「いわてっこ」の 特性	東北農業研究第 54 号 1-2, 13. 12
	吉田 宏 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	水稻の登熟診断技術 第 1 報 籾 の熟色、籾水分と玄米品種の関係	東北農業研究第 54 号 31-32, 13. 12
	吉田 宏 他 6 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	水稻主要品種の玄米白度に関与す る要因	東北農業研究第 54 号 33-34, 13. 12
応用生物学 研究室	星 伸枝 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	リンゴ品種「王林」の斑点落葉病 に対する罹病性	東北農業研究第 54 号 143-144, 13. 12
	阿部 潤 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7. 24	ジベレリン利用によるリンドウの 株養成促進技術	東北農業研究第 54 号 233-234, 13. 12
	阿部 弘 他 2 名	第 54 回北日本 病害虫研究会	13. 2 13	アルミ蒸着フィルムのマルチ利用 によるトルコギキョウえそモザイ ク病の防除	北日本病害虫研究会 報第 52 号, 92-94, 2001. 11
	星 伸枝	育種学会 第 101 回講演 会	14. 3. 29-31	葉片培養によるエゾリンドウの増 殖	

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
農産部 生産工学研究室	大里 達朗 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	ハウレンソウ調整機の性能と導入 効果	東北農業研究第 54 号 201-202, 13.12
	八重樫 耕一 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	ダイコン収穫機の作業特性及び導 入基準	東北農業研究第 54 号 203-204, 13.12
	大里 達朗 他 2 名	農業機械学会 東北支部	13. 8 21	雑穀を取り入れた普通畑作物の大 規模機械化栽培の推進方向	農機学会東北支部報 第 48 号, 51-54, 2001.12
	八重樫 耕一	農業機械学会 東北支部	13. 8 21	農作業に適した労働負担評価方法 の開発(第 1 報) - 心拍数評価に おける標準賦課方式の考察 -	
	八重樫 耕一	農業機械学会 東北支部	13. 8 21	(第 2 報) - 姿勢評価法の検討 -	
	八重樫 耕一 他 2 名	農作業学会	14. 3.30	農作業に適した姿勢評価法の開発 - 姿勢区分評価法追加版 -	農作業研究別冊
	八重樫 耕一 他 2 名	農作業学会	14. 3.30	心拍数評価におけるステップステ ト標準賦課方式の検討	農作業研究別冊
園芸畑作部 果樹研究室	河田 道子 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	各種有機酸のリンゴに対する摘花 効果	東北農業研究第 54 号 133-134, 13.12
	佐々木 仁 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	岩手県下で発生した J M 系リンゴ 台木の根頭がんしゅ病	東北農業研究第 54 号 141-142, 13.12
野菜畑作研究室	高橋 拓也 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	生食用中玉トマトの品種特性	東北農業研究第 54 号 195-196, 13.12
	有馬 宏 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	種用サトイモの安定貯蔵技術	東北農業研究第 54 号 209-210, 13.12
花き研究室	渡辺 愛美 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	スプレータイプの小ギク品種 「C M 系」の育成とその特性	東北農業研究第 54 号 225-226, 13.12
生産環境部 環境保全研究室	高城 保志 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	チェーンポット苗移植栽培と非病 原性フザリウム菌の組合せによる ハウレンソウ萎凋病防除技術	東北農業研究第 54 号 177-178, 13.12
	築地 邦晃	第 19 回農薬環 境科学研究会	13.11. 15-16	環境保全型農薬の開発方向 - 育苗 箱等での農薬施用法 ~ 育苗箱施用 は環境負荷軽減に貢献 -	

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
生産環境部 環境保全研究室	菅 千穂子	第 55 回北日本 病害虫研究発表 会	14. 2. 13-14	数種農薬のトンボ幼虫羽化率に及 ぼす影響	
土壌作物栄養 研究室	高橋 正樹 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発表 会	13. 7.24	ピーマンでの肥効調節型肥料を利用 した局所施肥	東北農業研究第 54 号 215-216, 13.12
	小野 剛志	平成 13 年度 土壌肥料学会 東北支部大会	13. 9.10	イラン・イスラム共和国の土壌肥 料研究とゴルガン平原の農業開発 について	
保鮮流通技術 研究室	千葉 行雄 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発表 会	13. 7.24	岩手県特産物の栄養成分と機能性 成分	東北農業研究第 54 号 253-254, 13.12
病害虫部 病理昆虫研究室	猫塚 修一 他 4 名	北日本病害虫 研究会	13.2. 13-14	J M 台木におけるリンゴ根頭がん しゅ病の発生	北日本病害虫研究会 報第 52 号, 105-108, 2001.11
	川村 亮二 他 3 名	北日本病害虫 研究会	13.2. 13-14	葉いもち感染好適条件の出現状況 と箱施用材の残効期間	北日本病害虫研究会 報第 52 号, 248, 2001.11
	勝部 和則 他 2 名	北日本病害虫 研究会	13.2. 13-14	ストロビルリン系殺菌剤耐性キュ ウリベと病の発生とその防除対策	北日本病害虫研究会 報第 52 号, 251, 2001.11
	勝部 和則	平成 13 年度 日本植物病理 学会大会	13. 4. 2-4	露地きゅうり病害の総合防除の試 み	日本植物病理学会報 67, 179, 2001.8
	勝部 和則 他 1 名	2001 年度日本 土壌微生物学 会大会	13. 5.24	非病原性フザリウム菌と V C G 別 ホウレンソウ萎凋病菌の組合せに よる発病抑制効果の変動	土と微生物, 51(2), 139, 2001.11
	勝部 和則 他 1 名	平成 13 年度 日本植物病理 学会東北部会	13.10. 4-5	岩手県におけるキクわい化病の発 生と Tissue blot hybridization による検出	日本植物病理学会報 67
	猫塚 修一 他 1 名	平成 13 年度 日本植物病理 学会東北部会	13.10. 4-5	リンドウ茎枯病菌の接種条件と発 病の品種間差異	日本植物病理学会報 67
	橋元 進 他 1 名	日本蚕糸学会 東北支部	13.10. 25-26	三眠蚕と四眠蚕の交雑による繊維度 三眠蚕系統育成の試み	東北蚕糸・昆虫利用研 究報告第 26 号, 33, 2001.12
	阿部 信治 他 1 名	日本蚕糸学会 東北支部	13.10. 25-26	効率的な天蚕の採卵・山付け	東北蚕糸・昆虫利用研 究報告第 26 号, 34, 2001.12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
病害虫部 病理昆虫研究室	勝部 和則 他 1 名	第 55 回北日本 病害虫研究発表 会	14. 2. 13-14	ヒドロキシイソキサゾール粉剤による ホウレンソウ立枯性病害の防除	
	猫塚 修一 他 2 名	第 55 回北日本 病害虫研究発表 会	14. 2. 13-14	リンゴ幼果に発生した炭疽病の発生 特徴	
	橋元 進 他 3 名	国際野蚕学会		Adhesive strength of glue-like substances from the colleterial glands of <i>Antheraea yamamai</i> and <i>Rhodinia fugax</i>	Int.J.Wild Silkmoth &Silk:6,11-15,2001
畜産研究所 家畜育種研究室	太田原 健二	第 51 回東北畜 産学会大会	13. 8. 30-31	玄米の多量給与が日本短角種去勢 牛の産肉性に及ぼす影響	
	藤原 哲雄	第 77 回日本養 豚学会	14. 3.27	イワテハヤチネ L 2 におけるスコ アリングによる肢蹄改良効果の検 討について	
家畜飼養研究室	清宮 幸男	日本畜産学会		分娩前の飼養管理による乳牛の周 産期疾病予防	日本畜産学会報第 72 巻(10), 587-592, 2001.10
家畜工学研究室	山口 直己	第 51 回東北畜 産学会大会	13. 8. 30-31	搾乳ロボットにおける省力管理技 術と生産性に及ぼす影響	
	児玉 英樹	第 51 回東北畜 産学会大会	13. 8. 30-31	経膈採卵法により採取したウシ未 成熟卵子輸送方法の検討	
	鈴木 暁之	第 99 回東北畜 産学会大会	13. 9. 15-16	日本短角種におけるウシ筋肉肥大 (Double muscling) 牛の産肉性	
飼料生産研究室	野口 龍生	第 99 回東北畜 産学会大会	13. 9. 15-16	生体からのウシ羊水採取方法およ び浮遊細胞をドナーとした核移植	
	佐藤 直人 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発表 会	13. 7.24	ダンボール破砕紙の肥育牛に対す る敷料利用	東北農業研究第 54 号 109-110, 13.12
	齋藤 節男 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発表 会	13. 7.24	簡易牧草追播機利用による簡易草 地更新法	東北農業研究第 54 号 115-116, 13.12
外山畜産研究室	三浦 賢一郎 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発表 会	13. 7.24	シバムギの飼料価値	東北農業研究第 54 号 117-118, 13.12
	小梨 茂 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発表 会	13. 7.24	黒毛和種親子放牧における子牛の 発育向上対策	東北農業研究第 54 号 105-106, 13.12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
県北農業研究所 営農技術研究室	高橋 昭喜 他 1 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	岩手県における春播き小麦の品質 特性	東北農業研究第 54 号 77-78, 13.12
	大友 令史	第 55 回北日本 病害虫研究会	14. 2.13	アワにおけるアワノメイガの加害 生態	北日本病害虫報告第 53 号
	大友 令史	日本応用動物 昆虫学会		ネギコガの休眠と越冬を中心とし た発生生態	日本応用動物昆虫学 会誌第 45 巻(3), 123-128, 2001.8
やませ利用 研究室	飯村 茂之	平成 13 年度 東北地域農林 水産業研究成 果発表会	13. 7.23	岩手県における雑穀の産地化に向 けた試験研究の取り組み	東北農業研究別号第 14 号, 63-75, 13.12
専門技術員室	高橋 好範	日本土壌肥料 学会	13. 4. 2	寒冷地水田における有機質資材の 有効活用法(第 2 報)有機物等の 秋施用が暗きょ水質及び水稻生育 に及ぼす影響	
	高橋 好範 他 2 名	第 44 回東北農 業試験研究発 表会	13. 7.24	酒造好適米品種「ぎんおとめ」の 生育・栄養診断技術と栽培法	東北農業研究第 54 号 19-20, 13.12

### 3 雑誌等掲載

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月	
企画経営情報部	稲田 聖児	試験場だより「岩手県農業研究センター」	施設と園芸	13. 5	
	佐藤 嘉彦	オーストラリア・タスマニア州におけるリンゴ栽培と消費の実態について（上）	岩手りんごタイムス	13. 5	
	佐藤 嘉彦	オーストラリア・タスマニア州におけるリンゴ栽培と消費の実態について（下）	岩手りんごタイムス	13. 5	
	菅原 豊司	岩手県中山間地域の特産物の需要と産地対応	THE・穀 Study Onでの 口頭発表	13. 8	
	農産部	鶴田 正明	レーザー均平機械による水田均平作業の限界	農業土木学会論文集	13. 6
		阿部 潤	ジベレリン利用によるリンドウの株養成促進技術	「植調」第 35 号	13. 8
		八重樫 耕一	「特集企画」水稲直播栽培による岩手型低コスト稲作戦略～水稲直播播種法別特徴について～	農業普及	13.12
		尾形 茂	「特集企画」水稲直播栽培による岩手型低コスト稲作戦略～水稲直播における注意点について～	農業普及	13.12
	園芸畑作部	神山 芳典	水稲品種「いわてっこ」の紹介	現代農業	14. 2
		花き研究室	研究紹介 寒冷地型省力的花き生産技術の確立を目指す	農耕と園芸	13.10
作山 一夫		キャベツの早春まき 6 月どり栽培技術（H11 成果）	野菜園芸技術	13.11	
小野田 和夫		岩手県における早生ふじ、着色系ふじを巡る状況等について	福島の果樹	13.12	
鈴木 哲		岩手県葛巻町におけるヤマブドウの加工展開	地域資源活用食品加工 総覧第 1 号	13.12	
菅原 和仁		三陸沿岸の自根キュウリ栽培	ビニールと農園芸	13.秋冬号	
佐々木 仁		話題の品種「西洋ナシ・オーロラ」	果実日本	14. 2	
佐々木 仁		樹園地の雑草管理	日本植物調節剤研究会 東北支部会報	14. 2	
小野田 和夫		新しい性台木（JM 系統）の特性と利用	農業技術体系追録 17 号		
佐藤 秀継		季節の農作業「西洋なし」	農業普及	13. 4	
	〃	〃	13. 5		
	〃	〃	13. 6		
	〃	〃	13. 7		
	〃	〃	13. 8		
	〃	〃	13. 9		
	〃	〃	13.10		

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
園芸畑作部	山田 修	季節の農作業「きゅうり」	農業普及	13. 4
		〃	〃	13. 5
		〃	〃	13. 6
		〃	〃	13. 7
		〃	〃	13. 8
		〃	〃	13. 9
		〃	〃	13.10
		〃	〃	13.12
	門間 剛	季節の農作業「畑作物」	農業普及	14. 1
		〃	〃	14. 3
	有馬 宏	季節の農作業「野菜」	農業普及	14. 1
		〃	〃	14. 2
		〃	〃	14. 3
	野菜畑作	岩手県農業研究センターによる「夏ばやし」各種調査（平成12年）	園芸新知識	14. 2
	有馬 宏	早春まき6月どり栽培技術でキャベツの安定生産	グリーンレポート （JA全農）	13.10
	佐藤 秀継	花芽状況から見た生産予測と栽培管理	果樹だより	14. 2
	小野田 和夫	平成13年度果樹試験成果の概要	果樹だより	14. 3
	佐々木 仁	マメコバチの適正管理 基本に戻り飼養方法を確認	岩手りんごタイムス	13. 4
	河田 道子	摘葉剤の利用について 散布タイミングの体得を	岩手りんごタイムス	13. 4
	佐藤 秀継	摘葉剤の使い方 上手に使用し作業の軽減	岩手りんごタイムス	13. 8
鈴木 哲	新・改植の進め方 長期的な計画の基で	岩手りんごタイムス	13.12	
佐々木 健治	リンゴの新たな需要拡大に知恵を	岩手りんごタイムス	14. 1	
生産環境部	高橋 良学	果樹園の土づくり	果樹だより	13. 9
病害虫部	後藤 純子	斑点米カメムシ封じの心がまえ	グリーンレポート （JA全農）	13. 4
	藤沢 巧	果樹重要病害虫と防除対策（6）	果実日本	13. 7
	勝部 和則	岩手県におけるキュウリ褐斑病の発生実態と防除対策	野菜園芸技術	13. 8
	後藤 純子	岩手県におけるアカスミカスミカメの発生状況	植物防疫	13.10

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
病害虫部	藤沢 巧	モモシクイガの防除について	果樹だより	14. 3
	阿部 信治	季節の農作業「養蚕」	農業普及	13. 7
	阿部 信治	「技術講座」DIY 絹織物	農業普及	13. 8
	藤沢 巧	リンゴにおけるクサギカメムシの被害と防除対策	今月の農業	13. 6
	勝部 和則	ストロビルリン系殺菌剤耐性キュウリべと病菌の発生と対策	今月の農業	13.11
	藤沢 巧	防ダニ剤の使い方	岩手りんごタイムス	13. 6
	猫塚 修一	斑点落葉病の防除対策 耐性菌に気を付け適期防除	岩手りんごタイムス	13. 6
	猫塚 修一	炭そ病の発生生態と防除対策 防除散布の徹底を	岩手りんごタイムス	13. 6
	藤沢 巧	防除基準の改正点	岩手りんごタイムス	14. 1
畜産研究所	野口 龍生	クローン牛の生産技術の現状	家畜衛生情報誌 「エクログ」	13. 6
	野口 龍生	クローン牛の作出技術	クローンウシの作出技 術と安全性(リ-フルト)	13.11
	藤原 哲雄	新しい系統豚イワテハヤチネL 2	日本の養豚	13.10
	藤原 哲雄	新規登録された系統豚	養豚の友	13.12
	山口 直己	搾乳ロボットへの期待	機械化農業	14. 1
	山口 直己	搾乳ロボット開発から実用段階へ	デイリーマン	14. 2
	西田 清	季節の農作業「肉用牛」	農業普及	13. 4
		〃	〃	13. 6
		〃	〃	13. 8
		〃	〃	13.10
		〃	〃	13.12
	齋藤 節男	「技術講座」草地の簡易更新技術	農業普及	13. 9
	藤原 哲雄	「特集企画」新ランドレース種系統豚の造成とその活用	農業普及	13.10
齋藤 節男	ソルガムのロールラップ作業体系による収穫調整技術	岩手の畜産	13. 4	
齋藤 節男	簡易牧草追播機利用による簡易草地更新法	岩手の畜産	13. 7	

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
畜産研究所	高畑 博志	県有種雄牛紹介「北孝福」号 - 期待の新星！脂肪交雑 3.0 を記録！ -	岩手の畜産	13.12
	高畑 博志	いわて和牛改良推進技術研修会開催される	岩手の畜産	13.12
	高畑 博志	県有種雄牛紹介「糸晴清」「信菊徳」号	岩手の畜産	14. 1
	千田 高春	岩手型畜産の推進を	岩手の畜産	14. 2
	畜産研究所	岩手県農業研究センター畜産研究所の紹介	岩手の畜産	14. 2
県北農業研究所	大友 令史	北日本におけるネギコガの発生生態	今月の農業	13.12
	やませ利用	岩手県中山間地域の特産物の需要と産地対応にかかる雑穀の品種・系統紹介	THE・穀 Sutdy Onでの資料提供	13. 8
	正部家 紫	季節の農作業「水稲」	農業普及	13. 4

#### 4 新聞等掲載

部所名	記 事 見 出 し ( 内 容 )	掲載紙名	掲載年月日	
総務部	北上の県農研センター 環境 I S O 認証を取得	岩手日日	14. 2 23	
	環境 I S O を取得 県農業研究センター 公的機関で全国 3 番目	岩手日日	14. 2.23	
	県農業研究センター I S O を取得	岩手日報	14. 2.23	
	県研究センター 環境に優しい農業基盤確立へ研さん I S O 認証を取得	河北新報	14. 2.23	
	岩手県農研センター I S O 1 4 0 0 1 認証取得	日本農業新聞	14. 2.23	
	「北上地方年末年始等公安運動」 2 5 団体を連名表彰	岩手日日	14. 3.27	
	県農業研究センター所長 高橋氏（岩手大名誉教授）を起用	岩手日日	14. 3.28	
	体制強化へ学者を起用 県農業研究センター 所長に高橋氏（元岩手大農学部長）	岩手日報	14. 3.28	
	企画経営情報部	県農研と県生物工研 1 6 日から春季公開	岩手日日	13. 4.14
		あすから一般公開 県農研センター セミナーや発表会も	岩手日日	13. 4.15
きょうから一般公開 県農業研究センターなど 5 機関		岩手日報	13. 4.16	
2 0 日まで農業研究一般公開		日本農業新聞	13. 4.17	
県農研センター春季一般公開 パネル展に農家も関心		岩手日日	13. 4.17	
産学官連携の成果披露 農林研究協 土地改良など報告		岩手日報	13. 4.21	
農産物加工体験参加者を募集		読売新聞	13. 6.20	
「1 日子供農業研究員 - 夏休み農産物加工体験」の参加者募集		読売新聞	13. 6.29	
2 7 日に一日子供農業研究員 北上の県農研センター		岩手日日	13. 7. 1	
一日子供研究員募集 岩手		日本農業新聞	13. 7. 1	
夏休み農産物加工体験 県農業研究センター		岩手日日	13. 7. 4	
県産雑穀見直そう 研究発表や試飲食		日本農業新聞	13. 8.21	
2 4 日の畜産研皮切りに公開 岩手県農業研究センター		日本農業新聞	13. 8.23	
イネの飼料調整を実演 ふれあい農研センター 千厩町と大東町で開催		岩手日日	13. 8.24	
研究成果や役割を P R 県農研センター きょうから「参観デー」		岩手日日	13. 8.24	
あすから参観デー		岩手日日	13. 8.31	
きょうからいわて花メッセ 北上の県農業研究センター	岩手日日	13. 9. 1		

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日	
企画経営情報部	多彩に参観デー	岩手日日	13. 9. 2	
	色鮮やかに咲き競う 北上で花メッセ2001 きょうまで	岩手日報	13. 9. 2	
	もう秋 岩手・農の生け花展示会	日本農業新聞	13. 9. 2	
	心潤う花の園 北上・県農業研究センターでイベント	岩手日報(夕)	13. 9.10	
	一日子ども農業研究員募集	岩手日報	13.12.11	
	11日に冬休み農産物加工体験 県立農業研究センター	岩手日日	14. 1. 4	
農産部	県開発・水稲新品種「岩南16号」 展示水田で田植え 出来秋に品質比較	河北新報	13. 5.24	
	岩手「吟ぎんが」の挑戦	日経流通新聞	13. 9.20	
	オリジナル県水稲品種 名称は「いわてっこ」	岩手日日	13. 9.22	
	「いわてっこ」でデビュー 県の水稲新品種	岩手日報	13. 9.22	
	「いわてっこ」と命名	日本農業新聞	13. 9.22	
	県オリジナル米「いわてっこ」に 県開発の水稲の名決定	朝日新聞	13. 9.22	
	強くてうまい 水稲新品種 めんこいネ「いわてっこ」名称決まる	河北新報	13. 9.23	
	実りの秋を満喫 飯豊小 稲刈りに挑戦	岩手日日	13.10.11	
	ミニ棚田で児童が稲刈り	日本農業新聞	13.10.18	
	いわてっこ人気急上昇 冷夏に強い水稲新品種 目標超す種もみ希望	岩手日報	13.11.18	
	本県初のオリジナルもち米 「岩南糯19号」奨励品種に	岩手日報	14. 2.20	
	直播栽培の成功例学ぶ 北上でオープンセミナー	岩手日日	14. 3. 6	
	稲作低コスト化探る 岩手直まき栽培でセミナー	日本農業新聞	14. 3. 7	
	スターチスの増殖法確立 花穂から苗大量培養	河北新報	14. 3.12	
	種もみをまく「直播」普及 稲作コスト削減を支援	日本経済新聞	14. 3.13	
園芸畑作部	県オリジナル小菊が新品種 県農業研究センター開発	岩手日報	13. 4.19	
	小菊の新品種を開発 11月下旬めどに登録 花き主力品種に	岩手日日	13. 8.17	
	「ちゃげ丸」を初出荷 実入りが良く優れた食味 産地確立、目指す	岩手日日	13. 8.21	
	「ちゃげ丸」本格デビュー	河北新報	13. 8.21	
	枝豆「ちゃげ丸」初出荷	毎日新聞	13. 8.23	
	新小菊「アイマム」が初出荷 4種の色 県が開発	朝日新聞	13. 9. 2	
	小菊4品種登録申請へ リンドウに次ぐ作目に	日本農業新聞	13. 9.14	
	南部園芸研究室	気仙地域の園芸振興拠点に 陸前高田市が総合営農指導センター	日本農業新聞	13. 4. 7
		気仙農業に新拠点 陸前高田	岩手日報	13. 4.12
		農業振興の拠点に 南部園芸研究室オープン	岩手日日	13. 4.20
トマトの養液栽培試験に着手 県南部園芸研究室 新設のガラス温室で 日照多く、暖かい気候を生かす		東海新報	13. 8. 2	
実証試験トマトの生育順調 県南部園芸研究室 高規格ガラスハウスで養液栽培	東海新報	13.11.23		
生産環境部	環境に配慮した稲作へ いもち防除は育苗箱処理で薬剤成分の河川流出抑制	全国農業新聞	13. 4 .6	
	ボン菓子、漬物で実験 県農研センター 楽しく「一日研究員」	岩手日日	13. 7.28	
	夏休み研究に児童が加工体験	日本農業新聞	13. 8. 2	
	いもち病の無農薬防除 肥料減らし発病抑制	河北新報	13. 8. 2	
	農産物加工を楽しむ 県農業研究センター 子供たちが一日体験	岩手日日	14. 1.12	
	本格リングジュース 児童「研究員」が加工 北上の県農研センター	岩手日報	14. 1.12	
	子どもがリングジュース作り 岩手県農研センター 農産物加工体験	日本農業新聞	14. 1.12	
	岩手県中南部リンドウ畑の土壌環境実態	全国農業新聞	14. 2.14	

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
病害虫部	果樹の病害虫防除のポイント～リンゴ編～	全国農業新聞	13. 4.27
畜産研究所	「集約放牧」に高い効果 県の畜産研究所が実証	岩手日報	13. 4. 5
	種雄牛のクローン誕生 肉質試験短縮に期待	岩手日報	13. 4.18
	クローン牛出産に成功 県農業研究センター 細胞取り出しから初	朝日新聞	13. 4.20
	搾乳ロボット 完全自動で乳量増加	河北新報	13. 7.17
	「糸晴清」「信菊徳」 県基幹種雄牛に選抜、精液販売 優秀な成果を報告	日本農業新聞	13. 9.21
県北農業研究所	ウルイを早出し 岩手県農研センター ビニール被覆で簡単に	日本農業新聞	13. 5.23
	アマランサス栽培を機械化 新品種で特産振興へ	日本農業新聞	13. 5.30
	麦・大豆・雑穀で機械化 汎用コンバインなど活用	日本農業新聞	13. 6. 5

## 5 テレビ・ラジオ放送

### (1) テレビ

部所名	出演者氏名	番組名(内容)	放送局名	放送年月日
企画経営情報部	稲田 聖児	マイタウンきたかみ情報コーナー (農業研究センター参観デーについて)	北上ケーブルテレビ	13.10.20
企画経営情報部 生産環境部	羽田 えみ子 上山 純子	マイタウンきたかみ情報コーナー (夏休み一日子供農業研究員の開催と参加者募集)	北上ケーブルテレビ	13. 6.18
企画経営情報部 生産環境部	羽田 えみ子 上山 純子	マイタウンきたかみ情報コーナー (冬休み一日子供農業研究員の開催と参加者募集)	北上ケーブルテレビ	13.12.10
農産部	佐々木 力	Yui チャンネル (「いわてっこ」育成の苦労話と品種の概要)	岩手朝日テレビ	13.10.20
農産部	小野寺 健一	水田の環境を守る働きについて	岩手放送	14. 2.22
畜産研究所	村上 勝郎 小梨 茂	おばんですいわて (遠野貞任牧野で実証している黒毛和種放牧技術について)	N H K 盛岡放送局	13. 6.22

### (2) ラジオ 番組名「おはよう今日も元気で」

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
企画経営情報部	稲田 聖児	春期一般公開の開催について	I B C ラジオ	13. 4.13
	中森 忠義	搾乳ロボット導入のための乳量水準	I B C ラジオ	13. 4.27
	佐藤 嘉彦	農村・都市交流について	I B C ラジオ	13. 7. 6
	菅原 豊司	地域資源の特産品化について	I B C ラジオ	13. 7.13
	稲田 聖児	参観デーの開催について	I B C ラジオ	13. 8.24
	村上 和史	水田の推進管理について	I B C ラジオ	13.11. 9
	農産部	小田中 温美	水稲の初期管理について	I B C ラジオ
星 伸枝		スターチスの組織培養について	I B C ラジオ	13. 6.15
仲條 眞介		米の品種開発について	I B C ラジオ	13. 7.27
尾形 茂		水稲の登熟と適期収穫	I B C ラジオ	13. 8.31
大里 達朗		水稲の乾燥調製について	I B C ラジオ	13. 9.21
安ヶ平 紀子		イネへのDNAマーカーの利用について	I B C ラジオ	13.11.16
八重樫 耕一		農業の労働負担について	I B C ラジオ	13.12.21
高橋 真博		世界のいろんな稲について	I B C ラジオ	14. 1.25
小野寺 健一		新たなほ場整備について	I B C ラジオ	14. 2.22
白井 智彦		水稲育苗の留意点	I B C ラジオ	14. 3.22
園芸畑作部		高橋 拓也	本県育成えだまめ新品種について	I B C ラジオ
	内藤 善美	りんどう苗のジベレリン処理について	I B C ラジオ	13. 5.25
	鈴木 哲	リンゴの仕上げ摘果と夏場の管理	I B C ラジオ	13. 6.22
	荻内 謙吾	小麦新品種「ネバリゴシ」について	I B C ラジオ	13. 8. 3
	渡辺 愛美	小ギク新品種「CM」系について	I B C ラジオ	13. 9. 7
	佐藤 秀継	リンゴ晩生種の着色管理	I B C ラジオ	13.10.12
	有馬 宏	キャベツの越冬栽培について	I B C ラジオ	13.11.23
	葛巻 美知子	りんどうの促成・半促成栽培のポイントについて	I B C ラジオ	13.12.28
	河田 道子	リンゴの花芽の状況	I B C ラジオ	14. 2. 8
	山田 修	夏秋きゅうりの品種決定	I B C ラジオ	14. 3. 8

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
生産環境部	伊藤 美穂	いもち病の防除なしで稲の栽培ができる条件	I B C ラジオ	13. 5.11
	高橋 正樹	肥効調節型肥料について	I B C ラジオ	13. 7.20
	上山 純子	農産物の加工販売について	I B C ラジオ	13.10.26
	高城 保志	生分解性マルチフィルムについて	I B C ラジオ	13.12.14
	小田島 ルミ子	土壌蓄積養分の有効利用について	I B C ラジオ	14. 1.18
	平瀬 英利	県産農産物の栄養成分について	I B C ラジオ	14. 3.15
病害虫部	川村 亮二	いもち病発生予想と防除対策	I B C ラジオ	13. 6. 8
	藤沢 巧	りんご害虫の生態と防除	I B C ラジオ	13. 8.17
	勝部 和則	連作障害について	I B C ラジオ	13.11. 2
畜産研究所	遠藤 明人	新規検定済種雄牛の紹介	I B C ラジオ	13. 4.20
	伊藤 孝浩	放牧地の泥濘化防止対策について	I B C ラジオ	13. 6. 1
	野口 龍生	岩手県におけるクローン技術の現状	I B C ラジオ	13. 6.29
	三浦 賢一郎	長大飼料作物の収穫作業について	I B C ラジオ	13. 8.10
	山口 直巳	搾乳ロボットを活用した乳用牛の省力管理技術	I B C ラジオ	13. 9.14
	佐藤 直人	とうもろこし畑の堆肥施用について	I B C ラジオ	13.10.19
	小梨 茂	黒毛和種の放牧育成技術について	I B C ラジオ	13.12. 7
	鈴木 暁之	DNAによる和牛の改良	I B C ラジオ	14. 1. 4
	西田 清	黒毛和種県有種雄牛の紹介	I B C ラジオ	14. 2. 1
	吉田 登	岩手地鶏を活用した特産鶏	I B C ラジオ	14. 3. 1
	鈴木 賢	「ガンバレ日本短角種」近未来牛を目指せ	I B C ラジオ	14. 3.29
	県北農業研究所	大友 令史	岩手県におけるネギコガの発生生態と防除法	I B C ラジオ
長島 智美		水稻新品種「岩南 16号」について	I B C ラジオ	13. 9.28
根田 美和子		冬のコマツナ栽培について	I B C ラジオ	13.10. 5
飯村 茂之		葉たばこ栽培への生分解性マルチの利用	I B C ラジオ	13.11.30
大友 令史		環境にやさしい病害虫防除法について	I B C ラジオ	14. 1.11
正部家 紫		宿根草の有望品目について	I B C ラジオ	14. 2.15

(3) ラジオ(その他)

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
園芸畑作部	渡辺 愛美	小ぎく「アイマム」シリーズ	I B C ラジオ	13.12.18
畜産研究所	村上 勝郎 小梨 茂	ラジオNHK第1ネットワークニッポン(遠野貞任牧野で実証している黒毛和種放牧技術について)	N H K 盛岡放送局	13. 6.26
県北農業研究所	茂市 修平	おはよう朝一番 「ウルイ早出しについて」	I B C ラジオ	13. 5.29

6 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
企画経営情報部 農業経営研究室	村上 和史	水稲直播栽培の経済的特徴と導入条件	平成 13 年度第 3 回稲作技術対策会議分科会資料	14. 2
	細田 耕平	主業型農家（支援対象者）の経営意向調査結果	農業経営改善指導	14. 3
農産部 水田作研究室	臼井 智彦 長谷川 義孝	水稲奨励品種特性表	平成 14 年農業べんり帳	14. 3
	尾形 茂 高橋 政夫	水稲雑草防除基準	平成 14 年度農作物・雑草防除基準 及び 平成 14 年農業べんり帳	14. 1 14. 3
	吉田 宏	平成 14 年度稲作指導指針 （平成 14 年度追補版）	平成 14 年度稲作指導指針 （平成 14 年度追補版）	14. 2
園芸畑作部 野菜畑作研究室	有馬 宏	品目別栽培技術指針 ピーマン	平成 14 年度野菜栽培技術指針	14. 3
	山田 修	品目別栽培技術指針 きゅうり	平成 14 年度野菜栽培技術指針	14. 3
	高橋 拓也	品目別栽培技術指針 トマト	平成 14 年度野菜栽培技術指針	14. 3
	門間 剛	品目別栽培技術指針 ばれいしょ	平成 14 年度野菜栽培技術指針	14. 3
花き研究室	内藤 善美	品目別栽培技術指針 りんどう	平成 14 年度花き栽培技術指針	14. 3
	葛巻 美知子	品目別栽培技術指針 アスター	平成 14 年度花き栽培技術指針	14. 3
	渡辺 愛美	品目別栽培技術指針 小ぎく	平成 14 年度花き栽培技術指針	14. 3
南部園芸研究室	佐藤 成利	品目別栽培技術指針 カラー	平成 14 年度花き栽培技術指針	14. 3
	土田 泰輔	品目別栽培技術指針 イチゴ	平成 14 年度花き栽培技術指針	14. 3
病害虫部 病理昆虫研究室	勝部 和則	近年、発生が目立った病害	野菜栽培技術指針	14. 3
	藤沢 巧	近年、発生が目立った害虫	野菜栽培技術指針	14. 3
	勝部 和則	近年、発生が目立った病害	花き栽培技術指針	14. 3
	後藤 純子	近年、発生が目立った害虫	花き栽培技術指針	14. 3
東北農業研究所 やませ利用研究室	寺田 道一	水稲奨励品種特性表	平成 14 年農業べんり帳	14. 3

## 7 トライアングル

発行年月日	主 内 容
14. 3.18	1 巻頭言「ISO14001（環境管理国際基準）認証取得と農業試験研究」 所長 荻原 武雄 2 平成13年度の主な試験研究成果 （1）「普及」「指導」区分の成果名 （2）主な試験研究成果 ダイコン・キャベツ作における機械化体系の省力効果 品種 オリジナル中生もち水稻 餅加工適性に優れた「岩南糯19号」 小麦の冬期播種栽培技術 生分解性プラスチックマルチの特性と選択の目安 ハイブリダイゼーション法によるウイロイドフリーきく母株の選抜法 自動搾乳システムによる省力管理技術と生産性 中山間地域に適した宿根草・花木の特性 3 岩手県農業研究センターからのお知らせ ・科学技術週間は、農業科学博物館の入館料が無料！

## 8 図書資料収集・提供

項 目	冊数・人数
総蔵書数	1 8 0 , 6 2 7 冊
平成13年度収集図書数	1 , 1 3 9 冊
図書館利用者数（延べ）	7 4 0 名
同貸し出し冊数	1 , 1 3 7 冊

総蔵書数には畜産研究所及び県北農業研究所分を含む

## 9 農業情報システム（ホームページ）

項 目	件 数	
入力件数	研究レポート	3 3
	トライアングル	1
	行事予定	4
	トピックス、その他	1 1
アクセス件数	9 , 0 5 9	

トップページへの来訪者数

## 10 フラッシュ情報

発行日	標 題
13. 4. 9	農業研究センター畜産研究所 「体細胞クローン牛生産」第2報 2頭目は順調に生育

## V 指導・啓発活動



## 1 技術伝達研修等の実施

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
企画経営情報部	14. 1.16	県立農業大学校	新技術伝達研修	28名
農産部	14. 1.17-18	農業研究センター	新技術普及検討会（作物）	25名
	14. 3.12	東北農業研究センター	飼料稲研究会 ホルカワップサイレージ用体の刈り取り時期について	40名
園芸畑作部	13. 5.22	農業研究センター	リンゴ生育情報交換会	140名
	13. 6.19	農業研究センター	リンゴ防除員研究会	150名
	13. 7.27	農業研究センター	リンゴ防除員研究会	150名
	13. 8. 2	安代町	りんどうこぶ症の試験成果等の説明	30名
	13. 8.23	農業研究センター	リンゴ防除員研究会	150名
	13. 9.20	農業研究センター	西洋なし研修会	40名
	13.10. 2	農業研究センター	リンゴ生育情報交換会	150名
	13.10.16	農業研究センター	リンゴ品種検討会	50名
	14. 1.17	農業研究センター	新技術普及指導検討会（野菜）	30名
			新技術普及指導検討会（畑作）	15名
	14. 1.17-18	農業研究センター	新技術普及指導検討会（果樹） 新技術普及指導検討会（花き）	20名 25名
	14. 1.21	農業研究センター	果樹協会冬期講習会	130名
	14. 1.23	農業研究センター	西根町認定農業者部門別研修	15名
14. 2.20	農業研究センター	純情リンゴセミナー	140名	
畜産研究所	13.10.24	種山畜産研究室	いわて和牛改良研修	80名
	14. 1.18	畜産研究所	新技術普及指導検討会（畜産）	20名
県北農業研究所	13. 8.31	県北農業研究所	「岩南16号」栽培研修会	105名
	14. 1.17	県北農業研究所	新技術普及指導検討会（水稲・畑作物）	70名
	14. 1.18	県北農業研究所	新技術普及指導検討会（野菜・花き）	70名

## 2 研修会等への講師派遣

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
<b>企画経営情報部</b> 農業経営 細田 耕平	岩手県 JA 職員資格認証試験研修「農業経済」 中堅職員研修会基礎コース	13. 7. 24 13. 8. 1	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
佐藤 隆	岩手県 JA 職員資格認証試験研修「日本経済」 上級職員研修会基礎コース	13. 8. 30	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
佐藤 隆	岩手県 JA 営農指導員資格認証試験研修「地域農業マ ネジメント」	13.11.26	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
細田 耕平	岩手県 JA 営農指導員資格認証試験研修「農業経済」	13.11.27	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
<b>農産部</b> 水田作 高橋 政夫	岩手県 JA 営農指導員資格認証試験研修「農産」	13.11.29	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
高橋 政夫	平成 13 年度岩手経営者セミナー 稲作分科会	13.12.11	農業会議	花巻市
尾形 茂	岩手県農業管理指導士養成研修 雑草概論と最新防除技術	14. 1. 23	農業普及技術 課生産環境係	県庁
高橋 政夫 長谷川 義孝	最近の稲作動向と良食味米生産の取り組みについて	14. 3. 28	胆沢地域稲作 研究会	JA 岩手ふるさと 胆沢営農センター
<b>水稻育種</b> 神山 芳典	全国清酒技術者会東北地区大会	13. 7. 9	岩手県酒造組 合	農業研究センター
佐々木 忠勝 神山 芳典	岩南 16 号栽培研修会	13. 9. 3	農産園芸課	軽米町
神山 芳典	岩手県酒造組合吟醸酒研究会	13. 9. 7	岩手県酒造組 合	盛岡市
神山 芳典	岩手県酒造講習会	13.11. 2	岩手県酒造組 合	盛岡市
神山 芳典	岩手県立農業大学校講師「植物育種学」	13. 9. 21 13. 9. 28 13.11.30 13.12.14	農業大学校	農業大学校
佐々木 力	岩手県立農業大学校講師「作物育種」	13.10.16 13.10.23 13.10.30 13.11.13	農業大学校	農業大学校

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
応用生物工学 星 伸枝	岩手県立農業大学校講師「植物工学実験」	13. 9 .4 13.10. 2 13.10.16	農業大学校	農業大学校
安ヶ平 紀子	岩手県立農業大学校講師「植物工学実験」	13.10.30	農業大学校	農業大学校
阿部 潤	岩手県立農業大学校講師「作物育種」	13.11.20 13.11.27 13.12. 4 13.12.11	農業大学校	農業大学校
阿部 潤	JA 新岩手南部地域花卉生産部会研修会 花卉におけるバイテクの現状と今後の方向性	14. 3. 8	JA 新いわて	雫石町
生産工学 鶴田 正明	岩手県農薬管理指導士養成研修 農薬散布技術、防除機等に関する知識	14. 1.23	農業普及技術 課生産環境係	県庁
園芸畑作部 果樹 佐々木 仁	ブドウ栽培講習	13. 6.12	経済連	大迫町
佐々木 健治	落葉果樹農業研修所講師「果樹総論」	13. 7.11	農水省農業者 大学校	落葉果樹農業研 修所
小野田 和夫 佐々木 仁	平成 13 年度西洋なし栽培研修会	13. 9.20	JA 経済連	農業研究センター
小野田 和夫	岩手県 JA 営農指導員資格認証試験研修「果樹」	13.11.29	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
小野田 和夫	落葉果樹農業研修所講師「わい性台木を用いた低樹高 栽培の講義及び剪定実習」	14. 1.23	農水省農業者 大学校	落葉果樹農業研 修所
佐々木 仁	西洋なし研修会	14. 2.13	花巻農業改良 普及センター	農業研究センター
佐々木 仁	ブドウ栽培リーダー研修会	14. 2.28	JA 岩手中央	紫波町
小野田 和夫	花巻管内への晩生有望品種の方向性	14. 3. 6	JA いわて花巻	花巻温泉
野菜畑作 作山 一夫	岩手県 JA 営農指導員資格認証試験研修「野菜」	13.11.29	岩手県農業協 同組合中央会	JA 岩手学園
花き 児玉 勝雄	北上市二子公民館福寿学級 花きの試験研究内容について	13. 6.12	二子公民館	農業研究センター
児玉 勝雄 内藤 善美	りんどう採種技術の検討	13. 6.20 13. 8. 1 13. 8.21	農産園芸課	浄法寺町（種苗 センターバ イク農場）

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
花き 葛巻 美知子	安代町りんどう巡回指導会	13. 6 29	JA 新岩手	安代町
児玉 勝雄 内藤 善美	「いわて乙女」巡回指導	13. 7. 21	JA いわて花巻	JA いわて花巻管内
児玉 勝雄 内藤 善美	岩手大学農学部園芸学実験 農研センターにおける花き研究の状況	13. 7. 31	岩手大学農学部	農業研究センター
児玉 勝雄	りんどうこぶ症の研究	13. 8. 2	農産園芸課	安代町
児玉 勝雄 内藤 善美 小田島 雅	「こりん」の栽培状況等の調査と指導	13. 8. 27	農産園芸課	平泉町、花巻市
内藤 善美 渡辺 愛美 小田島 雅	小ぎく優良品種展示圃の中間検討	13. 9. 10	JA いわて花巻	北上市、盛岡市
児玉 勝雄	大新農家組合研修 花き研究状況と今後の展望について	13. 9. 27	大新農家組合	農業研究センター
児玉 勝雄 小田島 雅	鉢物りんどうの販売実績検討会	13. 11. 13	農産園芸課	花巻市
児玉 勝雄 内藤 善美	りんどう審査に係る検討会 種子繁殖系りんどうの均一性の判断基準作成の助言	13. 11. 21-22	農林水産省	農林水産省
児玉 勝雄	岩手県 JA 営農指導員資格認証試験研修「花き」	13. 11. 30	岩手県農業協同組合中央会	JA 岩手学園
児玉 勝雄 内藤 善美 渡辺 愛美	農業大学校花き専攻講座 農研センターにおける花き研究の状況	13. 12. 14	農業大学校	農業研究センター
渡辺 愛美 小田島 雅	江釣子花き生産組合管理講習会 小ぎくの親株管理について	14. 1. 23	江釣子花き生産組合	農業研究センター
児玉 勝雄	花き生産者ネットワークづくり研修会 全体会・りんどう分科会	14. 1. 24-25	農産園芸課	雫石町
内藤 善美	花き生産者ネットワークづくり研修会 トルコギキョウ分科会	14. 1. 24-25	農産園芸課	雫石町
渡辺 愛美	花き生産者ネットワークづくり研修会 小ぎく分科会	14. 1. 24-25	農産園芸課	雫石町

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
南部園芸 土田 泰輔	イチゴ養液土耕栽培現地検討会（高設栽培技術及び秋出し作型	13. 8. 9	土地改良事業 営農対策委員 会千厩地方幹 事会	川崎村、藤沢町
菅原 和仁	きゅうり急性萎凋症検討会（きゅうり急性萎凋症の原因解明）	13.10.16	盛岡地方元気 な園芸産地づ くり運動推進 協議会 盛岡農業改良 普及センター	紫波町
菅原 和仁	イチゴ高設栽培ほ場相互巡回	13.11.14	盛岡地方元気 な園芸産地づ くり運動推進 協議会 盛岡農業改良 普及センター	盛岡市、紫波町
菅原 和仁	イチゴ栽培講習会	14. 2 22	JA 陸前高田市	住田町
生産環境部 環境保全 築地 邦晃	岩手県立農業大学校講師「作物保護」	13.10.18 13.11. 1	農業大学校	農業大学校
築地 邦晃	岩手県農薬管理指導士養成研修 農薬の安全性評価及び各種基準の設定	14. 1.23	農業普及技術 課生産環境係	県庁
土壌作物栄養 小野 剛志	岩手県立農業大学校講師「土壌肥料」	13.6.14- 2.21 の 間 13 回	農業大学校	農業大学校
高橋 正樹	安代町りんどう巡回指導会	13. 6 29	JA 新岩手	安代町
保鮮流通技術 平淵 英利 上山 純子	新規加工施設における機器使用方法の技術指導	13. 5.18	道の駅雫石	道の駅雫石
千葉 行雄	岩手県立農業大学校講師「農作物加工概論」	13.7.12- 12.13 の間 7 回	農業大学校	農業大学校
児玉 淑子	岩手県立農業大学校講師「生化学実験」	13.9.17- 11.26 の間 5 回	農業大学校	農業大学校
平淵 英利 上山 純子	山菜レトルト加工及び施設機材導入に係る技術指導	13. 9.19	総合農舎山形 村	総合農舎山形村

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所	
病害虫部 病理昆虫 後藤 純子	岩手県立農業大学校講義「作物保護学」	13. 9.20 13.10. 4	農業大学校	農業大学校	
	勝部 和則	岩手県立農業大学校講義「作物保護学」	13.10.18 13.11. 1	農業大学校	農業大学校
	後藤 純子	岩手県農薬管理指導士養成研修 農作物やゴルフ場の主な害虫と防除方法	14. 1.23	農業普及技術 課生産環境係	県庁
	勝部 和則	岩手県農薬管理指導士養成研修 主要病害の防除方法	14. 1.23	農業普及技術 課生産環境係	県庁
	藤沢 巧	西洋なし研修会	14. 2.13	花巻農業改良 普及センター	農業研究センター
畜産研究所 家畜育種 藤原 哲雄	岩手県立農業大学校講師「家畜飼養管理」	13.11.30 13.12. 4 13.12. 7 13.12.18	農業大学校	農業大学校	
	小松 繁樹 小梨 茂	放牧衛生管理と子牛発育向上対策	14.2. 20-21	二戸家畜畜産 物衛生指導協 会	西根町 (いこいの村岩 手)
	太田原 健二 鈴木 賢	超音波生体肉質診断装置(スーパーアイミート)の画 像診断研修	14. 2.26	久慈家畜畜産 物衛生指導協 会	大野村 (大野地区共同 模範牧場)
家畜飼養 大和 貢	家畜商講習会 家畜の品種と特性	13. 9.14	家畜商業協同 組合	盛岡市	
	大和 貢	酪農講習会 乳用牛の哺育育成技術	13.12.11	金ヶ崎町酪農 部会	金ヶ崎町
	菊池 文也	岩手県立農業大学校講師「家畜飼養管理」	13.11.27	農業大学校	農業大学校
	大和 貢 山口 直己	西根町認定農業者部門研修会 畜産部門	14. 1.23	西根町	畜産研究所
山口 直己	畜産技術協会中央専門家研修会 搾乳ロボットによる省力管理技術と生産性	14. 3. 5	畜産技術協会	東京都	
大和 貢	湯田町酪農講習会 乳用牛の飼養管理技術とカウコ ンフォート(牛の快適性)	14. 3.20	湯田町酪農部 会	湯田町	
家畜工学 野口 龍生	岩手県立農業大学校講師「クローン技術 講義・実習」	13. 9. 27-28 13.11. 26-27	農業大学校	農業大学校	

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
家畜工学 野口 龍生	家畜人工授精師養成講習会 人工授精注入実習 発情鑑定	13.11 (3日間)	畜産課	畜産研究所
野口 龍生	肉畜生産改良集団県内研修 受精卵を活用した肉用牛改良	14. 1.29	玉山村和牛改良組合	西根町
吉川 吉郷	家畜体内受精卵移植講習会 受精卵移植概論	14. 2. 5	畜産課	畜産研究所
野口 龍生	家畜人工授精師講演会 体細胞クローン技術	14. 2. 7-8	岩手県畜産会	盛岡市
児玉 英樹	家畜体内受精卵移植講習会 受精卵の生理及び形態	14. 2 (5日間)	畜産課	畜産研究所
野口 龍生	家畜体内受精卵移植講習会 体内受精卵の処理・移植	14. 2 (6日間)	畜産課	畜産研究所
野口 龍生	岩手県獣医師会視支会研修会 体細胞クローン技術	14. 3.19	岩手県獣医師会視支会	西根町
吉川 吉郷	人工授精講習会 牛の遺伝病	14. 3.20	経済連	栗石町
種山畜産 高畑 博志	いわて和牛改良研修会 いわて和牛改良事業の取り組み及び育種価利用	13.10. 4	全国和牛登録協会岩手県支部	種山畜産研究室
遠藤 明人 西田 清	第8回全国和牛共進会出品肥育牛選抜のためのスーパーアイミート技術指導	13.10.19	磐井和牛育種組合	千厩町、一関市 花泉町
高橋 達典	岩手県立農業大学校講師「家畜飼養管理」	13.11.13 13.12.11 13.12.20	農業大学校	農業大学校
遠藤 明人 西田 清	第8回全国和牛共進会出品肥育牛選抜のためのスーパーアイミート技術指導	13.12.26	胆江和牛育種組合	胆沢町、水沢市 金ヶ崎町
菊池 雄	自給飼料を活用した和牛生産	14. 3.25	胆沢町農林課	JA 岩手ふるさと 胆沢営農センター
県北農業研究所 営農技術 大友 令史	キャベツ害虫の生態	13. 6.15	JA いわて奥中山	一戸町
大友 令史	ネギコガの発生生態と防除法	13.10.25	岩手県植物防疫協会	盛岡市
大友 令史	天敵を使ったコナガ防除法及びキャベツ根こぶ病を発生させない栽培管理技術	13.12. 3	JA 新いわて	西根町

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
産地育成				
菅原 英範	クッキングトマト作付け推進	13. 4. 2	JA 北いわて	二戸市、軽米町
富田 典子	花壇苗栽培指導会	13. 4. 21	九戸村 4Hクラブ	九戸村
富田 典子	花壇苗栽培指導会	13. 6. 15	JA いわて奥中山	一戸町
正部家 紫	宿根草栽培指導会	13. 7. 13	二戸農業改良普及センター	二戸市
茂市 修平 菅原 英範 根田 美和子	リーディングファームだいこん品種比較現地検討会	13. 7. 17	釜石農業改良普及センター	釜石市
菅原 英範	園芸作物生産資材等検討会	13. 12. 28	JA いわて奥中山	一戸町
菅原 英範	クッキングトマト栽培指導会	14. 3. 14	JA 北いわて	軽米町
茂市 修平	山菜栽培指導会	14. 3. 14	大野村ふるさと公社	大野村
やませ利用				
長谷川 聡	雑穀栽培研修会	13. 7. 30	JA 新いわて	滝沢村
長谷川 聡	そば栽培研究会	13. 7. 31	山形村	山形村
仲谷 房治	紫紋羽病及び腐らん病対策研修会	14. 2. 18	かお <sup>o</sup> ア <sup>o</sup> りんご振興協議会	二戸市
長谷川 聡	雑穀関係者交流会	14. 2. 22	農産園芸課	滝沢村
飯村 茂之	水稻基本栽培研修会	14. 2. 22	JA 遠野	遠野市
飯村 茂之	雑穀栽培研修会	14. 3. 19	二戸地域ア <sup>o</sup> ロホ <sup>o</sup> リス構想推進機構	二戸市

### 3 視察者、見学者の受入状況(平成13年4月～平成14年3月)

区 分	公式来所者数	非公式来所者数	合 計	備 考
本 部	2,811 人	23,597 人	26,408 人	非公式来所者数には、春期一般公開及び参観デー来所者を含む。
畜産研究所	2,163 人	1,684 人	3,847 人	
県北農業研究所	603 人	996 人	1,599 人	
計	5,577 人	26,277 人	31,854 人	

### 4 春期一般公開及び参観デー

名 称	開 催 期 日	開 催 場 所	参 集 人 員
農業研究センター 春季一般公開	13. 4.16～20	農業研究センター	388名
”	13. 4.16～20	畜産研究所	36名
”	13. 4.16～20	県北農業研究所	48名
”	13. 4.17～22	農業ふれあい公園「農業科学博物館」	177名
農業研究センター 参観デー	13. 9. 1～ 2	農業研究センター	23,452名
”	13. 8.24～26	畜産研究所	1,437名
”	13.8.31～9.1	県北農業研究所	966名

### 5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開 催 場 所	主 な 内 容	参集人員
13. 8. 2	大槌町 遠野地方農業協同組合 大槌営農センター	なばな栽培のポイント	37名
13. 8.22	千厩町 小梨公民館	小ぎく生産の技術的課題と産地づくり	56名
	大東町 大東町農業技術センター	イネホールクroppサイレージの調製方法とその利用技術	48名
13. 9.13	水沢市 胆沢川温泉さくらの湯	乳牛における超省力管理技術と生産向上対策について	50名
13.10.19	沢内村 西和賀農業協同組合	りんどうの品種及び病害虫について	56名

### 6 一日子供農業研究員

名 称	開 催 期 日	内 容	参集人員
一日子供農業研究員(第1回) ～夏休み農産物加工体験～	13. 7.27	小学5年生を対象とした漬け物やボン菓子の研究	23名
一日子供農業研究員(第2回) ～冬休み農産物加工体験～	14. 1.11	小学5年生を対象としたりんごジュースの研究	25名

### 7 加工体験

項 目	人 数(件 数)
施設等の見学	3,500人
加工実習	485人 (37件)
特産品試作	242人 (48件)
合 計	4,227人

## 8 研修生の受入れ

### (1) 海外研修員

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
【県海外技術研修員】 張 布雷	中国山西省農業幹部学校 (教師)	小麦の栽培、肥料利用技術	園芸畑作部 (野菜畑作研究室)	13. 6.18 ~14. 3.15
ハルマン・アルキント・ ルコム・ロペス	エクアドル ケベド技術大学	野菜・花等の増殖技術の実際	農産部 (応用生物学研究室)	13.12.26 14. 1.24 14. 2.15
イ・マテ・スマタ	インドネシア バドウン県農業食糧省	野菜・花等の増殖技術の実際	農産部 (応用生物学研究室)	13.12.26 14. 1.24 14. 2.15
林野 実	パラグアイ イタプア県 ピラポ市農家後継者	牛の肥育技術	畜産研究所	13. 6. 1 ~14. 3.15
ANAK AGUNG PUTU JONI WAHYUDA	インドネシア ブルクンバ家畜保健衛生 所(獣医師)	牛の繁殖技術 牛の肥育技術	畜産研究所	13.10. 1 ~14. 3.15
【JICA 随時受入れ】 Maliki ISHAK	インドネシア 家畜改良センター岩手牧 場からスポット依頼	岩手県の畜産行政と畜産試験 研究	畜産研究所	13. 9.10 ~13. 9.14

### (2) 短期研修生

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
佐藤 朝次郎 渡辺 嘉庸	岩手中部農業共済組合 胆江地域農業共済組合	水稻の栽培技術研修 "	農産部 (水田作研究室)	13. 5.15~17 13. 7.10~12 13. 9.18~20 13.10. 9~11 13.11.14~15
小田 保 設楽 文隆 千田 俊介	盛岡地域農業共済組合 岩手中部農業共済組合 胆江地域農業共済組合	果樹の栽培技術研修 " "	園芸畑作部 (果樹研究室)	13. 5.22~24 13. 9. 4~ 6 13.11. 6~ 8 14. 1.15~17
斉藤 健	麻布大学獣医学部学生	家畜の飼養・衛生管理技術	畜産研究所	13. 8.20~ 9. 3

### (3) 改良普及員

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
宍戸 貴洋	二戸農業改良普及センター 軽米地域普及所	専門技術研修(作物)	農産部 (水田作)	13. 6.21,25~26 13.11.29~30
工藤 佳徳 照井 儀明	盛岡農業改良普及センター 盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	技術向上研修(作物) "	農産部 (水田作) (生産工学)	13. 9.12
小原 公則	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	"		

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
山本 研 沼田 芳宏 日影 勝幸 渡辺 麻由子 林尻 雄大 吉田 純子 永富 巨人 大友 英嗣 畠山 陽子	花巻農業改良普及センター 花巻農業改良普及センター 北上農業改良普及センター 北上農業改良普及センター 水沢農業改良普及センター 遠野農業改良普及センター 宮古農業改良普及センター 宮古農業改良普及センター 岩泉地域普及所 久慈農業改良普及センター	技術向上研修(作物) " " " " " " " "	農産部 (水田作) (生産工学)	13. 9.12
和野 重美 外館 光一 菅原 浩視 小田中 浩哉 小綿 寿志 根子 善照 扇 良明 中野 央子 中西 商量	盛岡農業改良普及センター 北上農業改良普及センター 水沢農業改良普及センター 水沢農業改良普及センター 一関農業改良普及センター 遠野農業改良普及センター 久慈農業改良普及センター 二戸農業改良普及センター 二戸農業改良普及センター 軽米地域普及所	水田農業機械化研修 " " " " " " " "	農産部 (生産工学)	13.10.24,26
穴戸 貴洋	二戸農業改良普及センター 軽米地域普及所	専門技術研修(作物)	園芸畑作部 (野菜畑作)	13. 6.20,22,28 13.12. 4
工藤 佳徳 照井 儀明 小原 公則 山本 研 沼田 芳宏 日影 勝幸 渡辺 麻由子 林尻 雄大 吉田 純子 永富 巨人 大友 英嗣 畠山 陽子	盛岡農業改良普及センター 盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所 盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所 花巻農業改良普及センター 花巻農業改良普及センター 北上農業改良普及センター 北上農業改良普及センター 水沢農業改良普及センター 遠野農業改良普及センター 宮古農業改良普及センター 宮古農業改良普及センター 岩泉地域普及所 久慈農業改良普及センター	技術向上研修(作物) " " " " " " " " " " " " "	園芸畑作部 (野菜畑作)	13. 9.11
酒井 純子 高橋 史絵 千田 裕 大野 浩	花巻農業改良普及センター 水沢農業改良普及センター 一関農業改良普及センター 釜石農業改良普及センター	専門技術研修(野菜) " " "	園芸畑作部 (野菜畑作)	13. 5.23~30 13. 6.18~27
梅澤 学 小川 陽 福士 敬子 八重樫 裕子	盛岡農業改良普及センター 大船渡農業改良普及センター 宮古農業改良普及センター 二戸農業改良普及センター	専門技術研修(花き) " " "	園芸畑作部 (花き)	13. 5.23~25 13. 6.20~25
高家 幸恵 小林 節子	盛岡農業改良普及センター 花巻農業改良普及センター	専門技術研修(農村生活) "	生産環境部 (保鮮流通技術)	13. 6.14~15 13. 6.18~19

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
宍戸 貴洋	二戸農業改良普及センター 軽米地域普及所	専門技術研修(作物)	生産環境部 (土壌作物栄養) (保鮮流通技術)	13.11.26 13.12.6 13.11.30
阿部 洋 高橋 司	盛岡農業改良普及センター 盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	技術向上研修(果樹) "	病害虫部 (病理昆虫)	13.12.11
小林 卓史	花巻農業改良普及センター	"		
小田 豊	北上農業改良普及センター	"		
田村 博明	水沢農業改良普及センター	"		
川守田 真紀	一関農業改良普及センター	"		
小野 浩司	千厩農業改良普及センター	"		
吉田 昌史	大船渡農業改良普及センター	"		
佐々木 真人	宮古農業改良普及センター	"		
稲森 幹幸	二戸農業改良普及センター	"		
石川 志津	盛岡農業改良普及センター 岩手地域普及所	専門技術研修(畜産)	畜産研究所 (種山畜産)	13.7.26
佐藤 洋一	水沢農業改良普及センター	"	(飼料生産)	13.7.30~8.1 13.9.2~9.26
村越 まり子	千厩農業改良普及センター	"	(外山畜産)	13.8.2
佐藤 真	宮古農業改良普及センター	"	(家畜工学)	13.8.3
鈴木 満明	久慈農業改良普及センター	"	(家畜飼養) (家畜育種)	13.9.2~10.2 13.10.3~10.5
宍戸 貴洋	二戸農業改良普及センター 軽米地域普及所	専門技術研修(作物)	県北農業研究所 (営農技術) (やませ利用)	13.9.3,7 13.9.4,6,7
酒井 純子 高橋 史絵	花巻農業改良普及センター 水沢農業改良普及センター	専門技術研修(野菜) "	県北農業研究所 (産地育成)	13.7.23~31
千田 裕 大野 浩	一関農業改良普及センター 釜石農業改良普及センター	" "		
梅澤 学 小川 陽	盛岡農業改良普及センター 大船渡農業改良普及センター	専門技術研修(花き) "	県北農業研究所 (産地育成)	13.7.23~31
福士 敬子 八重樫 裕子	宮古農業改良普及センター 二戸農業改良普及センター	" "		

9 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
全国農業関係試験研究場所長会作物部会	東北ブロック選出 会計監事	所長	技術会議
出願品種現地調査員	調査員	園芸畑作部長	農産園芸局種苗課
東北地域直播推進会議	幹事	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進連絡協議会	委員	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進協議会ワーキング グループ	グループ員	水田作研究室長	東北農政局農産普及課
東北農業試験研究協議会	理事	所長	独立行政法人 東北農業研究センター
東北農業試験研究会議畑作部会	代表場所長	所長	独立行政法人 東北農業研究センター
東北農村生活研究会	理事	農業経営研究室長	独立行政法人 東北農業研究センター
東日本受精卵移植技術研究会	理事	家畜工学研究室長	独立行政法人 畜産草地研究所
肉用牛広域後代検定評価技術検討会	委員	種山畜産研究室 上席専門研究員	独立行政法人 家畜改良センター
岩手農林研究協議会（A F R）	副会長 委員 委員 委員 委員 委員 委員 委員	所長 企画経営情報部長 農産部長 園芸畑作部長 生産環境部長 病害虫部長 畜産研究所長 県北農業研究所長	岩手大学農学部
岩手農林研究協議会（A F R）幹事会	幹事 幹事	企画経営情報部長 農産部長	岩手大学農学部
農業機械学会第 16 回年次大会運営委員会	委員	所長	岩手大学 （日本農業機械学会）
東北草地研究会	副会長	飼料生産研究室長	東北大学農学部
東北農業経済学会	理事	農業経営研究室長	東北大学農学部
岩手県研究開発推進連絡会議	委員	所長	科学技術課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
「県産オリジナル清酒」振興アクションプラン検討委員会	事務局	水稻育種研究室長	商工労働観光部
いわて農業・農村表彰事業審査委員会	審査委員	所長	農林水産企画室
岩手県バイオテクノロジー研究調整会議	委員	所長	農林水産企画室
岩手県農業共済保険審査委員会	委員 委員 委員	所長 農産部長 園芸畑作部長	団体指導課
限定純情米販売対策委員会	委員	農産部長	流通課
花の国づくり岩手県協議会	会員	園芸畑作部長	流通課
いわて純情米推進協議会	幹事	農産部長	流通課
農業振興地域整備促進連絡会議	構成員	所長	農業振興課
岩手県中山間地域活性化対策検討会議	委員	農業経営研究室長	農業振興課
岩手県農業構造改善事業等推進連絡協議会	委員 中央指導班員	企画経営情報部長 農業経営研究室長	農業振興課
岩手県農業技術調整連絡会議	委員 部会員	農産部長 水田作研究室長	農業普及技術課
岩手県農業気象協議会	委員 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	企画経営情報部長 水田作研究室長 果樹研究室長 環境保全研究室長 飼料生産研究室長 やませ利用研究室長	農業普及技術課
岩手県農業気象協議会冷害防止緊急技術会議	構成員	水田作研究室長	農業普及技術課
岩手県農業士・農村生活アドバイザー選考委員会	委員	所長	農業普及技術課
岩手県農業賞審査委員会	審査委員	所長	農業普及技術課
岩手県農業担い手懇談会調査検討部会	委員	農業経営研究室長	農業普及技術課
高度土づくり技術確立推進協議会	構成員 構成員	土壌作物栄養研究室長 営農技術研究室長	農業普及技術課
農村女性起業評価指標作成委員会	委員	農業経営研究室長	農業普及技術課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長 中央幹事	所長 生産工学研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 産地育成研究室長	農村計画課
岩手県花き産地づくりコンクール	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 花き研究室長 専門技術員	農産園芸課
岩手県主要農作物奨励品種審査委員会	委員	所長	農産園芸課
岩手県奨励品種等審査委員幹事会	幹事 幹事 幹事 幹事	首席専門技術員 農産部長 園芸畑作部長 県北農業研究所長	農産園芸課
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	県北農業研究所長 農業経営研究室長 野菜畑作研究室長 やませ利用研究室長	農産園芸課
岩手県水田農業推進協議会米麦・大豆等生産流通部会	部会員	水田作研究室長	農産園芸課
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産部長	農産園芸課
岩手県農作業安全対策協議会	委員 委員	副所長 畜産研究所長	農産園芸課
岩手県農作業安全対策協議会	幹事 幹事	生産工学研究室長 飼料生産研究室長	農産園芸課
岩手県農薬管理士認定委員会	委員	環境保全研究室長	農産園芸課
岩手県ふるさと食品コンクール	審査員	生産環境部長	農産園芸課
岩手県りんご産地づくりコンクール	審査委員長 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 果樹研究室長	農産園芸課
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会	委員 委員 委員	園芸畑作部長 首席専門技術員 県北農業研究所長	農産園芸課
同上 麦部会	部会長	首席専門技術員	
同上 大豆部会	部会長	園芸畑作部長	

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
いわて純情園芸産地づくり推進協議会	委員	所長	農産園芸課
いわて和牛育種改良推進事業県協議会	委員 委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長	畜産課
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	飼料生産研究室長	畜産課
岩手県畜産技術協会	世話人	畜産研究所長	畜産課
家畜改良増殖推進協議会	副委員長 委員	畜産研究所長 畜産研究所次長	畜産課
家畜導入事業資金供給事業県協議会	委員	家畜育種研究室長	畜産課
岩手県稲発酵粗飼料（ホルクropp サレージ）推進協議会	委員	水田作研究室長 飼料作物研究室長	畜産課
盛岡地域公共牧場再編協議会	理事 幹事	外山畜産研究室長 外山畜産研究室長補佐	盛岡地方振興局農政部
北上地区行政連絡会議	構成員	所長	北上地方振興局農政部
大船渡地方農業振興協議会	幹事	南部園芸研究室長	大船渡地方振興局 農林水産部
久慈地方農業農村活性化推進協議会	構成員 幹事 専門部会幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長	久慈地方振興局農政部
土地改良事業営農対策推進委員会久慈地方幹事会	幹事 幹事	やませ利用研究室長 専門技術員	久慈農業改良普及センター
馬淵川沿岸土地改良事業検討委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
二戸地方農業振興協議会	構成員 幹事 園芸リノ部会幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 産地育成研究室長	二戸地方振興局農政部
奥中山地域液状コンポスト利用実証展示検討委員会	委員	飼料生産研究室長	二戸地方振興局農政部
二戸地域農政推進会議	委員 委員	県北農業研究所長 県北農業研究所長次長	二戸地方振興局農政部
二戸地方農林行政連絡会議	構成員 構成員	県北農業研究所長 県北農業研究所長次長	二戸地方振興局農政部

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
エコファーマー計画認定審査委員会	委員	県北農業研究所長	二戸地方振興局農政部
馬淵川沿岸地区営農改善対策調査委員会	委員	営農技術研究室長	二戸農業改良普及センター
土地改良事業営農対策推進委員会二戸地方幹事会	幹事	県北農業研究所次長	二戸農業改良普及センター
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	園芸畑作部長	北上市
陸前高田市総合農政推進協議会	幹事	南部園芸研究室長	陸前高田市
国営八戸平原総合農地開発事業軽米地区畑地 かんがい実証展示圃運営委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
八戸平原地域対策協議会	委員 営農推進部会員	県北農業研究室長 産地育成研究室長	三戸農林水産事務所
軽米町総合農政推進協議会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
軽米町農業振興地域整備促進協議会	委員	県北農業研究所長	軽米町
軽米町農作物気象災害防止対策本部	幹事	やませ利用研究室長	軽米町
軽米町新需要穀類種子生産振興協議会	幹事	やませ利用研究室長	軽米町
軽米町雑穀・麦大豆等生産振興協議会	構成員	やませ利用研究室長	軽米町
軽米町産業祭実行委員会	委員	県北農業研究室長	軽米町
九戸村農林業振興対策会議 園芸支援振興支援センター 新規就農者支援対策事業審議会 農林業技術者連絡会議 農業経営改善支援センター	委員 委員 委員 運営委員 構成員	県北農業研究所長 県北農業研究所長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長	九戸村
玉山村村営牧野運営委員会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
玉山村畜産振興協議会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
岩手県施肥合理化協議会	参与 参与 参与 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	副所長 畜産研究所長 首席専門技術員 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 営農技術研究室長	J A 経済連

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
岩手県乳質改善協議会	委員 酪農経営指導団員	畜産研究所長 家畜飼養研究室長	J A 経済連
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	農産部長	J A 経済連
いわて純情米良質・良食味生産コンクール	審査委員長	農産部長	J A 経済連
酪農経営研究会	審査委員	畜産研究所長	J A 経済連
和牛改良専門委員会	委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長 〃 上席専門研究員	J A 経済連
J A 岩手県教育審議会	委員	所長	岩手県農業協同組合中央会
日本農業賞岩手県代表審査委員	委員長	所長	岩手県農業協同組合中央会
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物) (畑作物) (蚕 繭) (果 樹) (園芸施設) (任 意)	委員 委員 委員 委員 部会長 委員 委員	水田作研究室長 病理昆虫研究室長 野菜畑作研究室長 病理昆虫研究室長 果樹研究室長 南部園芸研究室長 生産工学研究室長	N O S A I 岩手
農業共済地域対応強化対策協議会地域集団引受 推進専門部会	委員 委員	水田作研究室長 果樹研究室長 病理昆虫研究室長	N O S A I 岩手
北上市小菊生産振興協議会	構成員 推進専門班構成員	花き研究室長 専門研究員	J A 北上市、J A 和賀中央、 北上農業改良普及センター
岩手県牛乳普及協会	行事開催実行委員	家畜飼養研究室長	牛乳普及協会
岩手県経営構造対策推進委員会	委員	副所長	岩手県農業会議
岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会	幹事	農業経営研究室長	岩手県農業会議
農林統計協会二戸支部	会員	県北農業研究所次長	岩手農林統計情報事務所 二戸出張所
東北畜産学会	評議員 評議員	畜産研究所長 畜産研究所次長	東北畜産学会
東北畜産学会学会賞候補者選考委員会	選考委員	畜産研究所長	東北畜産学会

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
土壌保全調査事業全国協議会	幹事	土壌作物栄養研究室長	日本土壌協会
岩手県植物防疫協会	運営幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事	病害虫部長 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 病理昆虫研究室長 飼料生産研究室長	植物防疫協会
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員	水田作研究室長	日本植物調節剤研究協会 東北支部
イラン国ゴルガン平原かんがい排水及び 農業開発計画調査作業監理委員会	委員	土壌作物栄養研究室長	国際協力事業団(JICA)
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定 委員会	委員 委員	水田作研究室長 野菜畑作研究室長	農産物改良種苗センター
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員	飼料生産研究室長	新農業機械実用促進株
岩手県畜産会	理事幹事 非常勤コンサルタント	畜産研究所長 家畜飼養研究室長 家畜工学研究室長	(社)岩手県畜産会
全国和牛登録協会産肉能力検定委員会	参与 参与	畜産研究所長 種山畜産研究室長	(社)全国和牛登録協会
全国和牛登録協会県支部評議委員会	委員	畜産研究所長	(社)全国和牛登録協会
直接検定に関わる検討委員会	委員	種山畜産研究室 上席専門研究員	(社)全国和牛登録協会
肉用子牛生産者補給金制度岩手県種別判定委員会	委員	家畜飼養研究室長	(社)岩手県農畜産物価格 安定基金協会
馬淵川沿岸地区畑地かんがい水質検討委員会	委員	生産環境部長	(社)畑地農業振興会
革新的農業廃液処理技術検討会	委員	生産環境部長	(財)残留農薬研究所
(財)岩手生物工学研究センター評議委員会	評議員	所長	(財)岩手生物工学研究 センター
(財)岩手生物工学研究センター中核研究員 選考委員会	委員	所長	(財)岩手生物工学研究 センター
(財)岩手生物工学研究センター研究推進委員会	委員	所長	(財)岩手生物工学研究 センター

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
産学官連携技術開発中央支援事業 「食品の安全な保蔵と流通技術」部会	委員	保鮮流通技術研究室長	(財)食品産業センター
新需要穀類生産・流通体制確立事業 品種等データベース情報委員会兼品種特性解析 システム開発委員会	委員	東北農業研究所長	(財)農産業振興奨励会
産地・実需者等連携強化支援委員会	委員	やませ利用研究室長	(財)農産業振興奨励会

## VI 職員研修



### 1 大学院派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研究内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 村上 和史	企画経営情報部 農業経営研究室	基盤整備事業地区における水田作経営体の成長過程 【H14.3 農学博士取得】	岩手大学大学院 連合農学研究科	H11～H13

### 2 海外派遣・研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容等	派遣先	派遣期間
所長 萩原 武雄		岩手県海外技術研修員受入れ事業による 専門家派遣	中国黒龍省 東北農業大学	13. 8.18 ～13. 8.30
主任専門研究員 佐々木 力	農産部 水稻育種研究室	岩手県海外技術研修員受入れ事業による 専門家派遣	中国黒龍省 東北農業大学	13. 8.18 ～13. 8.30
首席専門研究員 兼室長 神山 芳典	農産部 水稻育種研究室	平成13年度第18回アジア太平洋地域雑草学会 及び中国農業事情調査	中国 北京、西安	13. 5.28 ～13. 6. 2
室長 作山 一夫	園芸畑作部 野菜畑作研究室	岩手県農協大型野菜・菌床しいたけ経営者協 議会海外研修会	中国 青島、北京	13. 9.12 ～13. 9.18
室長 築地 邦晃	生産環境部 環境保全研究室	平成11年度 JICA 事業受入れ技術研修員のフォ ローアップ及び農業環境セミナーの講演	ハンガリー国 チョンラット植物土壌 保全室	13.10.21 ～13.11. 3
主任専門研究員 後藤 純子	病害虫部 病理昆虫研究室	平成11年度 JICA 事業受入れ技術研修員のフォ ローアップ及び農業環境セミナーの講演	ハンガリー国 チョンラット植物土壌 保全室	13.10.21 ～13.11. 3
農産部長 佐々木 忠勝	農産部	委託研究「イネの遺伝子機能 - 圃場インターフ ェース型シミュレーターの開発」に関わる調査 と情報収集	タイ国 チェンマイ大学 他	14. 1.29 ～14. 2. 4
専門研究員 高橋 真博	農産部 水稻育種研究室	委託研究「イネの遺伝子機能 - 圃場インターフ ェース型シミュレーターの開発」に関わる調査 と情報収集	タイ国 チェンマイ大学 他	14. 1.29 ～14. 2. 4

### 3 国内研修への派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 小野寺 健一	農産部 生産工学研究室	依頼研究員 汎用水田における排水促進のためのほ場整備 技術について	独立行政法人 農業工学研究所	13. 8. 1 ～13.10.31
専門研究員 平賀 昌晃	生産環境部 環境保全研究室	依頼研究員 有用植物による窒素成分の水質浄化システム に関する研究手法及び分析技術の習得	独立行政法人 農業 技術研究機構 中央 農業総合研究センター	13.10. 1 ～13.10.28
専門研究員 猫塚 修一	病害虫部 病理昆虫研究室	依頼研究員 リンゴ紫紋羽病の生態研究手法及び本病原菌 に感染する二本鎖 RNA ウイルスを用いた生物 防除技術の習得	独立行政法人 農業環境技術研究所	14. 1. 4 ～14. 3.29

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 阿部 弘	農産部 応用生物工学 研究室	独立行政法人農業技術研究機構 短期集合研修 農林水産試験研究のための統計的手法 (基礎編)	農林水産技術会議	13.11.5 ~13.11.9
専門研究員 中條 眞介	農産部 水稻育種研究室	独立行政法人農業技術研究機構 短期集合研修 農林水産試験研究のための統計的手法 (応用編)	農林水産技術会議	13.11.12 ~13.11.16
主任専門研究員 鈴木 哲	園芸畑作部 果樹研究室	農業中核研究員養成研修 試験研究の企画、立案、進行管理 試験研究成果の普及への伝達 等	農林水産技術会議	14.3.5 ~14.3.7
主任専門研究員 伊藤 美穂	生産環境部 環境保全研究室	農業中核研究員養成研修 試験研究の企画、立案、進行管理 試験研究成果の普及への伝達 等	農林水産技術会議	14.3.5 ~14.3.7
主任専門研究員 伊勢 智宏	企画経営情報部 企画情報室	専門家養成派遣研修 シスコネットワークングアカデミー	岩手県立大学	13.5.8 ~13.7.5 (週3回)
専門研究員 中條 眞介	農産部 水稻育種研究室	平成13年度放射線取扱主任者試験受験 【合格】	原子力安全技術センター(主催)	13.8.22 ~13.8.23
専門研究員 長谷川 義孝	農産部 水田作研究室	第206回第1種放射線取扱主任者講習 【第1種放射線取扱主任者免状交付】	日本アイソトープ協会(主催)	13.9.3 ~13.9.7
主任専門研究員 大志田 建男	農産部 生産工学研究室	トラクター免許取得研修	農業大学校	13.10.22 ~13.10.26
主任専門研究員 大里 達朗	農産部 生産工学研究室	産業用無人ヘリコプター研修会	農業大学校	13.11.5 ~13.11.20
技師 上山 純子	生産環境部 保鮮流通技術 研究室	第46回食品技術講習会 食品の物理機能と健康、食品・バイオ分野の 微細計測技術	独立行政法人 食品総合研究所	13.8.28 ~13.8.31
技師 上山 純子	生産環境部 保鮮流通技術 研究室	第1種圧力容器取扱作業主任者講習 第1種圧力容器の構造及び取扱、関係法令	岩手県ボイラー協会 (主催)	14.2.22 ~14.2.23
主任専門研究員 大和 貢	畜産研究所 家畜飼養研究室	ウイラムマイク-農業研究所集中トレーニング 育成期~成牛までの飼養管理全般について	北海道北見市 モリスポーツワールド	13.11.11 ~13.11.16
技能員 竹田 政則	畜産研究所 総務部	高性能農業機械整備技術研修 農業機械の保守管理及び修理技術	農林水産省 農林水産研修所	14.1.21 ~14.2.12
技能員 清水 賢一	県北農業研究所 総務部	農作業安全研修	農林水産省 農林水産研修所	113.6.26 ~13.6.29

#### 4 所内セミナー等

名 称	開催期日	内 容	参集人員
〔本 部〕 公開セミナー	13. 4. 19	「私の経営体験」 阿部 淳也（岩手阿部製粉株式会社 代表取締役社長）	97名
	13. 4. 19	「研究成果発表会」 農業研究センター職員	85名
技術セミナー	13. 9. 2	「恵み豊かないわたの食材」 基調講演：梅津 末子（料理研究家、食の匠認定委員） 事例発表：大竹 幾子（久慈農業改良普及センター）	75名
〔畜産研究所〕 公開セミナー	13. 8. 24	「胚移植技術をもう一度考える」 西貝 正彦（（有）那須イー・ティ研究所 所長）	93名
〔県北農業研究所〕 ほうれんそうセミナー	13. 8. 31	経営実践事例に学ぶ！ 「すべてはここにある?!」 伊藤 正人（岩手県指導農業士） 岩脇 ヨシエ（岩手県農業賞受賞者）	120名
岩手県オリジナル水稲品種 「岩南 16 号」栽培研修会	13. 8. 31	農業研究センター職員等	103名
雑穀セミナー	13. 9. 1	「岩手の雑穀に期待する」 - 21 世紀の食糧と環境を見ずえて - 嘉田 良平（農林水産省農林水産政策研究所 政策研究調整官）	70名



## VII 人事、予算、財産



1 岩手県農業研究センター予算（2月補正現計）

（単位：千円）

区 分	（内 訳）	予 算 額
<b>【農業費】</b>		
人件費（本部・県北）		1,049,889
庁舎管理費（本部）		130,377
庁舎管理費（ISO14001認証取得関連）		1,644
ほ場管理費（本部）		66,658
ふれあい公園管理運営費		24,183
庁舎管理費（県北）		32,487
ほ場管理費（県北）		5,785
施設整備費（旧醸品質評価分室解体費）		34,125
試験研究費（国庫助成、委託試験等）		151,333
（1）特定研究開発等促進事業	65,600	
（2）地域先端技術等研究開発促進事業	12,800	
（3）植物防疫研究費	26,751	
（4）土壌対策研究費	9,024	
（5）農業関係試験研究委託事業	17,309	
（6）民間委託試験研究費	19,849	
高生産性農業新技術開発促進研究費（県単研究費）		53,233
（1）基盤的・先導的農業技術開発研究事業	16,900	
（2）バイオテクノロジー実用化事業	10,989	
（3）先端的農業技術実用化研究事業	15,992	
（4）中山間地域活性化戦略研究事業	1,261	
（5）農業新技術緊急開発実用化推進研究事業	4,001	
（6）農業新技術現地実用化開発・実証研究事業	4,090	
情報プロジェクト研究事業		1,855
令達事業（本部）		113,225
令達事業（県北）		53,034
合 計		1,717,828
<b>【畜産業費】</b>		
人件費（畜産）		577,696
庁舎管理費		52,800
飼育管理費		88,964
種山畜産研究室管理費		102,463
外山畜産研究室隔障物整備事業		11,004
畜産研究所施設整備事業		50,543
試験研究費（国庫助成、委託試験等）		29,629
（1）特定研究開発促進事業	23,400	
（2）地域先端技術共同研究開発促進事業	3,000	
（3）農業関係試験研究委託事業	3,229	
高生産性畜産新技術開発促進研究費（県単研究費）		19,000
（1）基盤的・先導的畜産技術開発研究事業	11,300	
（2）バイオテクノロジー実用化研究事業	2,800	
（3）先端的畜産技術実用化研究事業	4,000	
（4）畜産新技術現地実用化・実証研究事業	900	
令達事業		96,815
合 計		1,028,914
全 体 計		2,746,742

2 建物、用地 (H13.4.1)

	用 地 (ha)							建物 (㎡)		
	耕 地				小 計	林 野 等	施 設 用 地	総 面 積	棟 数	延 面 積
	水 田	畑	樹 園 地	採 草 放 牧 地						
本 部	30.2	19.2	21.3		70.7		41.1	111.8	64	19,335
北 上 主な施設面積(内数)	25.8	18.0	21.3		65.1		36.2	101.3	33	11,860
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査研究棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
ふれあい公園							1.5	1.5	2	1,866
旧銘柄米開発研究室	4.4	0.7			5.1		2.2	7.3	26	4,805
南部園芸研究室		0.5			0.5		1.2	1.7	3	804
畜産研究所		136.0		1,534.6	1,670.6	399.4	37.8	2,107.8	181	36,427
滝沢		67.7		14.2	81.9	50.1	32.9	146.9	124	23,299
外山畜産研究室		5.8		1,470.7	1,476.5	241.3	4.5	1,722.3	42	6,676
種山畜産研究室		62.5		49.7	112.2	108.0	0.4	220.6	15	6,452
県北農業研究所	1.0	10.7	0.3		12.0		8.2	20.2	16	6,746
合 計	31.2	165.9	21.6	1,534.6	1,753.3	399.4	87.1	2,239.8	261	62,508

### 3 種苗登録、特許等

#### (1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
りんどう	いわて乙女	第 544 号	S59. 3.19
りんどう	ジョバンニ	第 1,101 号	S61. 8. 8
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100 号	S61. 8. 8
大豆	緑良	第 2,517 号	H 2.12. 5
大豆	緑翠	第 2,516 号	H 2.12. 5
りんどう	アルピレオ	第 2,553 号	H 2.12. 5
りんどう	マシリイ	第 3,073 号	H 4. 2.29
りんどう	ホモイ	第 3,074 号	H 4. 2.29
ぶどう	エーデルアーリー	第 3,404 号	H 5. 3.10
りんご	きおう	第 3,947 号	H 6. 3.14
りんどう	アルタ	第 4,085 号	H 6. 8.22
稲	かけはし	第 4,410 号	H 7. 3.23
稲	ゆめさんさ	第 4,411 号	H 7. 3.23
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999 号	H 8. 3.18
りんどう	あおこりん	第 7,713 号	H12. 2.22
りんどう	ももこりん	第 7,714 号	H12. 2.22
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715 号	H12. 2.22
大豆	星めぐり	第 7,756 号	H12. 2.22
稲	吟ぎんが	出願番号第 11,863 号	出願 (H11. 6.30)
スターチス	アイスター モーブ	出願番号第 11,900 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ラベンダー	出願番号第 11,901 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ライラックブルー	出願番号第 11,902 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ロージーピンク	出願番号第 11,903 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ライラック	出願番号第 11,904 号	出願 (H11. 7.23)
稲	ぎんおとめ	出願番号第 12,431 号	出願 (H12. 3.14)
大豆	ちゃげ丸	出願番号第 12,717 号	出願 (H12. 8.24)
大豆	ぷっくらこ	出願番号第 12,718 号	出願 (H12. 8.24)
稲	いわてっこ	出願番号第 13,617 号	出願 (H13. 7. 3)
きく	アイمامアーリーイエロー	出願番号第 14,520 号	出願 (H14. 3.15)
きく	アイمامホワイト	出願番号第 14,521 号	出願 (H14. 3.15)
きく	アイمامピンク	出願番号第 14,522 号	出願 (H14. 3.15)
きく	アイمامイエロー	出願番号第 14,523 号	出願 (H14. 3.15)
きく	アイمامホワイトピーチ	出願番号第 14,524 号	出願 (H14. 3.15)

#### (2) 特許、実用新案

名 称	出願番号・年月日	登録番号・年月日
米を原料とした飲料の製造方法	2- 71571(H 2. 3.19)	1990534(H7.11.8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	9-344679(H 9. 4. 9)	(出願中)
マクロシードペレットの散布装置	9-106758(H 9. 4. 9)	(出願中)
遺伝子組み替えりんご及びその作出法	11- 83985(H11. 3.26)	(出願中)

#### 4 表彰

表彰内容(表彰団体)	表彰の対象者(組織)	表彰の対象となった研究成果等	年月日
研究功労賞(全国蚕系関係試験研究運営協議会)	病害虫部 主任専門研究員 阿部 信治	蚕桑技術の改良発達に対する貢献	13. 5. 9
日本農業気象学会東北支部功労賞	農産部長 佐々木忠勝	やませ気象、水稲冷害回避等へ尽力した功績	13. 7.26
農業機械学会東北支部功績賞	所 長 荻原 武雄	東北支部活動に尽力した功績	13. 8.21
県農林水産部長表彰(岩手県)	病害虫部 病理昆虫研究室長 橋本 進 主任専門研究員 阿部 信治	中山間地における天蚕繭の効率的な大量安定生産技術・操業技術の確立	13.11.22
県行政品質向上運動優秀賞	実験的業務運営改善同好会(農産部応用生物工学研究室)	業務改善改革への取り組み	14. 2.15

5 職員名簿（平成13年4月1日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
所 長	荻原 武雄	専門技術員室	
副所長	藤田 昭次	首席専門技術員	櫻井 一男
		上席専門技術員	高橋 典子
総務部		上席専門技術員	藤原 りつ
部 長	三浦 啓一	上席専門技術員	小笠原義明
主幹兼課長	菊池 正隆	上席専門技術員	菊池 利行
副主幹兼課長補佐	高山 克彦	上席専門技術員	及川 一也
主 事	高橋 右子	上席専門技術員	三浦 正弘
主 事	横澤 嘉宗	上席専門技術員	工藤 英夫
主 事	麥沢 秋文	上席専門技術員	高橋 英明
管理課長	澤口 義信	上席専門技術員	高橋 晋
副主幹兼課長補佐	佐藤 英輔	専門技術員	佐藤 正昭
主 任	浅沼 卓雄	専門技術員	鈴木 良則
運転技士兼技能員	中島 秋人		
主任技能員	駒場正一郎	農産部	
主任技能員	柏葉 妙子	部 長	佐々木忠勝
技能員兼運転技士	佐藤 広昭	水田作研究室長	高橋 政夫
技能員	菊地 徳章	専門研究員	小田中温美
技能員	菅野 輝彦	専門研究員	吉田 宏
技能員	西野 哲仁	専門研究員	長谷川義孝
技能員	小黒澤清人	専門研究員	尾形 茂
技能員兼運転技士	猪澤 哲哉	技 師	白井 智彦
技能員兼運転技士	藤根 寛道	首席専門研究員兼水稻育種研究室長	神山 芳典
		主任専門研究員	佐々木 力
企画経営情報部		専門研究員	仲條 眞介
部 長	丹野 恵一	専門研究員	高橋 真博
企画情報室長	茂木 善治	専門研究員	田村 和彦
上席専門研究員	吉田 力	応用生物工学研究室長	阿部 潤
主任専門研究員	伊勢 智宏	専門研究員	阿部 弘
主任専門研究員	横田 紀雄	専門研究員	星 伸枝
専門研究員	稲田 聖児	技 師	安ヶ平紀子
技 師	羽田えみ子	生産工学研究室長	鶴田 正明
農業経営研究室長	佐藤 隆	主任専門研究員	大里 達朗
上席専門研究員	細田 耕平	主任専門研究員	八重樫耕一
主任専門研究員	菅原 豊司	主任専門研究員	大志田建男
主任専門研究員	佐藤 嘉彦	主任専門研究員	小野寺健一
主任専門研究員	中森 忠義		
主任専門研究員	村上 和史		
主任専門研究員	井村 裕一		

職名	氏名	職名	氏名
園芸畑作部		病害虫部	
部長	佐々木健治	部長	鈴木 繁実
果樹研究室長	小野田和夫	病害虫防除課長	平野 稔
上席専門研究員	佐々木 仁	企画指導係長(課長)	平野 稔
主任専門研究員	鈴木 哲	主任	三熊 有孝
専門研究員	佐藤 秀継	技師	細川 健
技師	河田 道子	技師	齋藤誉志美
技師	奥平麻里子	発生予察係長	中南 博
野菜畑作研究室長	作山 一夫	主任	漆原 昌二
主任専門研究員	沼田 聡	技師	佐藤由美子
主任専門研究員	有馬 宏	技師	岩館 康哉
専門研究員	萩内 謙吾	県北農業研究所駐在	
専門研究員	山田 修	県北地区主任	伊東 芳樹
専門研究員	高橋 拓也	技師	富永 朋之
技師	門間 剛	技師	田替 美佳
花き研究室長	児玉 勝雄	病理昆虫研究室長	橋元 進
専門研究員	内藤 善美	主任専門研究員	阿部 信治
専門研究員	葛巻美知子	主任専門研究員	藤沢 巧
専門研究員	渡辺 愛美	主任専門研究員	勝部 和則
技師	小田島 雅	主任専門研究員	後藤 純子
南部園芸研究室長	菅原 和仁	専門研究員	川村 亮二
主任専門研究員	佐藤 成利	専門研究員	猫塚 修一
専門研究員	土田 泰輔		
生産環境部		畜産研究所	
部長	武田 眞一	所長	千田 高春
環境保全研究室長	築地 邦晃	次長	小野寺 勉
主任専門研究員	伊藤 美穂	次長	高橋 達典
専門研究員	高城 保志	主幹兼総務課長	金崎 義久
専門研究員	平賀 昌晃	副主幹兼課長補佐	三浦 茂範
技師	菅 千穂子	主任	千葉多香子
土壌作物栄養研究室長	小野 剛志	主事	福士 成幸
主任専門研究員	中野 亜弓	運転技士兼技能員	中村 長三
専門研究員	高橋 正樹	運転技師兼技能員	吉田 正弘
専門研究員	高橋 良学	主任技能員	伊藤 仁吉
技師	小田島ルミ子	主任技能員	佐々木紀好
保鮮流通技術研究室長	千葉 行雄	主任技能員	室坂 光榮
専門研究員	菊地 淑子	主任技能員	岩崎 春見
専門研究員	平淵 英利	主任技能員	小笠原幸一郎
技師	上山 純子	主任技能員	関村 武志
		技能員	石川 勝美
		技能員	米沢 健治
		技能員	三上 宏
		技能員	小林 雄二
		技能員	右京 隆二
		技能員	竹田 政則
		技能員	荒木田俊一
		技能員	上野 由克

職 名	氏 名	職 名	氏 名
畜産研究所		専門研究員	西田 清
技能員	中村 健	専門研究員	高畑 博志
技能員	菅原 薫	主任技能員	菊池 敬郎
技能員	永洞 俊司	主任技能員	斎藤 和一
技能員	水澤 博征	技能員	佐藤 洋貴
技能員	鷺見 義信	技能員	松本 徹
技能員	細野 貴樹	技能員	後藤 克明
技能員	鳴海 茂揮		
技能員	谷地館 透	東北農業研究所	
技能員	上澤 賢輝	所 長	高橋 康利
家畜育種研究室長	小松 繁樹	次 長	仲谷 房治
主任専門研究員	藤原 哲雄	総務課長	坂本 弘
専門研究員	鈴木 賢	主 任	紺野 安彦
専門研究員	太田原健二	運転技士兼技能員	小滝 一男
専門研究員	吉田 登	運転技士兼技能員	日山千代司
家畜飼養研究室長	菊池 文也	技能員	清水 賢一
主任専門研究員	大和 貢	営農技術研究室長	新田 政司
専門研究員	山口 直己	主任専門研究員	大友 令史
専門研究員	濱戸もえぎ	主任専門研究員	高橋 昭喜
家畜工学研究室長	吉川 恵郷	技 師	松浦 拓也
主任専門研究員	鈴木 暁之	産地育成研究室長	茂市 修平
主任専門研究員	野口 龍生	主任専門研究員	菅原 英範
専門研究員	児玉 英樹	専門研究員	正部家 紫
飼料生産研究室長	川畑 茂樹	技 師	富田 典子
上席専門研究員	齋藤 節男	技 師	根田美和子
主任専門研究員	佐藤 直人	やませ利用研究室長	飯村 茂之
主任専門研究員	三浦賢一郎	専門研究員	長谷川 聡
(畜産課本務)	笹村 正	専門研究員	寺田 道一
首席専門研究員兼外山畜産研究室長	及川 稜郎	技 師	長島 智美
上席専門研究員兼室長補佐	大池 裕治	専門技術員	本田 純悦
主任専門研究員	村上 勝郎	専門技術員	高橋 好範
専門研究員	増田 隆晴		
専門研究員	小梨 茂		
技 師	伊藤 孝浩		
主任技能員	中村 長悦		
主任技能員	藤原 時夫		
技能員	工藤 明彦		
技能員	畠山 博文		
技能員	葉木澤一也		
種山畜産研究室長(次 長)	高橋 達典		
上席専門研究員兼室長補佐	菊池 雄		
主 任	菊池 馨行		
主任専門研究員	小田中誠彰		
主任専門研究員	遠藤 明人		



## 沿革

- 明治 31 年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治 34 年 農事試験場（3 部制：庶務・種芸・分析）を本宮村向中野（現盛岡市）に設置。  
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治 35 年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治 36 年 農事試験場に園芸部（4 部制）を新設。
- 大正 2 年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町（現水沢市）に設置。
- 大正 8 年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村（現江刺市）に設置。
- 大正 11 年 現蚕種製造所を蚕業試験場（4 係制：庶務・蚕種・試験・桑園）と改称。
- 大正 12 年 農事試験場に病虫部（5 部制）を新設。  
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村に移転（滝沢は支場となる）。
- 昭和 2 年 種鶏場を岩手郡巻掘村（現玉山村）に設置。
- 昭和 5 年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。  
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和 10 年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎（現遠野市）に設置。
- 昭和 12 年 種畜場本場を滝沢村に移転。玉山は外山支場となる。  
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和 13 年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和 15 年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和 21 年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村（現一戸町）に設置。
- 昭和 22 年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和 23 年 種鶏場を紫波郡日詰町（現紫波町）に移転。
- 昭和 25 年 農事試験場を農業試験場（4 部制：総務・営農・農産・畜産）と改称。  
農業試験場畜産部を種畜場と併設。  
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町に設置。  
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村（現久慈市）、下閉伊郡豊間根村（現山田町）及び気仙郡小友村（現陸前高田市）に委託設置。
- 昭和 26 年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村（現陸前高田市）に設置。  
農業試験場に遠野試験地が国から移管。  
農業試験場に農業経営研究部門設置。  
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和 28 年 蚕業試験場を水沢市柳馬場に移転。
- 昭和 30 年 農業試験場本場機構改革（8 部制：庶務・種芸・化学・園芸・病虫・経営・農機具・畜産）、  
蚕業試験場機構改革（4 部制：庶務・栽桑・養蚕・病理化学）。
- 昭和 32 年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和 36 年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和 37 年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場（3 部制：庶務・果樹・  
蔬菜花卉）を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。  
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。  
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。  
農業試験場遠野試験地及び沿岸試験地を廃止。  
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和 38 年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和 39 年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和 41 年 農業試験場本場機構改革（4 部制：庶務 2 係・技術・環境・経営）
- 昭和 44 年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和 46 年 農業試験場本場機構改革（科制導入。技術部：水田作科・畑作科・作業技術科、環境部：施肥改善科・  
土壌改良科・病害虫科、経営部：経営科・流通経済科）。  
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。  
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。  
園芸試験場に環境部を設置。

- 昭和 46 年 園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。  
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。
- 昭和 48 年 蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
- 昭和 51 年 農業試験場作業機械科を農業機械科に改称。
- 昭和 53 年 蚕業試験場六原試験地を廃止。  
蚕業試験場養蚕部、病理科学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
- 昭和 56 年 園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
- 昭和 57 年 蚕業試験場整備計画実施（～昭和 58 年）。
- 平成 3 年 農業試験場に水稻育種科を設置。
- 平成 8 年 畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
- 平成 9 年 農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。  
農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。  
農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。  
農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。  
畜産試験場を畜産研究所に改組。  
畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。  
県北農業研究所に専門技術員を配置。
- 平成 10 年 園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置（繭検定所を廃止）。  
センター本部に専門技術員を配置。
- 平成 11 年 企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。
- 平成 13 年 病害虫部を新設し、病害虫防除課及び病理昆虫研究室を設置。  
銘柄米開発研究室、蚕桑技術研究室繭品質評価分室を廃止。  
南部園芸研究室を陸前高田市高田町から同市米崎町へ移転。

< 所 在 >

岩手県農業研究センター		
本 部	〒024-0003	岩手県北上市成田 20-1 Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/">http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/</a>
( 南部園芸研究室 )	〒029-2206	岩手県陸前高田市米崎町字川崎 101 Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村字砂込 737-1 Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327
( 外山畜産研究室 )	〒028-2711	岩手県岩手郡玉山村藪川字大の平 40 Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
( 種山畜産研究室 )	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字飼沢 30 Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内 23-9-1 Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011

平成13年度 岩手県農業研究センター年報  
平成14年6月 発行

岩手県農業研究センター

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1

TEL (0197) 68-2331 FAX (0197) 68-2361

IWATE-AGRICULTURAL RESEARCH CENTER

Narita20-1, Kitakami Iwate 024-0003, Japan

印刷所 鈴木印刷株式会社

〒023-1101 岩手県江刺市岩谷堂字松長根15-5

TEL (0197) 35-4515 FAX (0197) 35-4518